

令和5年度 日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告Ⅱ

身体リテラシー（Physical Literacy） 評価尺度の開発

— 第3報 —

公益財団法人 日本スポーツ協会
スポーツ医・科学委員会

身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の開発 －第 3 報－

研究班長	内藤 久士（順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科）
研究班員	伊藤 静夫（東京マラソン財団），岡出 美則（日本体育大学スポーツ文化学部）， 春日 晃章（岐阜大学教育学部），鈴木 宏哉（順天堂大学スポーツ健康科学部）， 鄧 鵬宇（順天堂大学スポーツ健康科学部）， 松尾 哲矢（立教大学スポーツウエルネス学部），森丘 保典（日本大学スポーツ科学部）， 青野 博（日本スポーツ協会スポーツ科学研究室）
研究協力者	遠山 健太（順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科）， 松永 美咲（順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科）
事務局	松田 郁加（日本スポーツ協会 スポーツ科学研究室）， 伊藤 奈津（日本スポーツ協会 スポーツ科学研究室）

目 次

はじめに	内藤 久士	3
1. 我が国におけるPhysical Literacyに関する実態調査	鈴木 宏哉ほか	4
1-1. 高校生におけるPhysical Literacyの因子構造と関連要因		4
1-2. Physical Literacyの年代別比較		14
1-3. 小中学生を対象とする実態調査（予備調査1）		17
1-4. 小中学生を対象とする実態調査（予備調査2）		46
2. Physical Literacy評価尺度試案と学習指導要領の対応関係	遠山 健太ほか	62
3. まとめ	内藤 久士	75
参考資料～プロジェクト会議 議事録～		78

はじめに

内藤 久士¹⁾

身体活動の促進要因の1つとして世界的に身体リテラシー (Physical Literacy) が着目されている。日本においても、令和4年度からの第3期スポーツ基本計画における、子供・若者の日常的な運動習慣の確立と体力の向上における今後の施策目標に「生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力(いわゆるフィジカルリテラシー)」という文言が盛り込まれた。しかし、日本ではこれを測るための評価尺度は未だ確立されてはいない。そこで、本プロジェクト研究では令和3年度から3年間、日本において活用できる身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の開発を目標に取り組んだ。

令和3～4年度での2年間では、国内外の身体リテラシー (Physical Literacy) に関わる議論について整理し、身体リテラシー (Physical Literacy) の捉え方とこれまでに用いられている評価尺度について整理した。その結果、日本における評価尺度開発の観点からは、学校教育・体育(学習指導要領)、体力テスト、アスリート育成システム、地域スポーツの視点にも配慮して身体リテラシー (Physical Literacy) を捉えることは重要であり、その評価尺度には身体・心理(感情)・認知・社会の4領域を含むことが妥当であろうとのコンセンサスを得た。そしてさらに議論を重ね、主にヨーロッパで展開されている4領域16問からなる質問紙 (Physical Literacy for life: PL4L) を日本語に翻訳した和訳版PL4Lを作成し、日本の高校生および18～64歳までの成人の身体リテラシー (Physical Literacy) の実態を調査し、成人についてはその妥当性を確認した。また、子ども(小中学生)を対象とした場合には、オーストラリアで開発されたPhysical Literacy in

Children Questionnaire (PL-C Quest) を参考に、身体的領域、心理的領域、認知的領域、社会的領域の4領域39項目からなる評価尺度をもった日本版身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の試案を作成した。

これらをふまえ、令和5年度は最終年度として、まず高校生のデータに対する追加分析を行い、PL4L和訳版が身体リテラシー (Physical Literacy) の身体領域、感情領域、認知領域、社会領域の4領域を測定する尺度として妥当性を有しているか、またPL4L和訳版の因子妥当性、および身体活動量やスポーツクラブ・運動部活動への所属の有無との関連について検討した。そして、令和4年度に試作された日本の子ども(小中学生)を対象とした身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の妥当性を検証するため、まず小学校5年生および中学校2年生を対象に小規模な調査を行った。さらに、全国9都県の小学校19校の5年生、7都県の中学校11校の2年生を対象に、より大きなサンプルサイズでの調査を行い、実際の現場で実施する場合の問題等についても検証した。さらに、これら実際の質問紙による調査とは別に、身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度試案と学習指導要領の対応関係についての検証も行った。

なお、“Physical Literacy”を日本語でどのように表記するのかが本プロジェクトの重要な課題であったが、議論を重ねたものの最終的な結論を導くには至らなかった。そのため本年度も、“身体リテラシー”、“フィジカルリテラシー”、“Physical Literacy”、あるいはそれらを併記するなど、表記方法は統一されていないことをご了解いただきたい。また、本年度は計6回の研究プロジェクト会議が開催されたが、そこでの議論は全て議事録として最後にまとめた。参考資料としてご覧いただきたい。

1) 順天堂大学大学院

1. 我が国におけるPhysical Literacyに関する実態調査

1-1. 高校生におけるPhysical Literacyの因子構造と関連要因

鈴木 宏哉¹⁾ 松永 美咲²⁾

1. はじめに

一般の人々向けに開発されたPhysical Literacy (PL) の自己評価尺度に、Physical literacy for life (PL4L) があるが、本プロジェクト研究では、令和3年度に、18歳から65歳までの男女4,000名を対象としたオンライン調査を実施し、令和4年度には、高校生男女1,000名を対象にオンライン調査を実施した。

成人を対象とした分析では、和訳版PL4LがPLの4領域を測定する尺度として妥当性を有していることを確認した(報告書第2報より)。そのうえで外的妥当性を保証するために、18歳未満の対象者に対しても適用可能かを検討する必要がある。本稿では、高校生における和訳版PL4Lの因子妥当性を検討した。さらに、オンライン調査では身体活動量やスポーツクラブ・運動部活動への所属の有無についても調査しているため、PLとの関連についても検討した。

2. 方 法

2.1 分析に用いた調査の概要

オンライン調査は2023年3月10日～16日に実施し、調査会社(株式会社クロス・マーケティング)の登録モニターに対して実施した。全国47都道府県に在住する高校生1,000名を対象に実施したが、高校生の登録モニターが1,000名に満たなかったため、283名は保護者に調査を依頼した。今回の分析は、高校生本人から回答が得られた717名を対象に分析を行った。

2.2 分析に用いた調査項目

分析に用いた調査項目はPhysical Literacy (和訳版PL4L)、学年、スポーツクラブ・運動部活

動への所属の有無、身体活動、中高強度の身体活動についての設問であった。和訳版PL4Lは、身体領域6問、感情領域4問、認知領域3問、社会領域3問の合計16問、4領域で構成されており、各質問について自身に最もあてはまる回答を1つ選ぶ。そしてレベル1を0点、レベル2を1点、レベル3を2点として、各領域における合計点を算出した。また、各領域の合計点は、得点率(領域の合計点を領域の最高合計点で除した百分率)に換算し、4領域の得点率の合計を、領域数の4で割った値をTotal得点率とした。

スポーツクラブ・運動部活動への所属の有無は、「あなたは現在、スポーツクラブや運動部活動に所属していますか。」に対して、所属していると回答した対象者を所属あり、そうでない対象者を所属なしとした。身体活動は、「あなたは、過去7日間のうち、早歩きなどの運動や各種スポーツのような身体活動を30分以上行った日数は何日ですか。」の質問に、0日と回答した対象者を身体活動なし、1日以上の対象者を身体活動ありとした。また、身体活動について、0～2日と回答した対象者を「週3日以上身体活動なし」、3日以上を対象者を「週3日以上身体活動あり」とした。さらに、平日、休日の身体活動について、「普段の1週間についてお伺いします。学校の保健体育の授業以外で、1日にどれくらいの時間、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをしていますか。月曜日～日曜日まですべて、『分』でお答えください。」という質問で、曜日別に学校の保健体育の授業以外での身体活動時間を尋ね、月曜日から金曜日を合計し5で割ったものを平日の身体活動時間(分/日)、土曜日と日曜日を合計し2で割ったものを休日の身体活動時間(分/日)とした。

中高強度の身体活動は、「あなたは、過去7日間に、1日あたり少なくとも合計60分間の『身体活動』をした日は何日ありましたか。※ここでいう身体活動

1) 順天堂大学

2) 順天堂大学大学院

とは、心臓がドキドキしたり息切れしたりするような全ての活動のことで、スポーツや学校の授業、友達と遊ぶこと、学校への登下校も入ります。例えば、ランニング、早歩き、縄跳び、スケートボード、自転車、ダンス、水泳、サッカー、バスケットボールなどがあります。」の質問に、0日と回答した対象者を中高強度の身体活動なし、1日以上を対象者を中高強度の身体活動ありとした。また、中高強度の身体活動についても、0～2日と回答した対象者を「週3日以上の中高強度の身体活動なし」、3日以上を対象者を「週3日以上の中高強度の身体活動あり」とした。

2.3 分析方法

高校生における和訳版PL4Lの因子構造を検討するために、探索的因子分析を行った。因子抽出法には最尤法、因子回転法にはプロマックス法を用いた。因子数の決定には、固有値基準（1以上）と、仮説に従って因子数をいくつか固定して解釈可能な因子構造を検討した。また、PL4Lが仮定する4領域を潜在変数、それに属する各領域の項目を観測変数としてモデルを作成し、確認的因子分析を行った。モデルとデータの適合度の判定には、Goodness of fit index (GFI), Adjusted Goodness of Fit Index (AGFI), Comparative fit index

(CFI), Root mean square error of approximation (RMSEA)を用いた。

対象者のPLと、身体活動との関係を検討するために、Total得点率と、各領域の得点率、身体活動日数、中高強度の身体活動の日数、平日の身体活動時間、休日の身体活動時間の順位相関係数を算出した。対象者のスポーツクラブ・運動部活動への所属別（所属ありと所属なし）、身体活動別（身体活動ありとなし、週3日以上の中高強度の身体活動ありとなし、週3日以上の中高強度の身体活動ありとなし）に、PLを比較するため、対応のないt検定を行った。さらに、対象者の学年別にPLを比較するために、一元配置分散分析を行った。分析は全て性別に行った。全ての統計解析には、IBM SPSS Statistics 29を用い、 $p < 0.05$ を統計学的有意水準とした。

3. 結 果

分析したデータの基礎集計結果は表1に示した。

3.1 高校生における和訳版PL4Lの因子分析

因子分析に先立ち、PLの領域ごとの相関係数（各領域の得点率同士の順位相関）を算出した（表2）。Totalとの相関係数は、いずれも0.7～0.9であり、強い相関関係にあった。領域間の相関係数は、感

表1 分析データの基礎集計結果

質問内容	回答数	%
○あなたの性別をお知らせください		
1 男性	217	30.3
2 女性	500	69.7
3 その他	0	0.0
	全体	717
○あなたの学年をお知らせください		
1 高校1年生	210	29.3
2 高校2年生	255	35.6
3 高校3年生	252	35.1
	全体	717
○あなたは現在、スポーツクラブや運動部活動に所属していますか。		
1 いる	146	20.4
2 いない	571	79.6
	全体	717

質問内容		回答数	%
○あなたは、過去7日間のうち、早歩きなどの運動や各種スポーツのような身体活動を30分以上行った日数は何日ですか。			
1	0日	216	30.1
2	1日	66	9.2
3	2日	91	12.7
4	3日	86	12.0
5	4日	65	9.1
6	5日	75	10.5
7	6日	43	6.0
8	7日	75	10.5
全体		717	100
○最近7日間に、1日あたり少なくとも合計60分間の「身体活動」をした日は何日ありましたか。			
※ここでいう身体活動とは、心臓がドキドキしたり息切れしたりするような全ての活動のことで、スポーツや学校の授業、友達と遊ぶこと、学校への登下校も入ります。例えば、ランニング、早歩き、縄跳び、スケートボード、自転車、ダンス、水泳、サッカー、バスケットボールなどがあります。			
1	0日	291	40.6
2	1日	81	11.3
3	2日	90	12.6
4	3日	88	12.3
5	4日	35	4.9
6	5日	58	8.1
7	6日	40	5.6
8	7日	34	4.7
全体		717	100
○あなたの筋力（筋肉が力を発揮する能力）について最もあてはまるレベルをお答えください。			
1	【レベル1】日常生活の場面で、力を発揮することが難しい（例：買物袋を持ち運ぶことができない、起き上がることができない、座っている時に適切な姿勢を維持できないなど）	78	10.9
2	【レベル2】通常の身体活動の場面で、力を発揮することができる（例：日常的な家事作業や、腕立て伏せ、腹筋運動、懸垂運動など）	524	73.1
3	【レベル3】激しい身体活動の場面で、より大きな力を発揮することができる（例：重い物を持ち上げる、ウエイトトレーニングやサーキットトレーニングといった激しい身体活動など）	115	16.0
全体		717	100
○あなたのスタミナ（長時間にわたり身体活動を持続する能力）について最もあてはまるレベルをお答えください。			
1	【レベル1】軽い身体活動でも継続することが難しい（例：休憩を取りながらでないと階段を登ったり歩き回ることができないなど）	75	10.5
2	【レベル2】少し息がはずむような身体活動ができる（例：軽い荷物を運ぶ、一定のペースで走る／自転車をこぐなど）	452	63.0
3	【レベル3】身体的にきついと感じ、息がかなりはずむような身体活動ができる（例：重い荷物を運ぶ、エアロビクス、長時間にわたり速く走る／自転車をこぐなど）	190	26.5
全体		717	100
○あなたのある地点から別の地点へ移動する能力について最もあてはまるレベルをお答えください。			
1	【レベル1】人の助けを借りずに移動することが難しい（例：歩行のために補助が必要であるなど）	60	8.4
2	【レベル2】通常の身体活動場面で、さまざまな動作で移動できる（例：走る、跳ぶ、登るなど）	444	61.9
3	【レベル3】激しい身体活動の場面であっても、さまざまな動作で移動できる（例：試合やレースで走る、バスに乗るために疾走する、登りにくい壁を登るなど）	213	29.7
全体		717	100

質問内容	回答数	%
○あなたの用具を使用してある地点から別の地点へ移動する能力について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】用具を使用して移動することが難しい（例：自転車に乗ることができないなど）	84	11.7
2 【レベル2】通常の身体活動場面で、用具を使用して移動することができる（例：自転車、キックボード、スケートボード、スキーなど）	436	60.8
3 【レベル3】用具を使用した身体活動が難しい場面であっても、移動することができる（例：坂道で自転車をこぐ、難しいコースでスキーをするなど）	197	27.5
全体	717	100
○あなたのコーディネーション（調整）能力とバランス（平衡）能力について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】自分の動きを調整したりバランスをとったりすることが難しい（例：補助なしで立っていることができない）	85	11.9
2 【レベル2】通常の身体活動場面で、自分の動きを調整したりバランスをとったりすることができる（例：ダンスをする、平均台の上を歩く、体操をするなど）	486	67.8
3 【レベル3】難易度の高い身体活動場面であっても、自分の動きを調整したりバランスをとることができる（例：スピードのある振り付けでダンスをする、動く台の上でバランスをとる）	146	20.4
全体	717	100
○あなたの物を操作する能力について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動において、物を操作することが難しい（例：物を投げられない、キャッチできない）	85	11.9
2 【レベル2】通常の身体活動場面で、物を操作することができる（例：ボールを投げる／キャッチする／ドリブルする／キックする、バトンを回す、ボールを打つ）	486	67.8
3 【レベル3】難易度の高い身体活動場面であっても、物を操作することができる（例：試合でボールをコントロールする、物を操作しながら踊る）	146	20.4
全体	717	100
○あなたが身体活動を行う理由について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動を行う気にならない	220	30.7
2 【レベル2】身体活動を行うのは、他者からの承認、評価、報酬が得られるからである	231	32.2
3 【レベル3】身体活動を行うのは、喜び、楽しみ、自己実現が得られるからである	266	37.1
全体	717	100
○あなたの身体活動場面における（自分の能力を発揮できる）自信について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動を行う自信がない	147	20.5
2 【レベル2】通常の身体活動場面（例：自転車や徒歩による通勤・通学、スポーツ、フィットネスなど）であれば、自分ならできるという自信がある	457	63.7
3 【レベル3】身体活動を行うことが難しい場面（例：新しい、未知の状況、時間が無い、疲れているなど）であっても、自分ならできるという自信がある	113	15.8
全体	717	100
○あなたの身体活動場面における身体の変化（疲労や痛みなど）への気づきおよびその調整・制御について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動場面において自分が疲れていることに気づくのが苦手である	108	15.1
2 【レベル2】身体活動場面において自分が疲れていることがわかる	470	65.6
3 【レベル3】身体活動場面において様々な方法（例：ペース配分、呼吸のコントロールなど）で自分の疲労を管理できる	139	19.4
全体	717	100

質問内容	回答数	%
○あなたの身体活動に関連する感情（例：喜び、悲しみ、恐れ、怒りなど）とその結果としての行動の調整・制御について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動場面において自分の感情の変化に気づくのが苦手である	120	16.7
2 【レベル2】身体活動場面において自分の感情の変化を認識できる	417	58.2
3 【レベル3】身体活動場面において自分の感情をコントロールすることができる（例：ポジティブな考え方に意識を向ける、感情のまま行動する前に心を落ち着かせる）	180	25.1
全体	717	100
○あなたが身体活動に関する知識や情報（例：身体的、感情的、社会的、認知的なメリットなど）を知っているか、また、伝えることができるかについて最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動のメリット（効果）を理解していない	105	14.6
2 【レベル2】身体活動の一般的なメリット（効果）を理解している	436	60.8
3 【レベル3】さまざまな種類の身体活動（例：自転車や徒歩による通勤・通学、リズムカルに身体を動かす、各種スポーツなど）とそれぞれのメリット（効果）を関連づけることができる	176	24.5
全体	717	100
○あなたが身体活動の場面で遵守すべき規則、ガイドライン、原則、あるいは手続き（例：安全や衛生面のルール、試合中のルールなど。それらは、明示的なもの、口頭で言われるもの、あるいは暗黙の了解の場合がある）、また目標達成のために、その場で行われる計画的かつ臨機応変な意思決定や行動について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動に参加するためのルールや戦術を認識することが苦手である	143	19.9
2 【レベル2】行っている身体活動のルールや戦術を理解し守っている	400	55.8
3 【レベル3】自分が行う身体活動の場面や状況に合わせて、ルールや戦術を調整できる	174	24.3
全体	717	100
○あなたが身体活動において目標を設定して実行する能力（例：自転車や徒歩による通勤・通学のルートを計画する、エクササイズ計画を立てる、試合に勝つ）について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動において、計画を立てて自分の目標を達成することが苦手である	191	26.6
2 【レベル2】身体活動において、計画を立てて自分の目標を達成する方法を知っている	368	51.3
3 【レベル3】状況にあわせて自分の計画を柔軟に変えることができる（例：自宅でトレーニングするためにトレーニング計画を柔軟に変える、天候に応じて練習場所を変えるなど）	158	22.0
全体	717	100
○あなたの公平さや正義に関わる道徳的原理について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動において、公正であり、他者を尊重し、インクルーシブ（共に支え合う）であることが苦手である	100	13.9
2 【レベル2】身体活動において、公正であり、インクルーシブであろうとしている	452	63.0
3 【レベル3】身体活動において、他者の尊重、公正、インクルーシブの状況を改善に向かわせることができる	165	23.0
全体	717	100
○あなたの文化的な価値観（シンボル、ゲーム、礼儀作法、習慣など）の正しい理解について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動における文化的な価値観や習慣を認めることが難しい	106	14.8
2 【レベル2】身体活動における文化的な価値観や習慣を認識し、それに参加することができる	441	61.5
3 【レベル3】身体活動における文化的な価値観や習慣を尊重して積極的に取り組む姿勢でいる	170	23.7
全体	717	100

質問内容	回答数	%
○あなたの他者と上手に交流する社会的スキル（コミュニケーション、協力、リーダーシップ、争いごとの解決など）について最もあてはまるレベルをお答えください。		
1 【レベル1】身体活動において、他者と協力・協調することが苦手である	113	15.8
2 【レベル2】身体活動において、他者を尊重して協力・協調できる（例：他の参加者のスペースを尊重する、道具やボールを共有する）	441	61.5
3 【レベル3】身体活動において、他者がうまいいくように積極的にサポートし、励ますことができる	163	22.7
全体	717	100

表2-1 Physical Literacyの領域ごとの相関係数：全体（n=717）

	Total	身体	感情	認知	社会
Total	1				
身体	.770**	1			
感情	.888**	.624**	1		
認知	.892**	.587**	.757**	1	
社会	.829**	.616**	.659**	.710**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

表2-2 Physical Literacyの領域ごとの相関係数：男性（n=217）

	Total	身体	感情	認知	社会
Total	1				
身体	.846**	1			
感情	.906**	.730**	1		
認知	.922**	.681**	.797**	1	
社会	.867**	.697**	.744**	.775**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

表2-3 Physical Literacyの領域ごとの相関係数：女性（n=500）

	Total	身体	感情	認知	社会
Total	1				
身体	.725**	1			
感情	.880**	.567**	1		
認知	.873**	.527**	.734**	1	
社会	.811**	.570**	.619**	.677**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

情・認知・社会領域の間の相関が身体領域とその他の領域との相関と比べ高かった。男女で相関係数を比較すると、総じて男子が女子よりも強い相関を示した。

次に、表3は探索的因子分析の結果を示している。固有値1基準で因子数を決定すると、2因子が抽出され、第1因子に感情・認知・社会領域に相当する項目の因子負荷量が高く、第2因子に身体領域に相当する項目の因子負荷量が高かった。PL4Lは4領域を仮定して作成されているため、因子数を増加させ、3因子と4因子に因子数を固定した分析も行った。3因子に固定したモデルでは、社会領域に相当する項目の因子負荷量が高い第3因子が抽出され、感情・認知領域（第1因子）、身体領域（第2因子）となった。4因子に固定したモデルでは、第4因子に因子負荷量が高い項目は認知領域に相当する1項目だけとなり、その項目は感情・認知領域に相当する項目が高い因子負荷量を示している第2因子に対しても高い因子負荷量を示した。最後に、PL4Lが仮定する4領域と各領域の項目の関係を仮定した検証的因子分析を行った（図1）。その結果、モデルの適合度指標は、いずれもモデルの採択基準を超える良好な値を示し、潜在変数（因子）から観測変数（項目）へのパス係数も有意に高いパス係数を示した。

各領域の得点率同士の相関からは、感情・認知・社会領域間の関係と身体領域とその他3領域の関係が異なることが示唆された。そして確認的因子分析においても、身体領域とその他の領域が因子として別に抽出され、感情・認知・社会領域の関係性が強いことが分かった。身体領域は体を動かすことに関わる身体能力を評価する項目である。他方、そ

表3 因子分析結果 パターン行列

		第1因子	第2因子				第1因子	第2因子	第3因子	第4因子							
項目		感情・認知・社会	身体	項目	感情・認知	身体	社会	項目	身体	感情・認知	社会	認知					
身体領域	Ph1 筋力	0.150	0.605	身体領域	Ph1	0.144	0.591	0.031	身体領域	Ph1	0.606	0.104	0.027	0.088			
	Ph2 スタミナ	0.022	0.783		Ph2	0.213	0.776	-0.183		Ph2	0.794	0.179	-0.187	0.063			
	Ph3 自力での移動	-0.055	0.853		Ph3	-0.027	0.832	-0.002		Ph3	0.824	-0.006	0.000	-0.046			
	Ph4 道具を使った移動	-0.008	0.735		Ph4	-0.109	0.724	0.126		Ph4	0.716	-0.080	0.124	-0.064			
	Ph5 コーディネーションとバランス	0.027	0.708		Ph5	-0.064	0.695	0.118		Ph5	0.692	-0.059	0.119	-0.013			
	Ph6 操作能力	0.125	0.644		Ph6	0.038	0.629	0.117		Ph6	0.624	0.051	0.127	-0.053			
感情領域	Em1 モチベーション	0.638	0.066	感情領域	Em1	0.781	0.039	-0.097	感情領域	Em1	0.064	0.688	-0.078	0.156			
	Em2 自信	0.642	0.133		Em2	0.748	0.108	-0.059		Em2	0.103	0.752	-0.046	-0.016			
	Em3 身体的な調整・制御	0.639	0.110		Em3	0.625	0.092	0.059		Em3	0.067	0.694	0.054	-0.098			
	Em4 感情的な調整・制御	0.748	-0.012		Em4	0.656	-0.029	0.141		Em4	-0.081	0.786	0.130	-0.169			
認知領域	Co1 知識	0.667	0.116	認知領域	Co1	0.594	0.102	0.115	認知領域	Co1	0.126	0.505	0.126	0.172			
	Co2 ルールと戦術	0.825	-0.036		Co2	0.442	-0.038	0.435		Co2	-0.021	0.358	0.45	0.151			
	Co3 戦略	0.832	-0.095		Co3	0.693	-0.107	0.188		Co3	-0.086	0.572	0.18	0.334			
社会領域	So1 倫理	0.743	0.044	社会領域	So1	0.193	0.035	0.623	社会領域	So1	0.035	0.166	0.638	0.020			
	So2 社会と文化	0.636	0.135		So2	-0.022	0.125	0.741		So2	0.111	-0.023	0.778	-0.074			
	So3 協力	0.770	0.032		So3	0.154	0.015	0.703		So3	0.025	0.099	0.714	0.089			
因子相関行列		1	2	因子相関行列		1	2	3	因子相関行列		1	2	3	4			
		1	1			1	1				1	1					
		2	0.724	1			2	0.694	1			2	0.691	1			
							3	0.769	0.649	1			3	0.656	0.772	1	
										1			4	0.217	0.268	0.262	1

注) 因子数決定：固有値1 基準

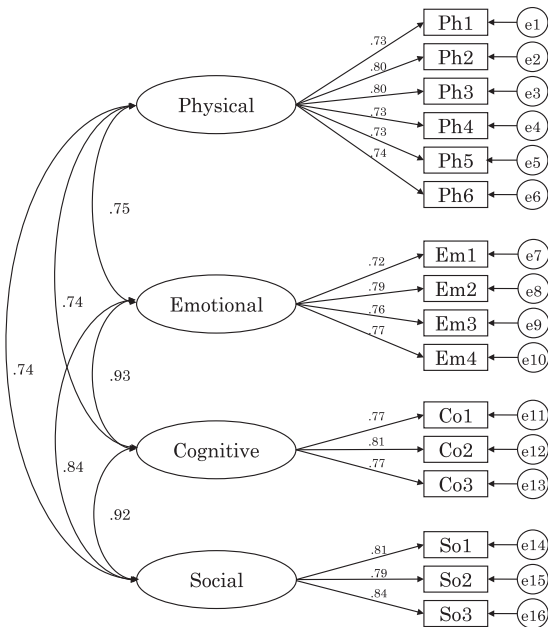
注) 因子数決定：3 因子固定

注) 因子数決定：4 因子固定

注) 因子数決定：固有値1基準

注) 因子数決定：3因子固定

注) 因子数決定：4因子固定



GFI = 0.954 AGFI = 0.936 CFI = 0.975 RMSEA = 0.050

図1 確認的因子分析の結果

他の3領域は、身体能力ではなく、体を動かすことに関わる知識や考えを評価する項目である。このことが身体領域とその他の領域の相違点である。ただし、感情領域は体を動かすことに対する自分自身の気持ち、認知領域は体を動かすことに関する知識、社会領域は体を動かす場面での他者との関わり方を評価しており、いずれも概念的な違いがある。これらのことが、確認的因子分析により、2因子や3因子のパターン行列が解釈可能な結果となった要因と考えられる。そして、検証的因子分析のように4因子の仮説モデルを設定したモデルが採択基準を満たしたことから、身体領域とその他の3領域との関係の強さは異なるものの、和訳版PL4Lは4因子で構成され、その因子を測定する項目が高い妥当性を有していることが確認された。

3.2 PLと身体活動の関係

表4はPLと身体活動の各種項目との相関関係（順位相関）を表している。いずれの相関係数も、0.3～0.4程度の中程度の相関を示した。男女の違いに

着目すると、身体活動日数（身体活動を30分以上行った日数）については、男子よりも女子の相関係数が高い傾向にあり、その他の項目については男子の方が高い傾向にあった。身体活動日数は身体活動を30分以上行ったか否かが基準となっており、男子ではこの基準を容易に達成しやすく、PLの多寡の影響を受けにくかったのかもしれない。次に、PLの項目ごとに違いを確認すると、男女ともにTotal得点率がいずれの身体活動項目とも相関が高い傾向にあった。そして、すべての相関係数の中で最も高い相関係数を示したのは、男女とも休日の身体活動時間であった（男子：0.458，女子：0.421）。したがって、高校生においてPLは休日の身体活動を左右することがうかがえた。

3.3 PLと学年

表5はPLと学年の関係を検討した結果である。Total得点率の平均値を学年で比較した結果、全体、男子、女子いずれも有意差は認められなかった（表5-1）。表5-2はPLと学年の順位相関を求めた結果である。いずれも有意な相関係数は得られず、PLと学年の間には関連がないことがうかがえた。

3.4 PLとスポーツクラブ・運動部活動への所属

表6はスポーツクラブ・運動部活動への所属別にみたPLの結果を示している。男女とも所属ありは所属なしよりも有意に高いPLを示した。所属することでPLが高まるのか、PLが高い者が所属する傾向にあるのかといった因果関係についてはこの結果からだけでは明らかにできないが、PLとスポーツクラブ・運動部活動への所属の関連性が明らかとなった。

表4 Physical Literacyと身体活動項目の相関係数

		Total得点率	身体領域	感情領域	認知領域	社会領域
身体活動日数	全体	.372**	.380**	.345**	.290**	.398**
	男性	.341**	.325**	.373**	.299**	.275**
	女性	.419**	.389**	.374**	.362**	.297**
中高強度の身体活動日数	全体	.370**	.377**	.342**	.280**	.393**
	男性	.393**	.369**	.405**	.334**	.304**
	女性	.387**	.367**	.352**	.338**	.269**
平日の身体活動時間 (分/日)	全体	.369**	.402**	.363**	.302**	.419**
	男性	.433**	.396**	.437**	.384**	.346**
	女性	.406**	.354**	.376**	.348**	.279**
休日の身体活動時間 (分/日)	全体	.345**	.415**	.393**	.321**	.440**
	男性	.458**	.396**	.443**	.423**	.354**
	女性	.421**	.312**	.388**	.370**	.306**

**相関係数は1%水準で有意（両側）

表5-1 Physical Literacyと学年（平均値比較）

	平均値	標準偏差
高校1年生	53.02 ± 24.48	
男性	53.99 ± 27.26	
女性	52.54 ± 23.08	
高校2年生	53.37 ± 23.77	
男性	57.53 ± 23.50	
女性	51.54 ± 23.72	
高校3年生	54.15 ± 21.50	
男性	55.80 ± 25.94	
女性	53.51 ± 19.57	

表5-2 Physical Literacyと学年（順位相関）

		Total得点率	身体領域	感情領域	認知領域	社会領域
学年	全体	.007	.024	.006	.016	.015
	男性	.039	-.006	.021	.055	.029
	女性	.007	.015	.032	-.010	.011

3.5 PLと身体活動日数

表7は身体活動日数別に見たPLの結果を示している。表7-1は身体活動を30分以上行った日数が0日か1日以上かで群分けをし、表7-2はその日数を3日未満かそれ以上かで群分けをした結果である。男女ともにいずれの群分けにおいても有意差が確認され、あり群がなし群よりも有意に高いPLを示した。なお、0日か1日以上かで群分けした男子の結果は、女子と比べるとややその差が小さい傾向にあった。表4において身体活動日数とPLの相関の解釈でも述べたが、そもそも30分以上の身体活動日数が0日の高校生は男子の中で22.6%にとどまっており、30分以上の身体活動を1日以上実施するといった程度

の男子の身体活動にはPLの多寡があまり影響しないのかもしれない。

3.6 PLと中高強度の身体活動日数

表8-1は中高強度の身体活動日数別に見たPLの結果を示している。表8-1は1日あたり少なくとも合計60分間の身体活動をした日が0日か1日以上かで群分けをし、表8-2はその日数を3日未満かそれ以上かで群分けをした結果である。表7の結果と同じように、身体活動日数が多い群のPLが有意に高かった。表7と表8の大きな違いは、身体活動を心臓がドキドキしたり息切れしたりするような全ての活動、すなわち中高強度以上の身体活動に限定したこ

表6 Physical Literacyとスポーツクラブ・運動部活動への所属

	男性			女性		
	所属あり (n=54)	所属なし (n=163)	有意確率	所属あり (n=92)	所属なし (n=408)	有意確率
Total得点率	72.36 ± 20.07	50.38 ± 24.72	<.001	69.79 ± 19.38	48.65 ± 20.77	<.001
身体領域	78.24 ± 19.59	52.51 ± 23.72	<.001	70.20 ± 19.27	52.31 ± 20.21	<.001
感情領域	71.99 ± 22.11	50.23 ± 28.10	<.001	69.29 ± 22.04	45.80 ± 25.70	<.001
認知領域	70.37 ± 24.59	49.08 ± 30.89	<.001	69.93 ± 24.49	46.00 ± 25.84	<.001
社会領域	68.83 ± 23.36	49.69 ± 28.42	<.001	69.75 ± 24.33	50.49 ± 25.40	<.001

注) 平均値±標準偏差

表7-1 Physical Literacyと身体活動の有無

	男性			女性		
	身体活動あり (n=168)	身体活動なし (n=49)	有意確率	身体活動あり (n=333)	身体活動なし (n=167)	有意確率
Total得点率	58.75 ± 24.78	45.90 ± 25.49	.002	57.52 ± 21.29	42.61 ± 20.27	<.001
身体領域	61.86 ± 24.90	48.81 ± 24.30	.001	59.71 ± 20.10	47.41 ± 20.98	<.001
感情領域	59.75 ± 27.51	41.58 ± 26.69	<.001	55.59 ± 25.38	39.22 ± 25.85	<.001
認知領域	56.75 ± 30.37	46.26 ± 31.23	.036	56.01 ± 26.40	39.22 ± 25.35	<.001
社会領域	56.65 ± 27.85	46.94 ± 29.40	.035	58.76 ± 25.66	44.61 ± 24.97	<.001

注) 平均値±標準偏差

表7-2 Physical Literacyと週3日以上の身体活動の有無

	男性			女性		
	週3日以上の身体活動あり (n=115)	週3日以上の身体活動なし (n=102)	有意確率	週3日以上の身体活動あり (n=229)	週3日以上の身体活動なし (n=271)	有意確率
Total得点率	62.97 ± 24.16	47.81 ± 24.58	<.001	60.84 ± 20.28	45.53 ± 21.12	<.001
身体領域	65.87 ± 24.68	51.06 ± 23.76	<.001	62.81 ± 19.74	49.51 ± 20.48	<.001
感情領域	63.70 ± 27.00	46.57 ± 27.09	<.001	59.44 ± 24.31	42.25 ± 26.04	<.001
認知領域	61.88 ± 28.42	45.92 ± 31.33	<.001	59.68 ± 25.21	42.56 ± 26.39	<.001
社会領域	60.43 ± 27.17	47.71 ± 28.44	<.001	61.43 ± 24.76	47.79 ± 25.92	<.001

注) 平均値±標準偏差

表8-1 Physical Literacyと中高強度の身体活動の有無

	男性			女性		
	中高強度の 身体活動あり (n=149)	中高強度の 身体活動なし (n=68)	有意確率	中高強度の 身体活動あり (n=277)	中高強度の 身体活動なし (n=223)	有意確率
Total得点率	60.74 ± 24.79	45.13 ± 23.69	<.001	58.57 ± 22.11	45.05 ± 19.67	<.001
身体領域	63.48 ± 25.03	48.90 ± 23.08	<.001	60.44 ± 21.53	49.59 ± 19.17	<.001
感情領域	61.91 ± 27.12	41.91 ± 26.07	<.001	57.22 ± 26.32	41.31 ± 24.39	<.001
認知領域	59.17 ± 29.54	43.87 ± 31.13	<.001	57.10 ± 27.10	42.08 ± 25.00	<.001
社会領域	58.39 ± 27.65	45.83 ± 28.42	0.002	59.51 ± 26.73	47.23 ± 24.07	<.001

注) 平均値±標準偏差

表8-2 Physical Literacyと週3日以上の中高強度の身体活動の有無

	男性			女性		
	週3日以上の 中高強度の身体活 動あり (n=93)	週3日以上の 中高強度の身体活 動なし (n=124)	有意確率	週3日以上の 中高強度の身体活 動あり (n=162)	週3日以上の 中高強度の身体活 動なし (n=338)	有意確率
Total得点率	65.41 ± 25.35	48.67 ± 23.15	<.001	62.92 ± 21.84	47.56 ± 20.43	<.001
身体領域	68.28 ± 25.63	51.88 ± 22.74	<.001	65.02 ± 21.46	51.08 ± 19.54	<.001
感情領域	66.13 ± 27.62	47.78 ± 26.29	<.001	61.88 ± 25.57	44.49 ± 25.33	<.001
認知領域	64.52 ± 29.61	46.77 ± 29.58	<.001	61.63 ± 26.92	45.02 ± 25.69	<.001
社会領域	62.72 ± 27.85	48.25 ± 27.37	<.001	63.17 ± 26.30	49.65 ± 25.14	<.001

注) 平均値±標準偏差

とと1日30分ではなく60分にしたことにある。強度を高く、時間を長くした群分けにより、週3日以上の中高強度の身体活動あり群の平均値は他の群分けよりも高い値を示した。強度が高く、かつ長い身体活動を習慣化することにPLが寄与していることを示唆する結果であるといえる。

4. さ い ご に

因子分析の結果は、和訳版PL4Lを高校生に対して適用できることを示した。また、PLは身体活動との関連が想定されている概念である。本稿では、PLと身体活動との関連性についても検討した。その結果、PLと身体活動が関連していることが明らかとなった。妥当性の概念のひとつに、基準関連妥当性がある。基準となる指標と関連が認められることにより妥当性を証明するという考え方である。PLが高ければ身体活動量も多く、身体活動が習慣化されていると考えられるため、PLと身体活動が関連している

ことを示した今回の結果からも和訳版PL4Lの妥当性の高さが証明された。

また、興味深い点に、スポーツクラブ・運動部活動への所属あり群が最も高いPLの平均値を示したことがある。身体活動量の多寡を表す区分として今回用いたのは、身体活動あり群、週3日以上の身体活動あり群、中高強度の身体活動あり群、週3日以上の中高強度身体活動あり群であった。しかし、いずれもの群も平均値は50点後半から60点台にとどまったのに対して、スポーツクラブ・運動部活動への所属あり群では60点後半から70点台の平均値であった。単に身体活動量が多いということではない、何か、例えば、所属チームの仲間や指導者との関わりなどを通して培われるPLがあるのではないかと想像させる結果であった。しかしながら、横断的な結果からは因果を主張することはできない。PLを変化させる介入研究などを通して因果関係の検証が今後の課題である。

1-2. Physical Literacyの年代別比較

鈴木 宏哉¹⁾ 松永 美咲²⁾

1. はじめに

本プロジェクト研究では、一般の人々向けに開発されたPhysical Literacyの自己評価尺度(Physical literacy for life:PL4L)を用いて、高校生から65歳までを対象としたオンライン調査を実施した。既に和訳版PL4Lの因子妥当性については検証した。本稿では、日本人のPhysical Literacyの実態を明らかにするため、年代による違いに着目して検討した。

2. 方 法

2.1 分析に用いた調査の概要

2022年1月28日～30日に実施した、全国47都道府県に在住する18歳から65歳の男女4,000名を対象とした調査(報告書第1報にて報告)と、2023年3月10日～16日に実施した全国47都道府県に在住する高校生1,000名を対象とした調査(報告書第2報にて報告)を合わせて使用した。ただし、成人の調査は、性別に「その他」と回答した7名を除いた3,993名のデータを分析の対象とした。高校生の調査は、高校生の登録モニターが1,000名に満たず、保護者経由で回答を依頼した283名を除き、高校生本人から回答が得られた717名を対象に分析を行った。その他、調査の詳細は、本研究プロジェクト令和3年度研究報告書を参照のこと。

2.2 分析に用いた調査項目

分析に用いた調査項目はPhysical Literacy(和訳版PL4L)、性別、身体活動についての設問であった。和訳版PL4Lは、身体領域6問、感情領域4問、認知領域3問、社会領域3問の合計16問、4領域で構成されており、各質問について自身に最もあてはまる回答を1つ選ぶ。そしてレベル1を0点、

レベル2を1点、レベル3を2点として、各領域における合計点を算出した。また、各領域の合計点は、得点率(領域の合計点を領域の最高合計点で除した百分率)に換算し、4領域の得点率の合計を、領域数の4で割った値をTotal得点率とした。

身体活動は、「あなたは、過去7日間のうち、早歩きなどの運動や各種スポーツのような身体活動を30分以上行った日数は何日ですか。」の質問に、0～2日と回答した対象者を「週3日以上身体活動なし」、3日以上を対象者を「週3日以上身体活動あり」とした。

2.3 分析方法

性(男性と女性)と年代(A:高校生, B:18-29歳, C:30-49歳, D:50-65歳)を要因とした二元配置分散分析(対応なし・なし)と、週3日以上身体活動(ありとなし)と年代(A:高校生, B:18-29歳, C:30-49歳, D:50-65歳)を要因とした二元配置分散分析(対応なし・なし)を行い、4領域の得点率、Total得点率について要因の影響を検討した。多重比較にはBonferroni法を用いた。全ての統計解析には、IBM SPSS Statistics 29を用い、 $p < 0.05$ を統計学的有意水準とした。

3. 結 果

3.1 性×年代

表1は性(2水準:対応なし)と年代(4水準:対応なし)を要因とした二元配置分散分析の結果を示している。感情領域、認知領域、社会領域、Totalの得点率において年代×性の交互作用が有意になった。したがって、男性と女性では年代差の傾向が異なることが示唆された。一方で身体領域については交互作用が有意にならず、年代の主効果と性の主効果がいずれも有意になった。性の主効果に着目すると、社会領域を除き、性の主効果が有意となり、男性が女性よりも得点率が有意に高かった。社会領域については、身体活動における公正さ、他者尊重、

1) 順天堂大学

2) 順天堂大学大学院

インクルーシブといった姿勢を評価しており、身体能力や身体活動に関する知識や態度のような領域と比べ性差があらわれにくい領域なのかもしれない。次に、年代に着目すると、概ねいずれの領域においても高校生ないしは18-29歳が最も高い値を示し、年齢とともに低下する傾向が確認された。しかしながら、女性においては、30-49歳よりも50-65歳の年代の方が高い傾向にあり、感情領域、認知領域、Total得点率においては50-65歳で最も高い平均値となった。そして、30-49歳の女性はすべての領域で最も低い値を示しており、この年代特有の課題

が垣間見える。この年代の生理学的な特徴なのか、環境や生活習慣の特徴なのか、今後更に検討が必要である。

3.2 身体活動頻度×年代

表2は、身体活動頻度（2水準：対応なし）と年代（4水準：対応なし）を要因とした二元配置分散分析の結果を示している。社会領域を除き身体活動頻度×年代の交互作用が有意になった。すなわち、年代差が身体活動習慣の有無によって異なることが示唆された。また、身体活動頻度の単純主効果はす

表1 性別に見た年代比較

		n	身体領域 (得点率)	感情領域 (得点率)	認知領域 (得点率)	社会領域 (得点率)	Total得点率
男性	A.高校生	217	58.91 ± 25.31	55.65 ± 28.31	54.38 ± 30.81	54.45 ± 28.43	55.85 ± 25.46
	B.18-29歳	519	56.26 ± 26.86	56.24 ± 29.81	55.52 ± 30.50	54.37 ± 30.85	55.60 ± 26.61
	C.30-49歳	1035	54.40 ± 22.27	52.27 ± 26.63	51.14 ± 26.86	49.61 ± 26.86	51.86 ± 22.66
	D.50-65歳	603	51.40 ± 21.92	52.80 ± 28.35	49.12 ± 28.09	49.17 ± 26.94	50.62 ± 23.22
女性	A.高校生	500	55.60 ± 21.19	50.13 ± 26.65	50.40 ± 27.21	54.03 ± 26.27	52.54 ± 22.08
	B.18-29歳	439	52.66 ± 23.21	52.53 ± 27.29	50.42 ± 27.64	51.18 ± 27.53	51.70 ± 22.82
	C.30-49歳	848	51.08 ± 19.34	49.50 ± 26.67	47.21 ± 26.96	47.92 ± 25.60	48.93 ± 21.19
	D.50-65歳	549	51.35 ± 16.74	55.46 ± 25.29	53.49 ± 25.10	52.43 ± 22.63	53.18 ± 18.73
主効果	年代 (F値)		10.88**	5.05**	4.89**	8.67*	4.86**
	性 (F値)		13.47**	7.15**	5.98*	0.36	6.82**
	年代×性 (F値)		1.70	4.09**	7.15**	3.00*	4.86**
多重比較	男性		A>C>D ; B>D	B>C	B>C, D	B>C, D	A>D ; B>C, D
	女性		A>C, D	A<C, D	C<D	A, D>C	A, D>C

*p>0.05, **p>0.01

表2 身体活動頻度別に見た年代比較

		n	身体領域 (得点率)	感情領域 (得点率)	認知領域 (得点率)	社会領域 (得点率)	Total得点率
週3日以上	A.高校生	344	63.83 ± 21.53	60.86 ± 25.28	60.42 ± 26.31	61.10 ± 25.56	61.55 ± 21.64
	B.18-29歳	377	59.20 ± 25.90	62.67 ± 27.28	62.02 ± 27.31	59.59 ± 28.66	60.87 ± 24.29
	C.30-49歳	677	55.58 ± 23.07	58.33 ± 26.22	56.18 ± 26.63	54.04 ± 26.68	56.03 ± 22.38
	D.50-65歳	338	56.78 ± 20.15	66.12 ± 23.84	61.83 ± 24.62	57.79 ± 23.61	60.63 ± 19.82
週3日未満	A.高校生	373	49.93 ± 21.41	43.43 ± 26.37	43.48 ± 27.83	47.77 ± 26.60	46.15 ± 22.11
	B.18-29歳	583	51.77 ± 24.55	49.44 ± 28.53	47.46 ± 29.27	48.57 ± 29.18	49.31 ± 24.45
	C.30-49歳	1211	51.49 ± 19.75	47.05 ± 26.16	45.64 ± 26.50	45.98 ± 25.75	47.54 ± 21.35
	D.50-65歳	814	49.13 ± 18.95	49.06 ± 26.60	46.79 ± 26.42	47.79 ± 25.02	48.19 ± 20.73
主効果	年代 (F値)		6.29**	10.00**	5.65**	7.42**	5.69**
	身体活動頻度 (F値)		142.74**	302.80**	274.12**	157.42**	287.57**
	年代×身体活動頻度 (F値)		8.80**	3.67*	3.11*	1.85	4.63**
多重比較	週3日以上		A>B, C, D	C<D	C<B, D	A, B>C	A, B>C<D
	週3日未満			A<B, D			

*p>0.05, **p>0.01

すべての領域で有意になっており、週3日以上身体活動を行っている者はそうでない者と比べてPhysical Literacyが有意に高い。したがって、いずれの年代においても身体活動習慣のある者はPhysical Literacyが高いが、その差、言い換えれば、身体活動習慣がPhysical Literacyに及ぼす影響は年代によって異なることがうかがえた。ただし、今回の分析では身体活動を30分以上行った日数で分類しているため、1日あたりの身体活動時間の多寡については検討できていない。したがって、身体活動時間も考慮した分析が今後必要である。

4. ま と め

Physical Fitness（体力）については、一般的な特徴として青年期から成人初期に生涯のピークを迎え、加齢とともに低下していくことが知られている。Physical Literacyはこの体力的な要素を身体領域としてとらえている。そのため、この身体領域とその他の領域の年代差が異なる特徴を示した今回の結果は興味深い。加齢による身体的な変化（衰え）と感情・認知・社会領域が評価する身体活動に関する知識や態度、身体活動に対する姿勢といった要素の変化は一致しなかった。Physical Literacyは

生涯にわたり身体活動を継続するための資質・能力であり、本プロジェクト研究の分析においても身体活動量とPhysical Literacyが密接に関連していることを既に報告した。したがって、生涯にわたる身体活動の習慣化の視点では、Physical Fitness（身体領域）の向上にとどまらず、感情・認知・社会領域を含むPhysical Literacyの向上に視点を広げる必要があるだろう。

成人を対象とした調査の因子分析結果（報告書第2報）や今年度の報告書「1-1 高校生を対象とするPL4Lを用いた実態調査」において高校生の因子分析結果でも報告したように、因子構造から考えると、感情・認知・社会領域間の関係は身体領域よりも強い関係にあることが分かる。身体領域の年代差からは、加齢による体の衰えを表現している様子がうかがえた。他方、感情・認知・社会領域については必ずしも加齢に伴って低下しないことも分かった。言い換えると体の衰えと心（気持ち）の衰えの違いかもしれない。身体活動へは体の状態と心の状態のどちらが強く影響するのか、その影響は性や年齢によって異なるのかなど、縦断的研究や介入研究を通して更に検討が必要である。

1-3. 小中学生を対象とする実態調査（予備調査 1）

鈴木 宏哉¹⁾ 松永 美咲²⁾ 春日 晃章³⁾

1. はじめに

令和4年度の本プロジェクト研究において、日本の子供を対象としたPhysical Literacy評価尺度の試案が作成された（報告書第2報）。試案の作成に際しては、Physical Literacyの4領域（身体的領域、心理的領域、社会的領域、認知的領域）を網羅するオーストラリアで開発されたPhysical Literacy in Children Questionnaire (PL-C Quest) を参考にした。そのうえで学習指導要領や日本のスポーツ文化も意識して質問項目の修正・追加を行った。作成された尺度は、プロジェクトメンバーがその内容や文言、回答の仕方などを議論し作成されたものである。ただし、定性的な検討が行われたものの定量的な検討が行われていなかった。そこで、本稿では、予備調査として小学校5年生、中学校2年生を対象に小規模な調査を行い、定量的な分析を通して、日本の子供向けに試案されたPhysical Literacy評価尺度の特性を検討し、その改善点を探った。

2. 方 法

2.1 分析に用いた調査の概要

2023年1月～2月にかけて、某県某市の公立小中学校を対象に調査を実施し、小学校8校に通う5年生男女の中から283名、中学校4校に通う2年生男女の中から282名が調査に協力した。調査項目は日本の子ども向けPhysical Literacy評価尺度の試案（39項目）、運動・スポーツの好き嫌い、スポーツクラブや運動部での活動状況、身体活動量、スクリーンタイムであり、調査協力者の体力や体格については、所属する学校の教育活動の中で同年度に測定された新体力テストの結果を用いた。対象者

表1-1 対象者の基本属性 性別

	全体	小学校5年生	中学校2年生
全体	565 [100.0]	283 [100.0]	282 [100.0]
男子	271 [48.0]	131 [46.3]	140 [49.6]
女子	293 [51.9]	152 [53.7]	141 [50.0]
無回答	1 [0.2]	0 [0.0]	1 [0.4]

注) カッコ内は %

の基本的な属性は表1-1と表1-2に示した。

2.2 分析に用いた項目

分析に用いた項目はPhysical Literacy（日本の子供を対象としたPhysical Literacy評価尺度の試案）、運動の好き嫌い、スポーツクラブや運動部での活動の有無、身体活動量、スクリーンタイム、性別、学年、体格、新体力テストであった。

日本の子供を対象としたPhysical Literacy評価尺度の試案は、身体的領域13項目、心理的領域7項目、社会的領域10項目、認知的領域9項目の、合計4つの領域39項目で構成されている。身体的領域は「〇〇が得意ですか？」の質問に対して、「1.とてもそう思う、2.ややそう思う、3.あまりそう思わない、4.まったくそう思わない」の4段階の選択肢から、当てはまるものを選択する。心理的領域、社会的領域、認知的領域は各項目で示される事柄についてどう思うかの質問に対して、「1.とてもそう思う、2.ややそう思う、3.あまりそう思わない、4.まったくそう思わない」の4段階の選択肢から、当てはまるものを選択する。そして、「1.とてもそう思う」を3ポイント、「2.ややそう思う」を2ポイント、「3.あまりそう思わない」を1ポイント、「4.まったくそう思わない」を0ポイントとして、4つの領域における合計ポイントを算出した。また、各領域の合計ポイントは得点率（領域の合計点を領域の最高合計点で除した百分率）に換算し、4領域の得点率の合計を平均化した値をTotal得点率とした。その他、身体活動量やスクリーンタイムの調査方法については、

1) 順天堂大学

2) 順天堂大学大学院

3) 岐阜大学

表1-2 対象者の基本属性 体格・体力

	全体				小学校5年生				女子			
					男子							
	度数	欠損数	平均値	標準偏差	度数	欠損数	平均値	標準偏差	度数	欠損数	平均値	標準偏差
身長 (cm)	234	49	140.40 ± 6.38		108	23	139.60 ± 5.89		126	26	141.09 ± 6.72	
体重 (kg)	234	49	35.11 ± 7.25		108	23	34.91 ± 7.66		126	26	35.28 ± 6.91	
肥満度 (%)	234	49	1.07 ± 14.96		108	23	0.83 ± 15.24		126	157	1.28 ± 14.77	
握力 (kg)	234	49	15.69 ± 2.94		108	23	15.38 ± 2.55		126	26	15.96 ± 3.23	
上体起こし (回)	233	50	17.31 ± 5.35		108	23	17.12 ± 5.46		125	27	17.48 ± 5.27	
長座体前屈 (cm)	234	49	38.71 ± 9.24		108	23	36.92 ± 9.65		126	26	40.25 ± 8.62	
反復横とび (点)	233	50	40.99 ± 7.00		108	23	41.24 ± 7.55		125	27	40.77 ± 6.50	
20mシャトルラン (回)	230	53	41.83 ± 18.35		106	25	46.59 ± 19.59		124	28	37.77 ± 16.22	
持久走 (秒)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50m走 (秒)	234	49	9.54 ± 1.40		108	23	9.35 ± 1.08		126	26	9.70 ± 1.61	
立ち幅とび (cm)	232	51	149.72 ± 20.81		107	24	151.99 ± 22.46		125	27	147.78 ± 19.17	
ボール投げ (m)	233	50	18.84 ± 7.39		108	23	22.81 ± 7.84		125	27	15.40 ± 4.86	
新体力テスト合計 得点	226	57	55.03 ± 8.81		105	26	53.44 ± 8.49		121	31	56.41 ± 8.89	

	全体				中学2年生				女子			
					男子							
	度数	欠損数	平均値	標準偏差	度数	欠損数	平均値	標準偏差	度数	欠損数	平均値	標準偏差
身長 (cm)	268	14	157.24 ± 7.80		132	8	160.36 ± 8.36		136	5	154.21 ± 5.80	
体重 (kg)	267	15	47.38 ± 8.14		131	9	48.32 ± 8.74		136	5	46.48 ± 7.45	
肥満度 (%)	267	15	-1.34 ± 12.51		131	9	-1.99 ± 12.46		136	5	-0.71 ± 12.57	
握力 (kg)	271	11	26.15 ± 6.96		137	3	28.82 ± 7.76		134	7	23.43 ± 4.69	
上体起こし (回)	267	15	22.48 ± 7.24		133	7	25.94 ± 6.45		134	7	19.04 ± 6.31	
長座体前屈 (cm)	267	15	46.77 ± 11.20		134	6	44.63 ± 10.30		133	8	48.92 ± 11.69	
反復横とび (点)	268	14	50.01 ± 7.51		135	5	53.90 ± 6.40		133	8	46.07 ± 6.42	
20mシャトルラン (回)	170	112	65.56 ± 26.91		83	57	84.57 ± 22.53		87	54	47.44 ± 16.08	
持久走 (秒)	74	208	370.74 ± 86.00		32	108	435.09 ± 76.53		42	99	321.71 ± 55.19	
50m走 (秒)	267	15	8.55 ± 0.95		134	6	8.03 ± 0.77		133	8	9.08 ± 0.81	
立ち幅とび (cm)	269	13	181.11 ± 31.68		136	4	197.07 ± 29.99		133	8	164.80 ± 24.23	
ボール投げ (m)	267	15	16.56 ± 5.99		135	5	19.90 ± 5.44		132	9	13.14 ± 4.38	
新体力テスト合計 得点	241	41	44.37 ± 11.70		114	26	42.46 ± 11.73		127	14	46.09 ± 11.44	

注) ボール投げ：小学校5年生はソフトボール投げ，中学校2年生はハンドボール投げ

表2 (調査票) を参照されたい。

新体力テストは，対象者が所属する学校の教師が新体力テスト実施要項に従って測定した。小学校5年生では握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，20mシャトルラン，50m走，立ち幅とび，ソフトボール投げ，中学校2年生では，握力，上体起こし，長座体前屈，反復横とび，持久走または20m

シャトルラン，50m走，立ち幅とび，ハンドボール投げを実施し，実施要項の評価方法に基づいて各種目を1～10点の項目別得点に換算し，その合計点を算出した。なお，未実施種目が1種目でもある対象者の合計点は算出せず，欠損扱いとした。体格については，新体力テスト実施時に計測した身長と体重をもとに肥満度 ($100 \times (\text{現在の体重} - \text{身長別標準体$

表2 日本の子供を対象としたPhysical Literacy評価尺度の試案 質問項目一覧

学校名 ()

名前：() 学年：() 年 () 組 性別： 男 ・ 女

・あなたのことについて教えてください。

1	あなたは運動が好きですか。	とても好き	やや好き	どちらでもない	ややきらい	とてもきらい		
2	あなたは現在スポーツクラブや運動部で活動していますか。	はい	いいえ					
3	あなたは過去（1年以上前）、スポーツクラブや運動部で活動していましたか。	はい	いいえ					
4	あなたは、最近7日間に、1日あたり少なくとも合計60分間の中高強度の身体活動※をした日は何日ありましたか。 ※ここでいう中高強度の身体活動とは、心臓がドキドキしたり息切れするようなすべての活動のことで、スポーツや学校の授業、友達と遊ぶこと、学校への登下校も入ります。例えば、ランニング、早歩き、縄跳び、スケートボード、自転車、ダンス、水泳、サッカー、バスケットボールなどがあります。	_____ 日						
5	あなたは平日（月～金曜日）と休日（土・日曜日）で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか。	平日	_____ 日	休日	_____ 日			
6	あなたは、平日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDをみたり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか。	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上
7	あなたは、休日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDをみたり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか。	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上

・あなたは、以下の活動について、どのくらい得意ですか？

1	走る、跳ぶ、登るなどの動きが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
2	何か特別な道具（一輪車やスケートボード、キックスケーター、ローラーシューズ、サーフィンなど）を使って移動することが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
3	ボールを投げる、キャッチする、打つ、蹴る、フープを回すなどの動作が得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
4	長い時間走り続けることが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
5	鉄棒に長い時間ぶら下がるなど、力を出し続けることが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
6	縄跳びが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
7	リズム（音や光など）に合わせて体を動かすことが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
8	平均台の上など不安定なところでも体のバランスを取るのが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
9	立ったまま膝を曲げずに無理なくつま先に触れることが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
10	鬼ごっこなどの遊びのなかで相手に捕まらないように身をかわすのが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
11	重いものを持ち上げるなど、強い力を出すことが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
12	スタートの合図で素早く動き出す（反応する）ことが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
13	速く走ることが得意ですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない

うら面に続く

・あなたは、以下のことについて、どう思いますか？

1	積極的に運動やスポーツをしたいですか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
2	運動やスポーツの場面で、自分の感情をうまくコントロールできますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
3	運動やスポーツの場面で、自分自身の疲れ具合に応じて運動の仕方をうまくコントロールできますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
4	運動やスポーツの場面で、自分ができることとできないことについて、よく分かっていますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
5	運動やスポーツの場面で新たなことに挑戦する自信がありますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
6	運動やスポーツを積極的に楽しもうとしていますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
7	運動やスポーツをするときによく行く場所がありますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない

・あなたは、以下のことについて、どう思いますか？

1	試合に負けたあとでも、相手に感謝して握手ができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
2	相手チームの人がけがをしたら、試合やゲーム中でも助けることを優先できますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
3	ルールで決まっていなくても、ずるいことはしませんか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
4	試合中に失敗した仲間や楽しめていない仲間に声かけやはげましができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
5	審判の判定を尊重し、審判に対して感謝できますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
6	はじめて会う子どもでも誘って一緒に運動やスポーツをしたいと思えますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
7	運動やスポーツの場面で、他の子どもがうまくできるようにサポートすることができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
8	運動・スポーツのやり方や楽しみ方を、他の国の人やいろいろな楽しみ方を知っている人から学びたいと思えますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
9	運動やスポーツを行うための用具や施設を大切に扱うことを心がけ、手入れや掃除などをすすんで行うことができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
10	運動やスポーツの場面で、仲間と意見がぐいちがったとき、相手の意見を大切にしながら問題を解決することができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない

・あなたは、以下のことについて、どう思いますか。

1	運動・スポーツを行うことの効果を理解していますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
2	運動やスポーツの場面で、ルールを守ることの大切さを理解していますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
3	運動やスポーツの場面で、自分やみんなが楽しめるようにルールを工夫することができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
4	自分のやりたい運動やスポーツができないときに、その理由を考えて別のやり方や活動を選ぶことができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
5	運動やスポーツを行うときに、自分にとってより良い手段や方法、計画を考えることができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
6	運動やスポーツの場面で、どうすれば成功できるかを考えることができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
7	運動やスポーツの場面で、自分ができそうだと感じ、自分のやり方でどのように取り組めばよいのか自然と思いつくことができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
8	運動やスポーツの場面で、安全に注意して活動できますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
9	運動やスポーツを行っている際に、自分のできばえを自分自身で評価することができますか。	とても そう思う	ややそう 思う	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
このアンケートの内容を理解することはあなたにとって 難しかったですか。		とても 簡単 だった	やや 簡単 だった	どちらで もない かった	とても難 し かった

以上で回答は終わりです。ご協力ありがとうございました。

重)／身長別標準体重)を算出した。算出方法は公益財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(平成27年度改訂版)」に準拠した。

2.3 分析方法

各項目における基礎集計(有効数、欠損数、平均値、中央値、最頻値、標準偏差、度数分布)を、学年別、学年×性別に行った。日本の子どもを対象としたPhysical Literacy評価尺度試案の因子構造を検討するために、事前分析として各領域の得点率とTotal得点率の相関分析を行った。そのうえで、探索的因子分析を行った。因子抽出法には最尤法、因子回転法にはプロマックス法を用いた。因子数の決定には、固有値基準(1以上)と、仮説に従って4因子に固定して解釈可能な因子構造を検討した。次に、39項目から項目選定を行うために、領域毎に探索的因子分析を行い、その結果を踏まえて確認的因子分析を実行した。

Physical Literacy評価尺度と新体力テストの結果の関係を検討するため、4領域の得点率、Total得点率と新体力テストの各種目の項目別得点、合計点の順位相関係数を学年別、学年×性別に算出した。性別の分析が含まれるものについては、性別に無回答だった対象者は分析から除外した。全ての統計解析には、IBM SPSS Statistics 29、IBM SPSS Amosを用い、 $p < 0.05$ を統計学的有意水準とした。

3. 結果及び考察

3.1 基礎集計

表3は調査項目の基本集計結果を示している。Physical Literacy評価尺度の各質問項目は4件法(0～3)であるため、中央値や最頻値が0または3の場合には、回答の偏りが疑われる。最頻値が0(まったくそう思わない)を示したのは、中学2年生女子の身体領域「長い時間走り続けることが得意ですか」だけだった。一方、最頻値が3(とても思う)を示したのは、身体的領域13項目中4項目、その他の領域はすべての項目であり、全39項目中30項目で小学5年生男女、中学2年生男女のいずれかの対象者において最頻値3を示した(表3)。回答の偏りの観点では、最頻値3だけでなく、他の回答

へどの程度散らばっているかの確認も必要となる。最頻値が3でかつ「とても思う」の回答率が50%を超える項目に限定すると39項目中23項目に減り、さらに平均値が2.5以上の項目にしばると11項目に縮小する。11項目のうち、身体的領域は0項目、心理的領域は2項目(2-4, 2-6)、社会的領域は5項目(3-1～3-5)、認知的領域は4項目(4-1, 4-2, 4-6, 4-8)であった。これらの11項目は回答が極端に「とても思う」と「やや思う」に偏っていることを意味する。これが、今回の調査対象者に特有の現象なのか、一般的な傾向なのかを判断するためには全国の多様な集団を対象にした再調査が必要となる。表4は領域ごとの得点率とTotal得点率の基礎集計結果を示している。各項目の集計結果と同じように回答の偏りが確認できる。特に最頻値が100、すなわち、その領域の質問項目にすべて「とても思う(3)」と回答した者が最も多い領域がある。また、Total得点率の欠損数が小学5年生で17.3%(283人中49人)、中学2年生で7.4%(282人中21人)であることも注意すべき点である。Total得点率が欠損であるということはいずれかの質問に無回答であることを意味しているため、なぜ回答しなかったのかなどについて探る必要がある。今後、これらの点についても更なる調査が必要であろう。

3.2 因子分析

表5はPhysical Literacy評価尺度の各領域の得点率同士の相関関係や各領域の得点率とTotal得点率の相関関係を検討した結果である。領域間の相関係数がいずれも中程度以上の値であることが分かる。また、身体的領域と社会的領域、身体的領域と認知的領域、心理的領域と社会的領域の相関係数は他の相関と比べるとやや弱い相関関係にある。次に、Physical Literacy評価尺度の39項目を用いて探索的因子分析を行った(表6-1)。固有値1以上の基準で因子を抽出すると、7因子が抽出された。第1因子には身体的領域の5項目が高い因子負荷量を示した。第2因子には社会的領域の5項目と心理的領域の1項目、第3因子には認知的領域の6項目、第4因子には身体的領域の5項目、第5因子には心理的領域の4項目と身体的領域の1項目、第

表3 各項目の度数分布

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○あなたは、運動やスポーツが好きですか。												
1 とても好き	143	50.5	85	64.9	58	38.2	118	41.8	82	58.6	35	24.8
2 やや好き	93	32.9	38	29.0	55	36.2	92	32.6	41	29.3	51	36.2
3 どちらでもない	23	8.1	3	2.3	20	13.2	40	14.2	9	6.4	31	22.0
4 ややきらい	16	5.7	3	2.3	13	8.6	24	8.5	8	5.7	16	11.3
5 とてもきらい	7	2.5	1	0.8	6	3.9	8	2.8	0	0.0	8	5.7
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、現在スポーツクラブや運動部で活動していますか。												
1 はい	169	59.7	91	69.5	78	51.3	195	69.1	116	82.9	79	56.0
2 いいえ	111	39.2	38	29.0	73	48.0	81	28.7	19	13.6	61	43.3
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	6	2.1	5	3.6	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、過去（1年以上前）、スポーツクラブや運動部で活動していましたか。												
1 はい	174	61.5	85	64.9	89	58.6	211	74.8	114	81.4	97	68.8
2 いいえ	107	37.8	44	33.6	63	41.4	69	24.5	25	17.9	43	30.5
欠損値	2	0.7	2	1.5	0	0.0	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、1日あたり少なくとも合計60分間の中高強度の身体活動*をした日は最近1週間に、何日ありましたか。 ※ここでの中高強度の身体活動とは、心臓がドキドキしたり息切れするようなすべての活動のことです。												
1 0日	13	4.6	7	5.3	6	3.9	20	7.1	13	9.3	7	5.0
2 1日	33	11.7	16	12.2	17	11.2	14	5.0	6	4.3	8	5.7
3 2日	39	13.8	17	13.0	22	14.5	32	11.3	10	7.1	22	15.6
4 3日	30	10.6	10	7.6	20	13.2	53	18.8	23	16.4	29	20.6
5 4日	45	15.9	18	13.7	27	17.8	51	18.1	24	17.1	27	19.1
6 5日	52	18.4	24	18.3	28	18.4	51	18.1	28	20.0	23	16.3
7 6日	22	7.8	7	5.3	15	9.9	18	6.4	13	9.3	5	3.5
8 7日	46	16.3	29	22.1	17	11.2	43	15.2	23	16.4	20	14.2
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、平日（月～金曜日）と休日（土・日曜日）で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか。【平日】												
1 0日	30	10.6	15	11.5	15	9.9	24	8.5	12	8.6	12	8.5
2 1日	39	13.8	26	19.8	13	8.6	42	14.9	19	13.6	23	16.3
3 2日	47	16.6	21	16.0	26	17.1	50	17.7	22	15.7	28	19.9
4 3日	69	24.4	19	14.5	50	32.9	103	36.5	52	37.1	50	35.5
5 4日	20	7.1	6	4.6	14	9.2	30	10.6	15	10.7	15	10.6
6 5日	69	24.4	39	29.8	30	19.7	31	11.0	19	13.6	12	8.5
欠損値	9	3.2	5	3.8	4	2.6	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、平日（月～金曜日）と休日（土・日曜日）で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか。【休日】												
1 0日	36	12.7	15	11.5	21	13.8	59	20.9	17	12.1	41	29.1
2 1日	119	42.0	40	30.5	79	52.0	57	20.2	19	13.6	38	27.0
3 2日	119	42.0	69	52.7	50	32.9	162	57.4	103	73.6	59	41.8
欠損値	9	3.2	7	5.3	2	1.3	4	1.4	1	0.7	3	2.1
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○あなたは、平日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDを見たり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか、												
1 30分未満	14	4.9	5	3.8	9	5.9	5	1.8	2	1.4	3	2.1
2 30分～1時間未満	36	12.7	12	9.2	24	15.8	17	6.0	11	7.9	6	4.3
3 1時間～2時間未満	67	23.7	25	19.1	42	27.6	50	17.7	28	20.0	22	15.6
4 2時間～3時間未満	74	26.1	42	32.1	32	21.1	88	31.2	47	33.6	41	29.1
5 3時間～4時間未満	36	12.7	17	13.0	19	12.5	44	15.6	18	12.9	26	18.4
6 4時間～5時間未満	21	7.4	13	9.9	8	5.3	30	10.6	11	7.9	19	13.5
7 5時間以上	28	9.9	12	9.2	16	10.5	35	12.4	16	11.4	19	13.5
欠損値	7	2.5	5	3.8	2	1.3	13	4.6	7	5.0	5	3.5
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
○あなたは、休日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDを見たり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか、												
1 30分未満	8	2.8	4	3.1	4	2.6	3	1.1	2	1.4	1	0.7
2 30分～1時間未満	20	7.1	9	6.9	11	7.2	4	1.4	2	1.4	2	1.4
3 1時間～2時間未満	49	17.3	18	13.7	31	20.4	38	13.5	21	15.0	16	11.3
4 2時間～3時間未満	52	18.4	21	16.0	31	20.4	46	16.3	28	20.0	18	12.8
5 3時間～4時間未満	56	19.8	30	22.9	26	17.1	76	27.0	35	25.0	41	29.1
6 4時間～5時間未満	38	13.4	19	14.5	19	12.5	40	14.2	19	13.6	21	14.9
7 5時間以上	59	20.8	29	22.1	30	19.7	75	26.6	33	23.6	42	29.8
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
(身体的領域)												
○走る、跳ぶ、登るなどの動きが得意ですか、												
1 とてもそう思う	96	33.9	50	38.2	46	30.3	73	25.9	43	30.7	29	20.6
2 ややそう思う	107	37.8	51	38.9	56	36.8	98	34.8	54	38.6	44	31.2
3 あまりそう思わない	64	22.6	23	17.6	41	27.0	88	31.2	34	24.3	54	38.3
4 まったくそう思わない	15	5.3	6	4.6	9	5.9	22	7.8	9	6.4	13	9.2
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.01		2.12		1.91		1.79		1.94		1.64	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		1	
標準偏差	0.88		0.86		0.90		0.92		0.90		0.92	
○何か特別な道具（一輪車やスケートボード、キックスケーター、ローラーシューズ、サーフィンなど）を使って移動することが得意ですか、												
1 とてもそう思う	57	20.1	22	16.8	35	23.0	51	18.1	28	20.0	22	15.6
2 ややそう思う	92	32.5	40	30.5	52	34.2	66	23.4	27	19.3	39	27.7
3 あまりそう思わない	72	25.4	36	27.5	36	23.7	100	35.5	54	38.6	46	32.6
4 まったくそう思わない	59	20.8	31	23.7	28	18.4	65	23.0	31	22.1	34	24.1
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.53		1.41		1.62		1.37		1.37		1.35	
中央値	2		1		2		1		1		1	
最頻値	2		2		2		1		1		1	
標準偏差	1.04		1.04		1.04		1.03		1.04		1.01	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○ボールを投げる、キャッチする、打つ、蹴るなどの動作が得意ですか。												
1 とても思う	102	36.0	67	51.1	35	23.0	89	31.6	59	42.1	29	20.6
2 やや思う	98	34.6	36	27.5	62	40.8	92	32.6	41	29.3	51	36.2
3 あまりそう思わない	65	23.0	21	16.0	44	28.9	76	27.0	26	18.6	50	35.5
4 まったくそう思わない	16	5.7	6	4.6	10	6.6	24	8.5	13	9.3	11	7.8
欠損値	2	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.4	1	0.7	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.02		2.26		1.81		1.88		2.05		1.70	
中央値	2		3		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		2		3		2	
標準偏差	0.91		0.89		0.87		0.96		1.00		0.89	
○長い時間走り続けることが得意ですか。												
1 とても思う	57	20.1	39	29.8	18	11.8	37	13.1	27	19.3	9	6.4
2 やや思う	74	26.1	39	29.8	35	23.0	60	21.3	37	26.4	23	16.3
3 あまりそう思わない	86	30.4	34	26.0	52	34.2	98	34.8	47	33.6	51	36.2
4 まったくそう思わない	62	21.9	16	12.2	46	30.3	84	29.8	27	19.3	57	40.4
欠損値	4	1.4	3	2.3	1	0.7	3	1.1	2	1.4	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.45		1.79		1.17		1.18		1.46		0.89	
中央値	1		2		1		1		1		1	
最頻値	1		2		1		1		1		0	
標準偏差	1.05		1.02		1.00		1.01		1.02		0.91	
○鉄棒に長い時間ぶら下がるなど、力を出し続けることが得意ですか。												
1 とても思う	45	15.9	18	13.7	27	17.8	42	14.9	30	21.4	11	7.8
2 やや思う	90	31.8	45	34.4	45	29.6	75	26.6	34	24.3	41	29.1
3 あまりそう思わない	107	37.8	49	37.4	58	38.2	111	39.4	57	40.7	54	38.3
4 まったくそう思わない	38	13.4	18	13.7	20	13.2	54	19.1	19	13.6	35	24.8
欠損値	3	1.1	1	0.8	2	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.51		1.48		1.53		1.37		1.54		1.20	
中央値	1		1		1		1		1		1	
最頻値	1		1		1		1		1		1	
標準偏差	0.92		0.90		0.94		0.96		0.98		0.90	
○縄跳びが得意ですか。												
1 とても思う	82	29.0	35	26.7	47	30.9	67	23.8	29	20.7	37	26.2
2 やや思う	114	40.3	49	37.4	65	42.8	103	36.5	55	39.3	48	34.0
3 あまりそう思わない	62	21.9	32	24.4	30	19.7	84	29.8	40	28.6	44	31.2
4 まったくそう思わない	20	7.1	12	9.2	8	5.3	27	9.6	16	11.4	11	7.8
欠損値	5	1.8	3	2.3	2	1.3	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.93		1.84		2.01		1.75		1.69		1.79	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.90		0.94		0.86		0.93		0.93		0.93	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○リズム（音や光など）に合わせて体を動かすことが得意ですか。												
1 とても思う	86	30.4	33	25.2	53	34.9	61	21.6	28	20.0	32	22.7
2 やや思う	113	39.9	47	35.9	66	43.4	96	34.0	40	28.6	56	39.7
3 あまりそう思わない	57	20.1	33	25.2	24	15.8	87	30.9	49	35.0	38	27.0
4 まったくそう思わない	24	8.5	16	12.2	8	5.3	38	13.5	23	16.4	15	10.6
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.93		1.75		2.09		1.64		1.52		1.74	
中央値	2		2		2		2		1		2	
最頻値	2		2		2		2		1		2	
標準偏差	0.92		0.98		0.85		0.97		0.99		0.93	
○平均台の上など不安定なところでも体のバランスを取るのが得意ですか。												
1 とても思う	113	39.9	52	39.7	61	40.1	69	24.5	34	24.3	34	24.1
2 やや思う	111	39.2	45	34.4	66	43.4	119	42.2	62	44.3	57	40.4
3 あまりそう思わない	44	15.5	22	16.8	22	14.5	68	24.1	30	21.4	38	27.0
4 まったくそう思わない	11	3.9	8	6.1	3	2.0	26	9.2	14	10.0	12	8.5
欠損値	4	1.4	4	3.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.17		2.11		2.22		1.82		1.83		1.80	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		2		2		2	
標準偏差	0.83		0.91		0.76		0.91		0.91		0.90	
○立ったまま膝を曲げずに無理なくつま先に触れることが得意ですか。												
1 とても思う	96	33.9	35	26.7	61	40.1	65	23.0	38	27.1	26	18.4
2 やや思う	76	26.9	32	24.4	44	28.9	79	28.0	38	27.1	41	29.1
3 あまりそう思わない	64	22.6	33	25.2	31	20.4	75	26.6	33	23.6	42	29.8
4 まったくそう思わない	42	14.8	27	20.6	15	9.9	63	22.3	31	22.1	32	22.7
欠損値	5	1.8	4	3.1	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.81		1.59		2.00		1.52		1.59		1.43	
中央値	2		2		2		2		2		1	
最頻値	3		3		3		2		2		1	
標準偏差	1.07		1.11		1.01		1.08		1.11		1.04	
○鬼ごっこなどの遊びのなかで相手に捕まらないように身をかかわすのが得意ですか。												
1 とても思う	107	37.8	70	53.4	37	24.3	94	33.3	62	44.3	31	22.0
2 やや思う	95	33.6	34	26.0	61	40.1	88	31.2	44	31.4	44	31.2
3 あまりそう思わない	56	19.8	19	14.5	37	24.3	76	27.0	24	17.1	52	36.9
4 まったくそう思わない	21	7.4	5	3.8	16	10.5	22	7.8	9	6.4	13	9.2
欠損値	4	1.4	3	2.3	1	0.7	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.03		2.32		1.79		1.91		2.14		1.66	
中央値	2		3		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		3		3		1	
標準偏差	0.94		0.87		0.94		0.96		0.93		0.93	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○重いものを持ち上げるなど、強い力を出すことが得意ですか。												
1 とても思う	86	30.4	46	35.1	40	26.3	61	21.6	41	29.3	19	13.5
2 やや思う	88	31.1	46	35.1	42	27.6	89	31.6	38	27.1	51	36.2
3 あまりそう思わない	79	27.9	28	21.4	51	33.6	102	36.2	51	36.4	51	36.2
4 まったくそう思わない	28	9.9	10	7.6	18	11.8	29	10.3	10	7.1	19	13.5
欠損値	2	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.83		1.98		1.69		1.65		1.79		1.50	
中央値	2		2		2		2		2		1.5	
最頻値	2		2		1		1		1		1	
標準偏差	0.98		0.94		0.99		0.93		0.95		0.89	
○スタートの合図で素早く動き出す（反応する）ことが得意ですか。												
1 とても思う	82	29.0	45	34.4	37	24.3	66	23.4	37	26.4	28	19.9
2 やや思う	126	44.5	55	42.0	71	46.7	94	33.3	56	40.0	38	27.0
3 あまりそう思わない	64	22.6	25	19.1	39	25.7	102	36.2	41	29.3	61	43.3
4 まったくそう思わない	9	3.2	5	3.8	4	2.6	19	6.7	5	3.6	14	9.9
欠損値	2	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.4	1	0.7	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.00		2.08		1.93		1.74		1.90		1.57	
中央値	2		2		2		2		2		1	
最頻値	2		2		2		1		2		1	
標準偏差	0.81		0.83		0.78		0.90		0.84		0.92	
○速く走ることが得意ですか。												
1 とても思う	75	26.5	50	38.2	25	16.4	51	18.1	32	22.9	18	12.8
2 やや思う	88	31.1	41	31.3	47	30.9	71	25.2	40	28.6	31	22.0
3 あまりそう思わない	76	26.9	25	19.1	51	33.6	96	34.0	46	32.9	50	35.5
4 まったくそう思わない	43	15.2	14	10.7	29	19.1	64	22.7	22	15.7	42	29.8
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.69		1.98		1.45		1.39		1.59		1.18	
中央値	2		2		1		1		2		1	
最頻値	2		3		1		1		1		1	
標準偏差	1.03		1.01		0.98		1.03		1.01		1.00	
(心理的領域)												
○積極的に運動やスポーツをしたいですか。												
1 とても思う	136	48.2	66	50.8	70	46.4	135	47.9	91	65.0	43	30.5
2 やや思う	90	31.9	43	33.1	47	31.1	83	29.4	33	23.6	50	35.5
3 あまりそう思わない	37	13.1	15	11.5	22	14.6	41	14.5	10	7.1	31	22.0
4 まったくそう思わない	17	6.0	4	3.1	13	8.6	22	7.8	6	4.3	16	11.3
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.23		2.34		2.14		2.18		2.49		1.86	
中央値	2		3		2		2		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		2	
標準偏差	0.90		0.81		0.97		0.95		0.81		0.99	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツの場面で、自分の感情をうまくコントロールできますか。												
1 とてもそう思う	101	35.8	43	33.1	58	38.4	107	37.9	72	51.4	34	24.1
2 ややそう思う	114	40.4	54	41.5	60	39.7	126	44.7	55	39.3	71	50.4
3 あまりそう思わない	55	19.5	29	22.3	26	17.1	39	13.8	11	7.9	28	19.9
4 まったくそう思わない	10	3.5	3	2.3	7	4.6	7	2.5	1	0.7	6	4.3
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	3	1.1	1	0.7	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.09		2.06		2.12		2.19		2.42		1.96	
中央値	2		2		2		2		3		2	
最頻値	2		2		2		2		3		2	
標準偏差	0.83		0.81		0.86		0.77		0.67		0.79	
○運動やスポーツの場面で、自分自身の疲れ具合に応じて運動の仕方をうまくコントロールできますか。												
1 とてもそう思う	83	29.4	35	26.9	48	31.8	106	37.6	73	52.1	32	22.7
2 ややそう思う	123	43.6	57	43.8	66	43.4	113	40.1	46	32.9	67	47.5
3 あまりそう思わない	53	18.8	22	16.9	31	20.5	52	18.4	17	12.1	35	24.8
4 まったくそう思わない	21	7.4	14	10.8	7	4.6	8	2.8	4	2.9	4	2.8
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	3	1.1	0	0.0	3	2.1
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.96		1.88		2.02		2.14		2.34		1.92	
中央値	2		2		2		2		3		2	
最頻値	2		2		2		2		3		2	
標準偏差	0.89		0.94		0.84		0.82		0.80		0.77	
○運動やスポーツの場面で、自分ができるとできないことについて、よく分かっていますか。												
1 とてもそう思う	170	60.3	75	57.7	95	62.9	181	64.2	138	98.6	80	56.7
2 ややそう思う	74	26.2	39	30.0	35	23.2	81	28.7	100	71.4	49	34.8
3 あまりそう思わない	30	10.6	12	9.2	18	11.8	14	5.0	32	22.9	8	5.7
4 まったくそう思わない	2	0.7	1	0.8	1	0.7	3	1.1	6	4.3	3	2.1
欠損値	7	2.5	4	3.1	3	2.0	3	1.1	2	1.4	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.49		2.48		2.50		2.58		2.68		2.47	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.72		0.70		0.73		0.64		0.55		0.70	
○運動やスポーツの場面で、新たなことに挑戦する自信がありますか。												
1 とてもそう思う	106	37.6	59	45.4	47	31.1	87	30.9	59	42.1	27	19.1
2 ややそう思う	105	37.2	41	31.5	64	42.4	87	30.9	40	28.6	47	33.3
3 あまりそう思わない	51	18.1	23	17.7	28	18.4	89	31.6	35	25.0	54	38.3
4 まったくそう思わない	17	6.0	6	4.6	11	7.3	17	6.0	5	3.6	12	8.5
欠損値	4	1.4	2	1.5	2	1.3	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.08		2.19		1.98		1.87		2.10		1.64	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		1		3		1	
標準偏差	0.90		0.89		0.89		0.93		0.90		0.89	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツを積極的に楽しもうとしていますか。												
1 とてもそう思う	177	62.8	92	70.8	85	56.3	156	55.3	104	74.3	51	36.2
2 ややそう思う	75	26.6	29	22.3	46	30.5	88	31.2	24	17.1	64	45.4
3 あまりそう思わない	21	7.4	6	4.6	15	9.9	26	9.2	7	5.0	19	13.5
4 まったくそう思わない	9	3.2	3	2.3	6	4.0	10	3.5	5	3.6	5	3.5
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	2	0.7	0	0.0	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.49		2.62		2.38		2.39		2.62		2.16	
中央値	3		3		3		3		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		2	
標準偏差	0.77		0.69		0.82		0.80		0.74		0.79	
○運動やスポーツをするときによく行く場所がありますか。												
1 とてもそう思う	130	46.1	67	51.5	63	41.7	126	44.7	82	58.6	43	30.5
2 ややそう思う	68	24.1	31	23.8	37	24.5	69	24.5	29	20.7	40	28.4
3 あまりそう思わない	52	18.4	20	15.4	32	21.2	41	14.5	14	10.0	27	19.1
4 まったくそう思わない	31	11.0	12	9.2	19	12.5	45	16.0	15	10.7	30	21.3
欠損値	2	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.06		2.18		1.95		1.98		2.27		1.69	
中央値	2		3		2		2		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	1.04		1.01		1.07		1.11		1.02		1.13	
(社会的領域)												
○試合に負けたあとでも、相手に感謝して握手ができますか。												
1 とてもそう思う	141	49.8	61	46.6	80	52.6	178	63.1	88	62.9	89	63.1
2 ややそう思う	102	36.0	51	38.9	51	33.6	76	27.0	41	29.3	35	24.8
3 あまりそう思わない	29	10.3	14	10.7	15	9.9	16	5.7	8	5.7	8	5.7
4 まったくそう思わない	10	3.5	4	3.1	6	3.9	10	3.5	3	2.1	7	5.0
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	2	0.7	0	0.0	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.33		2.30		2.35		2.51		2.53		2.48	
中央値	2.5		2		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.80		0.78		0.82		0.76		0.70		0.82	
○相手チームの人がけがをしたら、試合やゲーム中でも助けることを優先できますか。												
1 とてもそう思う	178	62.9	73	55.7	105	69.1	183	64.9	84	60.0	98	69.5
2 ややそう思う	82	29.1	43	32.8	39	25.7	83	29.4	50	35.7	33	23.4
3 あまりそう思わない	18	6.4	11	8.4	7	4.6	13	4.6	5	3.6	8	5.7
4 まったくそう思わない	2	0.7	2	1.5	0	0.0	2	0.7	1	0.7	1	0.7
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	130	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.56		2.45		2.65		2.59		2.55		2.63	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.65		0.72		0.57		0.62		0.60		0.63	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○ルールで決まっていなくても、ずるいことはしないと思いますか。												
1 とてもそう思う	190	67.1	83	63.4	107	70.4	210	74.5	100	71.4	109	77.3
2 ややそう思う	57	20.1	29	22.1	28	18.4	50	17.7	26	18.6	24	17.0
3 あまりそう思わない	17	6.0	9	6.9	8	5.3	13	4.6	8	5.7	5	3.5
4 まったくそう思わない	17	6.0	8	6.1	9	5.9	8	2.8	6	4.3	2	1.4
欠損値	2	0.7	2	1.5	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.49		2.45		2.53		2.64		2.57		2.71	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.86		0.87		0.85		0.70		0.79		0.60	
○試合中に失敗した仲間や楽しめていない仲間に、声かけやはげましができますか。												
1 とてもそう思う	150	53.0	69	52.7	81	53.3	173	61.3	83	59.3	89	63.1
2 ややそう思う	101	35.7	45	34.4	56	36.8	90	31.9	47	33.6	43	30.5
3 あまりそう思わない	24	8.5	13	9.9	11	7.2	14	5.0	6	4.3	8	5.7
4 まったくそう思わない	6	2.1	2	1.5	4	2.6	4	1.4	4	2.9	0	0.0
欠損値	2	0.7	2	1.5	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	130	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.41		2.40		2.41		2.54		2.49		2.58	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.74		0.73		0.74		0.66		0.71		0.60	
○審判の判定を受け入れて、審判に対して感謝できますか。												
1 とてもそう思う	131	46.3	52	39.7	79	52.0	174	61.7	87	62.1	86	61.0
2 ややそう思う	117	41.3	56	42.7	61	40.1	86	30.5	44	31.4	42	29.8
3 あまりそう思わない	27	9.6	17	13.0	10	6.6	17	6.0	7	5.0	10	7.1
4 まったくそう思わない	6	2.1	4	3.1	2	1.3	3	1.1	1	0.7	2	1.4
欠損値	2	0.7	1	2.0	0	0.0	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.33		2.21		2.43		2.54		2.56		2.51	
中央値	2		2		3		3		3		3	
最頻値	3		2		3		3		3		3	
標準偏差	0.74		0.79		0.68		0.66		0.63		0.69	
○はじめて会う子どもでも誘って一緒に運動やスポーツをしたいと思いますか。												
1 とてもそう思う	102	36.0	51	38.9	51	33.6	90	31.9	48	34.3	41	29.1
2 ややそう思う	91	32.2	42	32.1	49	32.2	97	34.4	48	34.3	49	34.8
3 あまりそう思わない	64	22.6	29	22.1	35	23.0	71	25.2	31	22.1	40	28.4
4 まったくそう思わない	24	8.5	8	6.1	16	10.5	23	8.2	13	9.3	10	7.1
欠損値	2	0.7	1	0.8	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.96		2.05		1.89		1.90		1.94		1.86	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		3		2		2		2	
標準偏差	0.97		0.93		0.99		0.95		0.97		0.92	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツの場で、他の子どもがうまくできるようにサポートすることができますか。												
1 とても思う	113	39.9	55	42.0	58	38.2	118	41.8	57	40.7	60	42.6
2 やや思う	116	41.0	51	38.9	65	42.8	109	38.7	54	38.6	55	39.0
3 あまりそう思わない	41	14.5	19	14.5	22	14.5	44	15.6	24	17.1	20	14.2
4 まったくそう思わない	12	4.2	5	3.8	7	4.6	9	3.2	4	2.9	5	3.5
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	130	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.17		2.20		2.14		2.20		2.18		2.21	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		3		2		3		3		3	
標準偏差	0.83		0.83		0.83		0.82		0.82		0.82	
○運動やスポーツのやり方や楽しみ方を、他の国の人やいろいろな楽しみ方を知っている人から学びたいと思いますか。												
1 とても思う	106	37.5	54	41.2	52	34.2	113	40.1	60	42.9	52	36.9
2 やや思う	90	31.8	30	22.9	60	39.5	89	31.6	48	34.3	41	29.1
3 あまりそう思わない	58	20.5	32	24.4	26	17.1	64	22.7	26	18.6	38	27.0
4 まったくそう思わない	25	8.8	13	9.9	12	7.9	15	5.3	6	4.3	9	6.4
欠損値	4	1.4	2	1.5	2	1.3	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	1.99		1.97		2.01		2.07		2.16		1.97	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		3		3		3	
標準偏差	0.97		1.04		0.92		0.92		0.88		0.95	
○運動やスポーツを行うための用具や施設を大切に使うことを心がけ、手入れや掃除などをすすんで行うことができますか。												
1 とても思う	150	53.0	59	45.0	91	59.9	151	53.5	74	52.9	76	53.9
2 やや思う	91	32.3	48	36.6	43	28.3	100	35.5	53	37.9	47	33.3
3 あまりそう思わない	32	11.3	18	13.7	14	9.2	26	9.2	11	7.9	15	10.6
4 まったくそう思わない	6	2.1	4	3.1	2	1.3	3	1.1	1	0.7	2	1.4
欠損値	4	1.4	2	1.5	2	1.3	2	0.7	1	0.7	1	0.7
合計	283	100.0	130	100.0	151	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.38		2.26		2.49		2.43		2.44		2.41	
中央値	3		2		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.77		0.81		0.72		0.70		0.67		0.74	
○運動やスポーツの場で、仲間と意見が食い違ったとき、相手の意見を大切にしながら問題を解決することができますか。												
1 とても思う	102	36.0	37	28.2	65	42.8	136	48.2	63	45.0	72	51.1
2 やや思う	141	49.8	70	53.4	71	46.7	115	40.8	62	44.3	53	37.6
3 あまりそう思わない	35	12.4	21	16.0	14	9.2	26	9.2	14	10.0	12	8.5
4 まったくそう思わない	4	1.4	2	1.5	2	1.3	4	1.4	1	0.7	3	2.1
欠損値	1	0.4	1	0.8	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	130	100.0	151	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.21		2.09		2.31		2.36		2.34		2.39	
中央値	2		2		2		2		2		3	
最頻値	2		2		2		3		3		3	
標準偏差	0.71		0.71		0.69		0.71		0.69		0.74	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
(認知的領域)												
○運動やスポーツを行うことの効果を理解していますか。												
1 とても思う	161	56.9	71	54.2	90	59.2	185	65.6	100	71.4	140	99.3
2 やや思う	90	31.9	42	32.1	48	31.6	81	28.7	34	24.3	84	59.6
3 あまり思わない	22	7.8	13	9.9	9	5.9	14	5.0	5	3.6	47	33.3
4 まったく思わない	7	2.5	2	1.5	5	3.3	1	0.4	1	0.7	9	6.4
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.45		2.42		2.47		2.60		2.66		2.54	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.75		0.74		0.75		0.60		0.58		0.62	
○運動やスポーツの場面で、ルールを守ることの大切さを理解していますか。												
1 とても思う	214	75.9	92	70.2	133	80.3	281	99.6	120	85.7	116	82.3
2 やや思う	60	21.2	32	24.4	28	18.4	237	84.0	20	14.3	23	16.3
3 あまり思わない	4	1.4	4	3.1	0	0.0	43	15.2	0	0.0	1	0.7
4 まったく思わない	2	0.7	0	0.0	2	1.3	1	0.4	0	0.0	0	0.0
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.74		2.69		2.78		2.84		2.86		2.82	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.52		0.53		0.50		0.38		0.35		0.40	
○運動やスポーツの場面で、自分やみんなが楽しめるようにルールを工夫することができますか。												
1 とても思う	111	39.2	49	37.4	62	40.8	152	53.9	74	52.9	77	54.6
2 やや思う	119	42.0	55	42.0	64	42.1	101	35.8	54	38.6	47	33.3
3 あまり思わない	44	15.5	19	14.5	25	16.4	25	8.9	12	8.6	13	9.2
4 まったく思わない	6	2.1	5	3.8	1	0.7	2	0.7	0	0.0	2	1.4
欠損値	3	1.1	3	2.5	0	0.0	2	0.7	0	0.0	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.20		2.16		2.23		2.44		2.44		2.43	
中央値	2		2		2		3		3		3	
最頻値	2		2		2		3		3		3	
標準偏差	0.78		0.82		0.74		0.69		0.65		0.72	
○自分のやりたい運動やスポーツができないときに、その理由を考えて別のやり方や活動を選ぶことができますか。												
1 とても思う	92	32.5	41	31.3	51	33.6	129	45.7	68	48.6	60	42.6
2 やや思う	114	40.3	48	36.6	66	43.4	110	39.0	53	37.9	57	40.4
3 あまり思わない	62	21.9	35	26.7	27	17.8	34	12.1	17	12.1	17	12.1
4 まったく思わない	12	4.2	5	3.8	7	4.6	8	2.8	2	1.4	6	4.3
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.02		1.97		2.07		2.28		2.34		2.22	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		3		3		3	
標準偏差	0.85		0.87		0.84		0.79		0.75		0.82	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツを行うときに、自分にとってより良い手段や方法、計画を考えることができますか。												
1 とても思う	101	35.7	53	40.5	48	31.6	131	46.5	72	51.4	58	41.1
2 やや思う	117	41.3	53	40.5	64	42.1	100	35.5	44	31.4	56	39.7
3 あまりそう思わない	55	19.4	22	16.8	33	21.7	44	15.6	22	15.7	22	15.6
4 まったくそう思わない	7	2.5	1	0.8	6	3.9	6	2.1	2	1.4	4	2.8
欠損値	3	1.1	2	1.5	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.11		2.22		2.02		2.27		2.33		2.20	
中央値	2		2		2		2		3		2	
最頻値	2		2		2		3		3		3	
標準偏差	0.80		0.75		0.84		0.80		0.79		0.81	
○運動やスポーツの場面で、どうすれば成功できるかを考えることができますか。												
1 とても思う	141	49.8	65	49.6	76	50.0	155	55.0	85	60.7	69	48.9
2 やや思う	104	36.7	50	38.2	54	35.5	103	36.5	45	32.1	58	41.1
3 あまりそう思わない	29	10.2	12	9.2	17	11.2	19	6.7	9	6.4	10	7.1
4 まったくそう思わない	5	1.8	1	0.8	4	2.6	4	1.4	1	0.7	3	2.1
欠損値	4	1.4	3	2.3	1	0.7	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.37		2.40		2.34		2.46		2.53		2.38	
中央値	3		3		3		3		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.74		0.69		0.78		0.69		0.65		0.71	
○運動やスポーツの場面で、自分ができそうだと感じ、自分のやり方でどのように取り組みればよいのか自然と思いつくことができますか。												
1 とても思う	94	33.2	49	37.4	45	29.6	132	46.8	78	55.7	53	37.6
2 やや思う	118	41.7	46	35.1	72	47.4	90	31.9	36	25.7	54	38.3
3 あまりそう思わない	57	20.1	29	22.1	28	18.4	52	18.4	24	17.1	28	19.9
4 まったくそう思わない	10	3.5	4	3.1	6	3.9	6	2.1	2	1.4	4	2.8
欠損値	4	1.4	3	2.3	1	0.7	2	0.7	0	0.0	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.06		2.09		2.03		2.24		2.36		2.12	
中央値	2		2		2		2		3		2	
最頻値	2		3		2		3		3		2	
標準偏差	0.83		0.86		0.80		0.83		0.81		0.83	
○運動やスポーツの場面で、安全に注意して活動できますか。												
1 とても思う	193	68.2	77	58.8	116	76.3	201	71.3	98	70.0	102	72.3
2 やや思う	72	25.4	41	31.3	31	20.4	71	25.2	38	27.1	33	23.4
3 あまりそう思わない	11	3.9	8	6.1	3	2.0	6	2.1	4	2.9	2	1.4
4 まったくそう思わない	4	1.4	2	1.5	2	1.3	2	0.7	0	0.0	2	1.4
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	2	0.7	0	0.0	2	1.4
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.62		2.51		2.72		2.68		2.67		2.69	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.63		0.69		0.57		0.55		0.53		0.58	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツを行っている際に、自分のできばえを自分自身で評価することができますか。												
1 とてもそう思う	124	43.8	56	42.7	68	44.7	143	50.7	77	55.0	65	46.1
2 ややそう思う	105	37.1	43	32.8	62	40.8	97	34.4	41	29.3	56	39.7
3 あまりそう思わない	31	11.0	18	13.7	13	8.6	34	12.1	19	13.6	15	10.6
4 まったくそう思わない	20	7.1	11	8.4	9	5.9	7	2.5	3	2.1	4	2.8
欠損値	3	1.1	3	2.3	0	0.0	1	0.4	0	0.0	1	0.7
合計	283	100.0	131	100.0	152	100.0	282	100.0	140	100.0	141	100.0
平均値	2.19		2.13		2.24		2.34		2.37		2.30	
中央値	2		2		2		3		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.90		0.96		0.85		0.79		0.80		0.77	

表4 4領域の得点率、Total得点率の基礎集計

領域	学年・性別	対象者数	有効数	欠損数	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
身体的領域 得点率(%)	小学校5年生	283	261	22	61.70	61.54	53.85	19.66	0.00	100.00
	小5男子	131	118	13	63.67	64.10	53.85	20.02	0.00	100.00
	小5女子	152	143	9	60.07	58.97	53.85	19.28	2.56	97.44
	中学校2年生	282	273	9	53.94	53.85	41.03	21.21	0.00	100.00
	中2男子	140	136	4	57.52	58.97	46.15	21.63	0.00	100.00
	中2女子	141	136	5	50.02	48.72	41.03	19.85	2.56	89.74
心理的領域 得点率(%)	小学校5年生	283	266	17	73.38	76.19	80.95	19.77	9.52	100.00
	小5男子	131	121	10	74.73	76.19	100.00	18.57	14.29	100.00
	小5女子	152	145	7	72.25	76.19	80.95	20.71	9.52	100.00
	中学校2年生	282	274	8	73.41	76.19	100.00	21.23	9.52	100.00
	中2男子	140	137	3	80.95	85.71	100.00	18.49	14.29	100.00
	中2女子	141	136	5	65.62	66.67	52.38	21.04	9.52	100.00
社会的領域 得点率(%)	小学校5年生	283	274	9	76.42	80.00	90.00	17.02	13.33	100.00
	小5男子	131	127	4	74.80	76.67	73.33	17.42	20.00	100.00
	小5女子	152	147	5	77.82	80.00	90.00	16.61	13.33	100.00
	中学校2年生	282	278	4	79.40	83.33	100.00	16.48	16.67	100.00
	中2男子	140	138	2	79.47	81.67	100.00	15.96	23.33	100.00
	中2女子	141	139	2	79.18	83.33	100.00	17.00	16.67	100.00
認知的領域 得点率(%)	小学校5年生	283	271	12	76.78	77.78	100.00	18.19	11.11	100.00
	小5男子	131	123	8	75.91	77.78	100.00	18.46	11.11	100.00
	小5女子	152	148	4	77.50	79.63	100.00	17.98	14.81	100.00
	中学校2年生	282	278	4	82.16	85.19	100.00	16.10	37.04	100.00
	中2男子	140	140	0	83.55	85.19	100.00	15.90	40.74	100.00
	中2女子	141	137	4	80.62	81.48	100.00	16.22	37.04	100.00
Total 得点率(%)	小学校5年生	283	234	49	72.25	73.81	99.36	16.42	11.35	100.00
	小5男子	131	104	27	71.76	73.58	99.36	17.06	11.35	100.00
	小5女子	152	130	22	72.63	73.91	99.36	15.95	25.08	99.36
	中学校2年生	282	261	21	72.56	73.94	85.93	15.60	27.18	100.00
	中2男子	140	132	8	75.83	79.24	85.93	15.30	27.18	100.00
	中2女子	141	128	13	68.97	70.04	97.44	15.05	29.30	97.44

表5-1 領域ごとの相関係数（小学校5年生）

	身体	心理	社会	認知	Total
身体	1				
心理	.713**	1			
社会	.512**	.663**	1		
認知	.610**	.726**	.739**	1	
Total	.835**	.895**	.831**	.888**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

表5-3 領域ごとの相関係数（中学校2年生）

	身体	心理	社会	認知	Total
身体	1				
心理	.711**	1			
社会	.377**	.525**	1		
認知	.531**	.690**	.698**	1	
Total	.824**	.901**	.723**	.844**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

表5-2 領域ごとの相関係数（小5男子／女子）

	身体	心理	社会	認知	Total
身体	1	.734**	.603**	.721**	.871**
心理	.696**	1	.641**	.739**	.872**
社会	.469**	.698**	1	.804**	.864**
認知	.526**	.722**	.680**	1	.924**
Total	.809**	.913**	.815**	.857**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

注）右上：男子，左下：女子

表5-4 領域ごとの相関係数（中2男子／女子）

	身体	心理	社会	認知	Total
身体	1	.657**	.444**	.576**	.834**
心理	.718**	1	.591**	.715**	.860**
社会	.272**	.536**	1	.717**	.758**
認知	.408**	.669**	.690**	1	.851**
Total	.754**	.911**	.735**	.834**	1

**相関係数は1%水準で有意（両側）

注）右上：男子，左下：女子

6因子には社会的領域の3項目，第7因子には認知的領域の2項目が0.4以上の因子負荷量を示した（表6-1）。仮説として想定していた4因子の単純構造にはならなかったものの，身体的領域の項目を中心とした2因子，心理的領域の項目を中心とした1因子，社会的領域の項目を中心とした2因子，認知的領域の項目を中心とした2因子が抽出された。

次に，4因子に固定して探索的因子分析を行った結果を表6-2に示した。第1因子に身体的領域の12項目が高い因子負荷量を示した。第2因子に社会的領域の9項目と認知的領域の2項目が高い因子負荷量を示した。第3因子に心理的領域の4項目と身体的領域の1項目と社会的領域の1項目が高い因子負荷量を示した。第4因子に認知的領域の6項目が高い因子負荷量を示した。固有値1以上の基準と4因子固定にした因子分析のいずれの分析においても，因子負荷量が高い値を示さなかった項目がいくつかあった。また，複数の因子に高い因子負荷量を示す項目もあったことから，項目選定を検討した。項目選定にあたっては，仮定する4領域の内容的妥当性を担保するために，領域ごとに因子分析を実施した。

表6-3は身体的領域13項目を用いた探索的因子分析の結果である。2因子が抽出され，身体的領域11（筋力：力強さ）と身体的領域9（柔軟性：体の柔らかさ）の2項目はいずれの因子に対しても高い因子負荷量を示さなかった。この2項目を除外したうえで，身体的領域11項目の1因子モデルを仮定し，確認的因子分析を行った結果，一部の誤差項同士の相関を仮定する修正を行ったモデルが採択基準を満たす適合度を示した（図1）。

表6-4は心理的領域7項目を用いた探索的因子分析の結果である。2因子が抽出され，心理的領域4（自己認識：自分の能力の理解）はいずれの因子に対しても高い因子負荷量を示さなかった。表6-5は社会的領域10項目を用いた探索的因子分析の結果である。2因子が抽出され，社会的領域9（スポーツ環境への配慮：道具や施設を大切にする心）と社会的領域4（寛容の精神：仲間の受け入れ，思いやり）はいずれの因子に対しても高い因子負荷量を示さなかった。表6-6は認知的領域9項目を用いた探索的因子分析の結果である。1因子が抽出され，いずれの項目も0.4以上の高い因子負荷量を示した。探索的因子分析結果を踏まえて，心理的領域は1項

表6-1 探索的因子分析結果 パターン行列（固有値1）

	項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子
身体的領域13	スピード（走る速さ）	1.049	-0.004	-0.045	-0.116	-0.121	-0.009	0.081
身体的領域1	移動技能（体を移動させる動き）	0.681	-0.038	-0.005	0.144	0.096	0.032	-0.050
身体的領域10	敏捷性（素早い身のこなし）	0.631	0.030	0.152	0.023	0.001	-0.061	-0.013
身体的領域4	全身持久力（スタミナ）	0.580	0.029	-0.042	0.010	0.195	0.044	-0.056
身体的領域12	反応時間（素早い反応）	0.517	-0.021	0.003	0.308	-0.059	0.054	0.039
社会的領域1	倫理観（勝敗に関わらない相手への尊重）	0.097	0.776	-0.186	-0.045	-0.035	-0.011	0.087
社会的領域5	相互尊敬（審判に対する態度と感謝）	-0.034	0.596	-0.020	-0.093	-0.006	0.169	0.068
社会的領域10	課題解決に向けた協力関係（課題を解決するための協力）	-0.003	0.513	0.195	-0.050	-0.064	0.041	0.089
心理的領域2	感情の調整・制御（気持ちのコントロール）	0.060	0.506	0.131	-0.026	0.259	-0.208	-0.055
社会的領域3	倫理観（真の公正さ）	-0.046	0.472	-0.098	0.190	-0.122	-0.038	0.167
社会的領域2	倫理観（相手を大切にすることと行動）	-0.020	0.472	0.075	0.017	-0.172	0.227	-0.107
心理的領域3	身体活動の調整・制御（活動レベルのコントロール）	0.072	0.319	0.291	0.029	0.200	-0.094	-0.111
社会的領域4	寛容の精神（仲間の受け入れ、思いやり）	-0.085	0.279	0.269	0.073	0.004	0.198	-0.059
心理的領域4	自己認識（自分の能力の理解）	-0.109	0.230	0.181	0.097	0.169	-0.083	-0.054
認知的領域5	戦略と計画（よい手立てを考えること）	0.164	-0.117	0.973	-0.107	-0.123	-0.054	0.038
認知的領域3	ルールのアレンジ（ルールの工夫）	-0.131	0.023	0.763	0.068	-0.124	0.050	0.035
認知的領域4	推論（理由を考え解決すること）	0.008	0.146	0.729	-0.052	-0.078	-0.005	-0.005
認知的領域7	知覚的認識（状況把握・予測した行動）	0.018	-0.024	0.618	0.011	0.075	0.150	-0.020
認知的領域6	戦術（成功するための考え方）	0.034	-0.002	0.596	-0.036	0.111	0.041	0.164
認知的領域9	自己観察能力（自分のできばえの評価）	-0.037	0.078	0.477	0.099	0.037	-0.047	0.148
身体的領域8	安定性/バランス（バランスをとる動き）	0.022	-0.024	-0.089	0.715	0.045	-0.016	0.006
身体的領域7	身体的なリズム感（リズムカルな体の動き）	-0.019	0.016	0.012	0.636	-0.111	0.030	0.078
身体的領域2	道具を使った移動（道具を使って移動すること）	-0.072	0.108	0.043	0.560	0.111	-0.097	-0.017
身体的領域6	協調性（調整力）	0.239	0.043	0.018	0.457	0.009	-0.033	-0.001
身体的領域5	筋持久力（一定の力を出し続けること）	0.332	0.091	0.015	0.413	0.014	0.033	-0.105
身体的領域9	柔軟性（体の柔らかさ）	0.076	-0.018	-0.063	0.386	-0.058	0.067	0.041
身体的領域11	筋力（力強さ）	0.215	-0.009	0.100	0.300	-0.008	-0.020	-0.046

	項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子
心理的領域1	モチベーション（運動・スポーツへの意欲）	0.092	0.021	-0.148	-0.072	0.928	0.011	0.092
心理的領域6	楽しさ（楽しもうとする態度）	0.146	0.043	-0.053	-0.124	0.714	0.113	0.015
心理的領域7	場所とのつながり（運動やスポーツをするお気に入りの場所）	-0.005	-0.171	0.009	0.118	0.640	0.034	0.084
心理的領域5	自信（自分を信じること）	0.094	-0.048	0.151	0.051	0.550	0.154	-0.099
身体的領域3	用具の操作（用具を操作する動き）	0.135	-0.235	0.010	0.242	0.485	0.002	0.058
社会的領域6	人間関係（人との関わり）	0.027	0.128	-0.007	0.010	0.042	0.751	-0.174
社会的領域8	社会と文化（さまざまな楽しみ方に対する学習意欲）	0.064	0.136	-0.001	-0.095	0.219	0.501	0.059
社会的領域7	協力（他者へのサポート）	-0.035	-0.028	0.267	0.061	0.090	0.435	0.017
認知的領域2	ルールの遵守（ルールを守ること）	-0.011	0.159	0.109	0.039	0.042	-0.148	0.569
認知的領域1	知識（運動・スポーツ実践の効果の理解）	0.082	0.091	0.194	-0.122	0.243	-0.115	0.496
認知的領域8	安全性とリスク（安全に活動すること）	-0.057	0.236	-0.022	0.158	0.005	0.026	0.398
社会的領域9	スポーツ環境への配慮（道具や施設を大切にすること）	0.002	0.288	-0.013	0.078	-0.026	0.311	0.326
因子相関行列		1	2	3	4	5	6	7
	1	1						
	2	0.215	1					
	3	0.475	0.674	1				
	4	0.625	0.404	0.578	1			
	5	0.692	0.435	0.711	0.608	1		
	6	0.317	0.511	0.613	0.419	0.521	1	
	7	0.148	0.476	0.500	0.251	0.349	0.524	1

※因子数決定：固有値1基準

表 6-2 探索的因子分析結果 パターン行列 (4 因子固定)

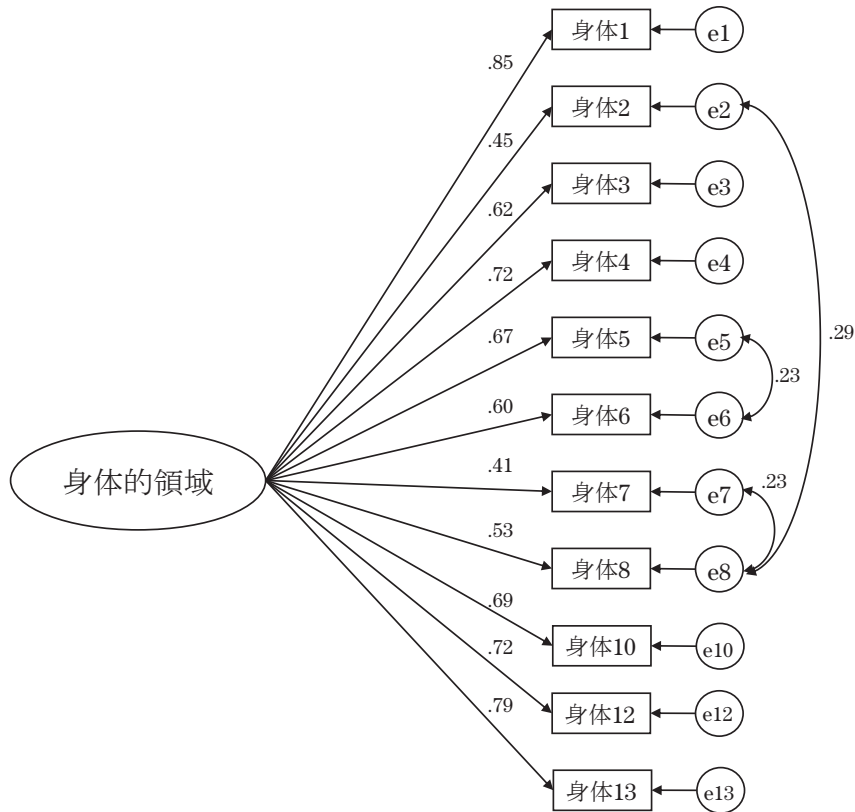
項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
身体的領域5 筋持久力(一定の力を出し続けること)	0.707	0.087	-0.030	0.007
身体的領域1 移動技能(体を移動させる動き)	0.691	-0.146	0.267	-0.027
身体的領域12 反応時間(素早い反応)	0.680	0.012	0.072	-0.013
身体的領域8 安定性/バランス(バランスをとる動き)	0.654	0.136	-0.106	-0.050
身体的領域13 スピード(走る速さ)	0.654	-0.188	0.269	-0.070
身体的領域6 協調性(調整力)	0.638	0.101	-0.052	0.012
身体的領域7 身体的なリズム感(リズムカルな体の動き)	0.546	0.239	-0.224	0.038
身体的領域10 敏捷性(素早い身のこなし)	0.536	-0.123	0.157	0.124
身体的領域4 全身持久力(スタミナ)	0.506	-0.094	0.345	-0.062
身体的領域11 筋力(力強さ)	0.482	-0.012	-0.056	0.106
身体的領域2 道具を使った移動(道具を使って移動すること)	0.479	0.196	-0.096	0.065
身体的領域9 柔軟性(体の柔らかさ)	0.407	0.127	-0.095	-0.047
社会的領域1 倫理観(勝敗に関わらない相手への尊重)	0.070	0.731	-0.026	-0.190
社会的領域5 相互尊敬(審判に対する態度と感謝)	-0.081	0.709	0.052	-0.070
社会的領域9 スポーツ環境への配慮(道具や施設を大切にすること)	-0.002	0.676	0.164	-0.036
社会的領域3 倫理観(真の公正さ)	0.150	0.606	-0.189	-0.114
社会的領域10 課題解決に向けた協力関係(課題を解決するための協力)	-0.031	0.585	-0.034	0.144
認知的領域8 安全性とリスク(安全に活動すること)	0.022	0.540	0.065	-0.025
社会的領域2 倫理観(相手を大切にすることと行動)	0.032	0.534	-0.125	0.030
認知的領域2 ルールの遵守(ルールを守ること)	-0.062	0.427	0.112	0.110
社会的領域6 人間関係(人との関わり)	0.023	0.412	0.291	-0.019
社会的領域4 寛容の精神(仲間の受け入れ, 思いやり)	0.041	0.404	0.010	0.219
心理的領域2 感情の調整・制御(気持ちのコントロール)	0.116	0.316	0.116	0.123
社会的領域7 協力(他者へのサポート)	-0.005	0.285	0.261	0.217
心理的領域4 自己認識(自分の能力の理解)	0.066	0.198	0.024	0.173
心理的領域1 モチベーション(運動・スポーツへの意欲)	0.034	0.048	0.908	-0.114
心理的領域6 楽しさ(楽しもうとする態度)	0.004	0.060	0.818	-0.069
心理的領域7 場所とのつながり(運動やスポーツをするお気に入りの場所)	0.102	-0.049	0.609	0.024
心理的領域5 自信(自分を信じること)	0.148	-0.005	0.582	0.132
身体的領域3 用具の操作(用具を操作する動き)	0.314	-0.144	0.473	0.025
社会的領域8 社会と文化(さまざまな楽しみ方に対する学習意欲)	-0.064	0.421	0.460	-0.034
認知的領域1 知識(運動・スポーツ実践の効果の理解)	-0.120	0.293	0.362	0.179
認知的領域5 戦略と計画(よい手立てを考えること)	0.042	-0.120	-0.035	0.902
認知的領域3 ルールのアレンジ(ルールの工夫)	-0.039	0.168	-0.138	0.714
認知的領域4 推論(理由を考え解決すること)	0.001	0.172	-0.080	0.669
認知的領域7 知覚的認識(状況把握・予測した行動)	0.030	0.088	0.138	0.574
認知的領域6 戦術(成功するための考え方)	-0.028	0.147	0.197	0.550
認知的領域9 自己観察能力(自分のできばえの評価)	0.056	0.210	0.017	0.444
心理的領域3 身体活動の調整・制御(活動レベルのコントロール)	0.166	0.192	0.103	0.267
因子相関行列	1	2	3	4
1	1			
2	0.326	1		
3	0.691	0.462	1	
4	0.543	0.706	0.697	1

※因子数決定: 4 因子固定

表 6-3 領域別探索的因子分析結果 パターン行列（身体的領域/固有値 1）

項目	第1因子	第2因子
身体的領域13 スピード（走る速さ）	1.034	-0.249
身体的領域1 移動技能（体を移動させる動き）	0.756	0.111
身体的領域4 全身持久力（スタミナ）	0.714	0.002
身体的領域10 敏捷性（素早い身のこなし）	0.690	0.009
身体的領域12 反応時間（素早い反応）	0.535	0.241
身体的領域3 用具の操作（用具を操作する動き）	0.419	0.269
身体的領域11 筋力（力強さ）	0.278	0.266
身体的領域8 安定性/バランス（バランスをとる動き）	-0.008	0.712
身体的領域7 身体的なリズム感（リズムカルな体の動き）	-0.114	0.657
身体的領域2 道具を使った移動（道具を使って移動すること）	-0.017	0.623
身体的領域6 調整性（調整力）	0.249	0.453
身体的領域5 筋持久力（一定の力を出し続けること）	0.354	0.421
身体的領域9 柔軟性（体の柔らかさ）	0.025	0.374
因子相関行列	1	2
	1	1
	2	0.687
		1

※因子数決定：固有値1基準



GFI = 0.941 AGFI = 0.905 CFI = 0.951 RMSEA = 0.075

図 1 探索的因子分析を踏まえた領域別確認的因子分析（身体的領域）

表 6-4 領域別探索的因子分析結果 パターン行列（心理的領域/固有値 1）

項目	第1因子	第2因子
心理的領域1 モチベーション（運動・スポーツへの意欲）	0.870	0.014
心理的領域6 楽しさ（楽しもうとする態度）	0.832	-0.020
心理的領域5 自信（自分を信じること）	0.753	0.053
心理的領域7 場所とのつながり（運動やスポーツをするお気に入りの場所）	0.650	0.030
心理的領域3 身体活動の調整・制御（活動レベルのコントロール）	-0.011	0.752
心理的領域2 感情の調整・制御（気持ちのコントロール）	0.024	0.674
心理的領域4 自己認識（自分の能力の理解）	0.065	0.378
因子相関行列	1	2
	1	1
	2	0.623
		1

※因子数決定：固有値1基準

表 6-5 領域別探索的因子分析結果 パターン行列（社会的領域/固有値 1）

項目	第1因子	第2因子
社会的領域1 倫理観（勝敗に関わらない相手への尊重）	0.722	-0.090
社会的領域10 課題解決に向けた協力関係（課題を解決するための協力）	0.660	0.035
社会的領域5 相互尊敬（審判に対する態度と感謝）	0.620	0.054
社会的領域2 倫理観（相手を大切にすることと行動）	0.510	0.035
社会的領域3 倫理観（真の公正さ）	0.497	-0.049
社会的領域9 スポーツ環境への配慮（道具や施設を大切にすること）	0.393	0.384
社会的領域6 人間関係（人との関わり）	-0.110	0.814
社会的領域8 社会と文化（さまざまな楽しみ方に対する学習意欲）	-0.004	0.732
社会的領域7 協力（他者へのサポート）	-0.004	0.700
社会的領域4 寛容の精神（仲間の受け入れ、思いやり）	0.299	0.371
因子相関行列	1	2
	1	1
	2	0.695
		1

※因子数決定：固有値1基準

表 6-6 領域別探索的因子分析結果 因子行列（認知的領域/固有値 1）

項目	第1因子
認知的領域6 戦術（成功するための考え方）	0.793
認知的領域5 戦略と計画（よい手立てを考えること）	0.774
認知的領域7 知覚的認識（状況把握・予測した行動）	0.747
認知的領域4 推論（理由を考え解決すること）	0.716
認知的領域3 ルールのアレンジ（ルールの工夫）	0.687
認知的領域1 知識（運動・スポーツ実践の効果の理解）	0.632
認知的領域9 自己観察能力（自分のできばえの評価）	0.632
認知的領域2 ルールの遵守（ルールを守ること）	0.510
認知的領域8 安全性とリスク（安全に活動すること）	0.492

※因子数決定：固有値1基準

目減らし6項目、社会的領域は2項目減らし8項目、認知的領域はそのまま9項目を用いて、領域ごとに1因子モデルを仮定し、確認的因子分析を行った。その結果、一部の誤差項同士の相関を仮定する修正を行ったすべてのモデルが採択基準を満たす適合度を示した（図2, 3, 4）。以上のことから、身体的領域11項目、心理的領域6項目、社会的領域8項目、認知的領域9項目がPhysical Literacyの4つの領域を評価する構成概念妥当性の高い尺度であることが示唆された。しかしながら、分析に用いたデータ数が属性ごとの分析ができるほどの十分なデータ数ではなかったため、因子構造の性差や学年差の検討はできていない。加えて、特定の自治体の学校に通う対象者の結果であるため、異なる属性の対象者を増やして外的妥当性の検討が必要である。

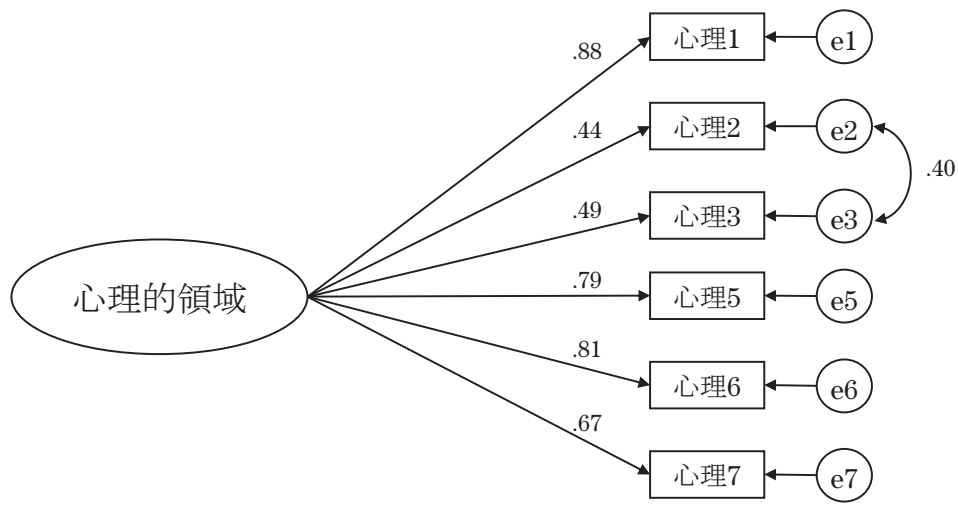
3.3 Physical Literacyと体力の関係

表7はPhysical Literacy評価尺度の各領域の得点率と新体力テストの項目別得点および合計得点との相関関係を表している。Physical Literacyの身体的領域は、各体力要素について「○○が得意ですか？」という質問で評価される。したがって、

体力テストとの相関が高いことが想定され、他方で、それ以外の領域は体力テストとの相関は身体領域と比べて低いことが想定される。表7では新体力テストの全項目との相関係数を算出しているが、身体的領域の得点率は、身体的領域13項目の総合評価といえるため、新体力テストの合計得点との相関係数に着目すると、小学5年生は男子が0.576、女子が0.523、中学2年生は男子が0.496、女子が0.521といずれも中程度の相関関係を示した。一方、心理的領域の得点率は0.3～0.4、社会的領域の得点率は0.2以下、認知的領域の得点率は0.2～0.3であり、身体的領域の得点率よりも低い相関関係を示した。これらの結果は、Physical Literacy評価尺度が高い基準関連妥当性を有していることを示唆する。また、Total得点率と合計得点との相関係数が0.3～0.4程度であるということは、新体力テストでは評価することができていない概念をPhysical Literacy評価尺度が網羅していることを物語っている。

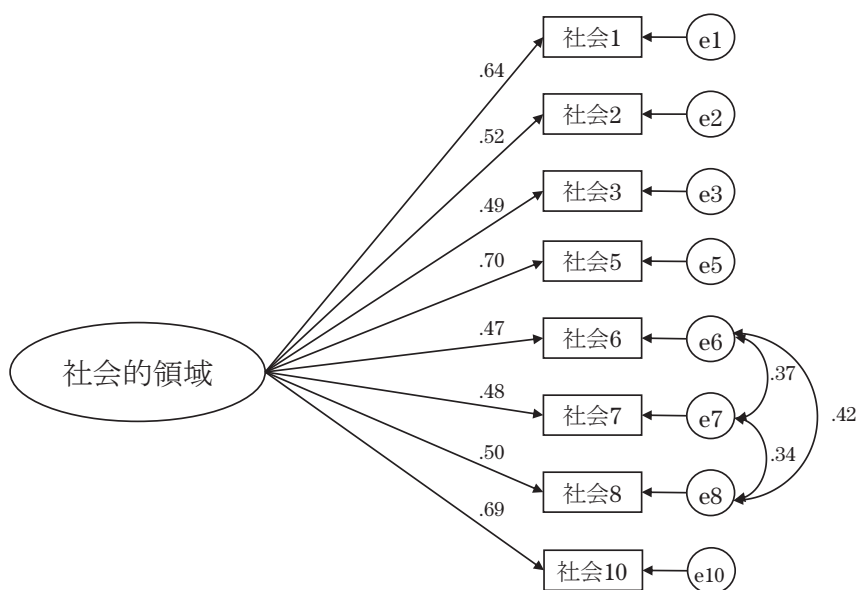
4. さいごに

本稿では、特定の自治体に調査協力の依頼をし、



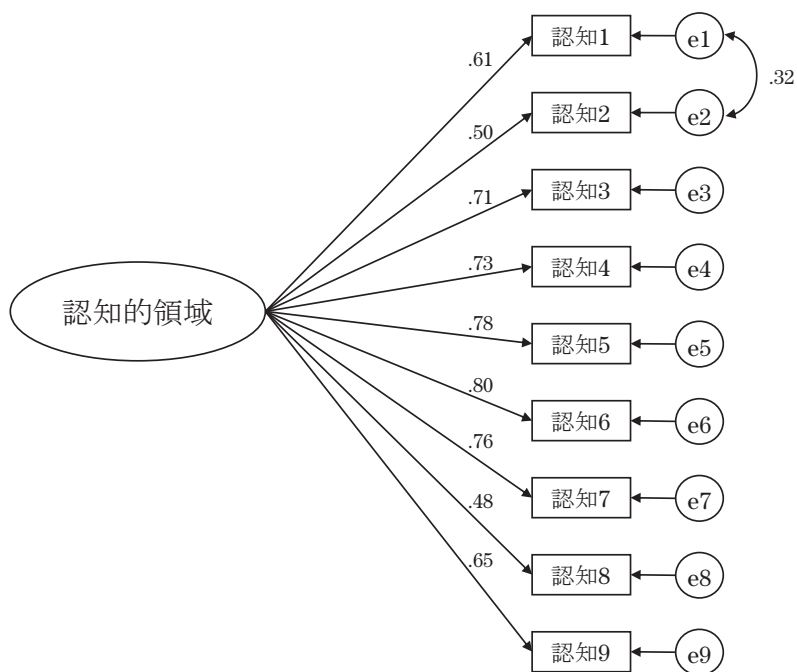
GFI = 0.985 AGFI = 0.960 CFI = 0.987 RMSEA = 0.064

図2 探索的因子分析を踏まえた領域別確認的因子分析 (心理的領域)



GFI = 0.979 AGFI = 0.956 CFI = 0.976 RMSEA = 0.054

図3 探索的因子分析を踏まえた領域別確認の因子分析（社会的領域）



GFI = 0.967 AGFI = 0.942 CFI = 0.973 RMSEA = 0.062

図4 探索的因子分析を踏まえた領域別確認の因子分析（認知的領域）

表7 Physical Literacyと体力テストの相関関係

領域	学年・性別	握力得点	上体起こし 得点	長座体前屈 得点	反復横とび 得点	20mシャット ラン得点	持久走得点	50m走得点	立ち幅とび 得点	ボール投げ 得点	合計得点
身体的領域 得点率	小学校5年生	.216**	.266**	.281**	.393**	.455**	-	.436**	.335**	.380**	.515**
	小5男子	.325**	.408**	.283**	.368**	.433**	-	.400**	.309**	.407**	.576**
	小5女子	.208*	.249**	.273**	.439**	.486**	-	.467**	.381**	.438**	.523**
	中学校2年生	.168**	.462**	.177**	.458**	.499**	.581**	.454**	.407**	.315**	.453**
	中2男子	.380**	.519**	.220*	.494**	.468**	.544**	.485**	.497**	.415**	.496**
心理的領域 得点率	中2女子	.126	.400**	.174*	.463**	.473**	.701**	.589**	.471**	.327**	.521**
	小学校5年生	.137*	.313**	.141*	.346**	.400**	-	.377**	.249**	.327**	.418**
	小5男子	.182	.364**	.183	.250*	.409**	-	.354**	.238*	.398**	.424**
	小5女子	.145	.343**	.100	.429**	.410**	-	.401**	.283**	.338**	.449**
	中学校2年生	-.066	.392**	.095	.320**	.519**	.414**	.269**	.186**	.226**	.307**
社会的領域 得点率	中2男子	.193*	.423**	.117	.350**	.384**	.246	.302**	.255**	.297**	.349**
	中2女子	-.036	.416**	.161	.382**	.590**	.680**	.508**	.377**	.380**	.490**
	小学校5年生	.118	.165*	.088	.166*	.195**	-	.119	.109	.155*	.200**
	小5男子	.175	.162	.182	.113	.112	-	.080	.072	.125	.203*
	小5女子	.065	.173	-.001	.206*	.263**	-	.155	.135	.189*	.201*
認知的領域 得点率	中学校2年生	-.038	.126*	.025	.081	.257**	.153	.088	.044	.026	.073
	中2男子	.037	.172*	.014	.164	.203	-.044	.097	.086	.040	.100
	中2女子	-.132	.085	.025	.019	.308**	.312*	.109	.026	.012	.056
	小学校5年生	.105	.156*	.114	.233**	.221**	-	.145*	.047	.142*	.214**
	小5男子	.203*	.258**	.159	.162	.203*	-	.107	-.033	.116	.229*
Total 得点率	小5女子	.040	.097	.084	.301**	.240**	-	.179*	.122	.197*	.234**
	中学校2年生	.001	.291**	.070	.255**	.322**	.396**	.210**	.196**	.161**	.258**
	中2男子	.135	.315**	.110	.272**	.235*	.278	.255**	.325**	.196*	.297**
	中2女子	-.104	.260**	.035	.237**	.353**	.486**	.218*	.137	.147	.251**
	小学校5年生	.152*	.292**	.171*	.323**	.380**	-	.323**	.206**	.274**	.399**
	小5男子	.252*	.388**	.239*	.225*	.296**	-	.287**	.144	.265*	.413**
	小5女子	.099	.272**	.108	.422**	.452**	-	.348**	.265**	.334**	.426**
	中学校2年生	.040	.413**	.129*	.357**	.519**	.478**	.332**	.262**	.237**	.356**
	中2男子	.284**	.435**	.180*	.421**	.414**	.378*	.378**	.373**	.298**	.405**
	中2女子	-.031	.385**	.105	.347**	.547**	.653**	.452**	.335**	.288**	.421**

**相関係数は1%水準で有意(両側)

*相関係数は5%水準で有意(両側)

小学5年生 283名と中学2年生282名の計565名を対象にPhysical Literacy評価尺度の特性を検討し、因子分析や体力テストとの関連性の検討を通して妥当性を検証した。因子分析の結果は、試案した39項目のうち、身体的領域11項目、心理的領域6項目、社会的領域8項目、認知的領域9項目の計34項目がPhysical Literacyの各領域を評価する構成概念妥当性の高い尺度であることを示唆した。しかしながら、Physical Literacyの定義を踏まえて、定性的に議論されて作成された39項目を因子分析による定量的な視点だけで削除することで、

内容的な広がりが増えすぎてしまうことの問題をはらんでいる。また、各領域の得点率と新体力テストの関連性を検討し、身体的領域の得点率との相関が他の領域の相関と比べて高かったが、34項目に減らしたときに相関関係がどのように変化するのか、更なる検討が必要である。予備調査1として実施した本調査は、対象者数も限られており、詳細な分析ができなかった。既に対象者数を拡大し複数の自治体の小中学校を対象に予備調査2が行われている。今後は、予備調査2のデータを用いた詳細な検討が行われる予定である。

1-4. 小中学生を対象とする実態調査(予備調査2)

松永 美咲¹⁾ 鈴木 宏哉²⁾

1. はじめに

本研究プロジェクトにおいて、日本の子供を対象としたPhysical Literacy評価尺度の試案が作成された。1回目の予備的な定量調査を2023年に実施し、特定の自治体の子供を対象に尺度特性を検討し、改善を試みた(予備調査1)。1回目の予備調査では特定の自治体の子供を対象とした小規模な調査であったため、回答の特徴が尺度特性を反映した結果なのか、あるいは対象者独自の特徴を反映しているのか(サンプリングバイアスか否か)を判別することができなかった。そこで2024年に2回目の予備調査を実施した。本稿では、全国から収集した2回目の予備調査結果をもとにPhysical Literacy評価尺度の回答の特徴を報告する。

2. 方 法

2.1 調査の概要

対象者のリクルートには本プロジェクトメンバーによる機縁法を用いた。調査に協力した学校は9都県の小学校19校と7都県の中学校11校であった。調査は2024年1月～3月にかけて集合調査法(学校管理下における教室での調査)により実施し、1,572名(5年生男子789名、女子762名、無回答21名)、中学校11校1,382名(2年生男子674名、女子695名、無回答13名)、合計2,954名より回答を得た。各対象校の回答数は表1に示した。質問項目は日本の子供向けPhysical Literacy評価尺度(試案)のほかに、運動の好き嫌い、スポーツクラブや運動部での活動の有無、アンケート内容の理解についてであった。

2.2 調査項目

日本の子供を対象としたPhysical Literacy評

価尺度は、身体的領域13項目、心理的領域7項目、社会的領域10項目、認知的領域9項目の、合計4つの領域39項目で構成されている。詳細は予備調査1の報告を参照のこと。39項目の他に、運動の好き嫌い「あなたは、運動やスポーツが好きですか(5件法)」、スポーツクラブや運動部での活動の有無「あなたは、現在スポーツクラブや運動部で活動していますか(はい・いいえ)」「あなたは、過去(1年以上前)、スポーツクラブや運動部で活動していましたか(はい・いいえ)」、中高強度の身体活動の日数「あなたは、1日あたり少なくとも合計60分間の中高強度の身体活動をした日は最近1週間に、何日ありましたか(0日～7日)」、運動・スポーツ実施頻度「あなたは、平日(月～金曜日)と休日(土・日曜日)で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか」、スクリーンタイム「あなたは、余暇時間(自由時間)にテレビやDVDを見たり、パソコン、ゲーム(テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む)、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか(平日・休日)」、アンケート内容の理解「このアンケートの内容を理解することは、あなたにとって難しかったですか(5件法)」を調査した。

2.3 分析方法

各項目における基礎集計(有効数、欠損数、平均値、中央値、最頻値、標準偏差、最小値、最大値)を、学年別、学年×性別に行った。また、Physical Literacy評価尺度の領域ごとの得点率、そして4領域の得点率を平均したTotal得点率についても同じように集計した。なお、性別の分析が含まれるものについては、性別に無回答だった対象者は分析から除外した。全ての統計解析には、IBM SPSS Statistics 29を用いた。

3. 結果及び考察

表2は、各項目の基礎集計結果を表している。Physical Literacy評価尺度の39項目の特徴を

1) 順天堂大学大学院

2) 順天堂大学

表1 各対象校の回答数

対象校		都道府県	回答数	男子 [%]		女子 [%]		無回答 [%]	
A	小学校	香川県	68	39	[57.4]	29	[42.6]	0	[0.0]
B	小学校	埼玉県	67	29	[43.3]	38	[56.7]	0	[0.0]
C	小学校	栃木県	88	50	[56.8]	38	[43.2]	0	[0.0]
D	小学校	滋賀県	143	67	[46.9]	73	[51.0]	3	[2.1]
E	小学校	新潟県	60	31	[51.7]	29	[48.3]	0	[0.0]
F	小学校	滋賀県	158	77	[48.7]	76	[48.1]	5	[3.2]
G	小学校	滋賀県	97	49	[50.5]	46	[47.4]	2	[2.1]
H	小学校	埼玉県	67	33	[49.3]	32	[47.8]	2	[3.0]
I	小学校	埼玉県	76	34	[44.7]	41	[53.9]	1	[1.3]
J	小学校	東京都	54	34	[63.0]	20	[37.0]	0	[0.0]
K	小学校	長野県	20	5	[25.0]	14	[70.0]	1	[5.0]
L	小学校	東京都	105	54	[51.4]	48	[45.7]	3	[2.9]
M	小学校	埼玉県	133	65	[48.9]	66	[49.6]	2	[1.5]
N	小学校	東京都	79	45	[57.0]	33	[41.8]	1	[1.3]
O	小学校	東京都	42	20	[47.6]	22	[52.4]	0	[0.0]
P	小学校	広島県	27	10	[37.0]	16	[59.3]	1	[3.7]
Q	小学校	埼玉県	124	60	[48.4]	64	[51.6]	0	[0.0]
R	小学校	千葉県	58	30	[51.7]	28	[48.3]	0	[0.0]
S	小学校	奈良県	106	57	[53.8]	49	[46.2]	0	[0.0]
A	中学校	東京都	100	51	[51.0]	49	[49.0]	0	[0.0]
B	中学校	香川県	103	53	[51.5]	50	[48.5]	0	[0.0]
C	中学校	群馬県	83	41	[49.4]	42	[50.6]	0	[0.0]
D	中学校	神奈川県	132	61	[46.2]	71	[53.8]	0	[0.0]
E	中学校	神奈川県	151	69	[45.7]	81	[53.6]	1	[0.7]
F	中学校	東京都	70	34	[48.6]	30	[42.9]	6	[8.6]
G	中学校	長野県	13	5	[38.5]	8	[61.5]	0	[0.0]
H	中学校	東京都	202	98	[48.5]	99	[49.0]	5	[2.5]
I	中学校	埼玉県	196	105	[53.6]	91	[46.4]	0	[0.0]
J	中学校	東京都	48	20	[41.7]	28	[58.3]	0	[0.0]
K	中学校	千葉県	284	137	[48.2]	146	[51.4]	1	[0.4]
小学校		計	1572	789	[50.2]	762	[48.5]	21	[1.3]
中学校		計	1382	674	[48.8]	695	[50.3]	13	[0.9]
合計			2954	1463	[49.5]	1457	[49.3]	34	[1.2]

確認するため、欠損数、代表値（平均値、中央値、最頻値）に着目した。

欠損数については、無回答には単なるケアレスミスだけでなく、質問の内容理解の難しさなども背景にあるといえる。例えば、3%以上を基準にすると、身体的領域13項目中1項目、心理的領域7項目中全項目、社会的領域10項目中9項目、認知的領域9項目中5項目、計22項目が該当した。該当した

すべてが小学5年生（男子または女子またはその両方）であり、中学2年生は該当しなかった。身体的領域で該当した1項目は男子の「ボールを投げる、キャッチする、打つ、蹴るなどの動作が得意ですか」であり、複数の異なる動作が例示されており、ボールを投げることは得意だが蹴ることは苦手といった場合に回答に困った者がいたのかもしれない。心理的領域ではすべての項目で該当した。特に女子の「運

表2 各項目の度数分布・基礎集計

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○あなたは、運動やスポーツが好きですか。												
1 とても好き	768	48.9	482	61.1	280	36.7	571	41.3	358	53.1	208	29.9
2 やや好き	462	29.4	190	24.1	262	34.4	448	32.4	206	30.6	239	34.4
3 どちらでもない	192	12.2	68	8.6	120	15.7	176	12.7	64	9.5	108	15.5
4 ややきらい	108	6.9	34	4.3	74	9.7	121	8.8	27	4.0	94	13.5
5 とてもきらい	39	2.5	13	1.6	25	3.3	62	4.5	18	2.7	43	6.2
欠損数	3	0.2	2	0.3	1	0.1	4	0.3	1	0.1	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、現在スポーツクラブや運動部で活動していますか。												
1 はい	871	55.4	501	63.5	359	47.1	936	67.7	531	78.8	396	57.0
2 いいえ	674	42.9	277	35.1	387	50.8	432	31.3	135	20.0	294	42.3
欠損数	27	1.7	11	1.4	16	2.1	14	1.0	8	1.2	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、過去（1年以上前）、スポーツクラブや運動部で活動していましたか。												
1 はい	1085	69.0	581	73.6	493	64.7	1112	80.5	587	87.1	515	74.1
2 いいえ	453	28.8	190	24.1	254	33.3	248	17.9	77	11.4	169	24.3
欠損数	34	2.2	18	2.3	15	2.0	22	1.6	10	1.5	11	1.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、1日あたり少なくとも合計60分間の中高強度の身体活動 [※] をした日は最近1週間に、何日ありましたか。 ※ここでの中高強度の身体活動とは、心臓がドキドキしたり息切れするようなすべての活動のことです。 (曜日ごとの丸の数を採用)												
1 0日	228	14.5	106	13.4	118	15.5	288	20.8	104	15.4	179	25.8
2 1日	246	15.6	99	12.5	140	18.4	129	9.3	58	8.6	70	10.1
3 2日	234	14.9	111	14.1	122	16.0	131	9.5	61	9.1	67	9.6
4 3日	251	16.0	125	15.8	125	16.4	157	11.4	64	9.5	91	13.1
5 4日	212	13.5	108	13.7	100	13.1	173	12.5	86	12.8	87	12.5
6 5日	169	10.8	81	10.3	86	11.3	212	15.3	126	18.7	84	12.1
7 6日	106	6.7	60	7.6	44	5.8	171	12.4	92	13.6	79	11.4
8 7日	126	8.0	99	12.5	27	3.5	121	8.8	83	12.3	38	5.5
欠損数	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、平日（月～金曜日）と休日（土・日曜日）で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか。【平日】												
1 0日	182	11.6	86	10.9	94	12.3	194	14.0	61	9.1	129	18.6
2 1日	264	16.8	125	15.8	136	17.8	72	5.2	23	3.4	48	6.9
3 2日	319	20.3	151	19.1	163	21.4	125	9.0	56	8.3	67	9.6
4 3日	304	19.3	143	18.1	161	21.1	330	23.9	166	24.6	162	23.3
5 4日	163	10.4	85	10.8	77	10.1	345	25.0	187	27.7	155	22.3
6 5日	225	14.3	142	18.0	80	10.5	250	18.1	151	22.4	98	14.1
欠損数	115	7.3	57	7.2	51	6.7	66	4.8	30	4.5	36	5.2
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○あなたは、平日（月～金曜日）と休日（土・日曜日）で、それぞれ何日運動・スポーツをしていますか、【休日】												
1 0日	381	24.2	159	20.2	216	28.3	355	25.7	116	17.2	234	33.7
2 1日	493	31.4	206	26.1	284	37.3	533	38.6	283	42.0	246	35.4
3 2日	580	36.9	363	46.0	212	27.8	428	31.0	242	35.9	182	26.2
欠損数	118	7.5	61	7.7	50	6.6	66	4.8	33	4.9	33	4.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、平日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDを見たり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか、												
1 30分未満	113	7.2	47	6.0	63	8.3	32	2.3	16	2.4	15	2.2
2 30分～1時間未満	262	16.7	113	14.3	145	19.0	114	8.2	49	7.3	65	9.4
3 1時間～2時間未満	414	26.3	222	28.1	186	24.4	305	22.1	148	22.0	156	22.4
4 2時間～3時間未満	315	20.0	159	20.2	156	20.5	357	25.8	173	25.7	183	26.3
5 3時間～4時間未満	199	12.7	105	13.3	93	12.2	244	17.7	117	17.4	126	18.1
6 4時間～5時間未満	107	6.8	51	6.5	54	7.1	130	9.4	65	9.6	61	8.8
7 5時間以上	149	9.5	83	10.5	62	8.1	187	13.5	99	14.7	83	11.9
欠損数	13	0.8	9	1.1	3	0.4	13	0.9	7	1.0	6	0.9
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
○あなたは、休日の余暇時間（自由時間）にテレビやDVDを見たり、パソコン、ゲーム（テレビ、パソコン、携帯式のゲーム機などを含む）、スマートフォンやタブレットを使用したりする時間は一日どれくらいですか、												
1 30分未満	80	5.1	39	4.9	40	5.2	15	1.1	11	1.6	4	0.6
2 30分～1時間未満	160	10.2	66	8.4	88	11.5	49	3.5	24	3.6	25	3.6
3 1時間～2時間未満	295	18.8	141	17.9	152	19.9	138	10.0	64	9.5	73	10.5
4 2時間～3時間未満	279	17.7	141	17.9	136	17.8	246	17.8	120	17.8	126	18.1
5 3時間～4時間未満	225	14.3	119	15.1	105	13.8	280	20.3	131	19.4	148	21.3
6 4時間～5時間未満	148	9.4	80	10.1	67	8.8	212	15.3	94	13.9	117	16.8
7 5時間以上	378	24.0	197	25.0	174	22.8	434	31.4	227	33.7	197	28.3
欠損数	7	0.4	6	0.8	0	0.0	8	0.6	3	0.4	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
(Physical Literacy評価尺度：身体的領域)												
○走る、跳ぶ、登るなどの動きが得意ですか、												
1 とてもそう思う（3点）	497	31.6	303	38.4	186	24.4	275	19.9	169	25.1	105	15.1
2 ややそう思う（2点）	578	36.8	293	37.1	282	37.0	507	36.7	283	42.0	220	31.7
3 あまりそう思わない（1点）	372	23.7	137	17.4	230	30.2	442	32.0	174	25.8	264	38.0
4 まったくそう思わない（0点）	107	6.8	48	6.1	57	7.5	152	11.0	43	6.4	106	15.3
欠損数	18	1.1	8	1.0	7	0.9	6	0.4	5	0.7	0	0.0
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.94		2.09		1.79		1.66		1.86		1.47	
中央値	2		2		2		2		2		1	
最頻値	2		3		2		2		2		1	
標準偏差	0.91		0.90		0.90		0.92		0.87		0.93	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○何か特別な道具（一輪車やスケートボード、キックスケーター、ローラースケート、サーフィンなど）を使って移動することが得意ですか。												
1 とてもそう思う（3点）	371	23.6	156	19.8	208	27.3	227	16.4	93	13.8	132	19.0
2 ややそう思う（2点）	410	26.1	190	24.1	216	28.3	391	28.3	162	24.0	224	32.2
3 あまりそう思わない（1点）	461	29.3	253	32.1	205	26.9	492	35.6	262	38.9	226	32.5
4 まったくそう思わない（0点）	293	18.6	167	21.2	121	15.9	262	19.0	150	22.3	111	16.0
欠損数	37	2.4	23	2.9	12	1.6	10	0.7	7	1.0	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.56		1.44		1.68		1.42		1.30		1.54	
中央値	2		1		2		1		1		2	
最頻値	1		1		2		1		1		1	
標準偏差	1.05		1.04		1.05		0.98		0.97		0.98	
○ボールを投げる、キャッチする、打つ、蹴るなどの動作が得意ですか。												
1 とてもそう思う（3点）	479	30.5	352	44.6	122	16.0	379	27.4	266	39.5	109	15.7
2 ややそう思う（2点）	470	29.9	222	28.1	243	31.9	418	30.2	208	30.9	207	29.8
3 あまりそう思わない（1点）	429	27.3	134	17.0	288	37.8	409	29.6	144	21.4	261	37.6
4 まったくそう思わない（0点）	143	9.1	54	6.8	87	11.4	159	11.5	48	7.1	110	15.8
欠損数	51	3.2	27	3.4	22	2.9	17	1.2	8	1.2	8	1.2
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.84		2.14		1.54		1.75		2.04		1.46	
中央値	2		2		1		2		2		1	
最頻値	3		3		1		2		3		1	
標準偏差	0.97		0.95		0.90		0.99		0.95		0.94	
○長い時間走り続けることが得意ですか。												
1 とてもそう思う（3点）	299	19.0	208	26.4	88	11.5	187	13.5	133	19.7	54	7.8
2 ややそう思う（2点）	406	25.8	237	30.0	166	21.8	328	23.7	187	27.7	138	19.9
3 あまりそう思わない（1点）	512	32.6	218	27.6	287	37.7	430	31.1	209	31.0	216	31.1
4 まったくそう思わない（0点）	334	21.2	113	14.3	215	28.2	427	30.9	141	20.9	282	40.6
欠損数	21	1.3	13	1.6	6	0.8	10	0.7	4	0.6	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.43		1.70		1.17		1.20		1.47		0.95	
中央値	1		2		1		1		1		1	
最頻値	1		2		1		1		1		0	
標準偏差	1.03		1.02		0.97		1.03		1.03		0.96	
○鉄棒に長い時間ぶら下がるなど、力を出し続けることが得意ですか。												
1 とてもそう思う（3点）	255	16.2	149	18.9	102	13.4	136	9.8	82	12.2	54	7.8
2 ややそう思う（2点）	502	31.9	267	33.8	229	30.1	340	24.6	202	30.0	135	19.4
3 あまりそう思わない（1点）	563	35.8	257	32.6	302	39.6	596	43.1	288	42.7	301	43.3
4 まったくそう思わない（0点）	231	14.7	103	13.1	124	16.3	304	22.0	99	14.7	203	29.2
欠損数	21	1.3	13	1.6	5	0.7	6	0.4	3	0.4	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.50		1.60		1.41		1.22		1.40		1.06	
中央値	1		2		1		1		1		1	
最頻値	1		2		1		1		1		1	
標準偏差	0.94		0.94		0.92		0.90		0.88		0.89	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○縄跳びが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	385	24.5	169	21.4	209	27.4	272	19.7	117	17.4	151	21.7
2 ややそう思う(2点)	571	36.3	274	34.7	295	38.7	505	36.5	250	37.1	253	36.4
3 あまりそう思わない(1点)	430	27.4	231	29.3	193	25.3	430	31.1	213	31.6	213	30.6
4 まったくそう思わない(0点)	167	10.6	103	13.1	60	7.9	167	12.1	89	13.2	76	10.9
欠損数	19	1.2	12	1.5	5	0.7	8	0.6	5	0.7	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.76		1.66		1.86		1.64		1.59		1.69	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.95		0.96		0.91		0.93		0.93		0.93	
○リズム(音や光など)に合わせて体を動かすことが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	490	31.2	203	25.7	279	36.6	321	23.2	127	18.8	193	27.8
2 ややそう思う(2点)	550	35.0	268	34.0	279	36.6	450	32.6	212	31.5	232	33.4
3 あまりそう思わない(1点)	415	26.4	239	30.3	170	22.3	459	33.2	239	35.5	215	30.9
4 まったくそう思わない(0点)	101	6.4	69	8.7	29	3.8	144	10.4	92	13.6	52	7.5
欠損数	16	1.0	10	1.3	5	0.7	8	0.6	4	0.6	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.92		1.78		2.07		1.69		1.56		1.82	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		1		1		2	
標準偏差	0.91		0.93		0.86		0.94		0.95		0.93	
○平均台の上など不安定なところでも体のバランスを取るのが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	518	33.0	249	31.6	261	34.3	294	21.3	135	20.0	158	22.7
2 ややそう思う(2点)	639	40.6	315	39.9	320	42.0	571	41.3	280	41.5	286	41.2
3 あまりそう思わない(1点)	319	20.3	169	21.4	143	18.8	393	28.4	200	29.7	187	26.9
4 まったくそう思わない(0点)	82	5.2	47	6.0	35	4.6	115	8.3	53	7.9	62	8.9
欠損数	14	0.9	9	1.1	3	0.4	9	0.7	6	0.9	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.02		1.98		2.06		1.76		1.74		1.78	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.86		0.88		0.84		0.88		0.87		0.90	
○立ったまま膝を曲げずに無理なくつま先に触れることが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	473	30.1	198	25.1	271	35.6	351	25.4	137	20.3	210	30.2
2 ややそう思う(2点)	430	27.4	206	26.1	220	28.9	320	23.2	163	24.2	155	22.3
3 あまりそう思わない(1点)	384	24.4	207	26.2	172	22.6	382	27.6	191	28.3	187	26.9
4 まったくそう思わない(0点)	264	16.8	168	21.3	90	11.8	318	23.0	175	26.0	141	20.3
欠損数	21	1.3	10	1.3	9	1.2	11	0.8	8	1.2	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.72		1.56		1.89		1.51		1.39		1.63	
中央値	2		2		2		1		1		2	
最頻値	3		1		3		1		1		3	
標準偏差	1.07		1.09		1.03		1.11		1.09		1.12	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○鬼ごっこなどの遊びのなかで相手に捕まらないように身をかわすのが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	608	38.7	388	49.2	212	27.8	385	27.9	238	35.3	144	20.7
2 ややそう思う(2点)	562	35.8	259	32.8	298	39.1	509	36.8	261	38.7	243	35.0
3 あまりそう思わない(1点)	295	18.8	96	12.2	194	25.5	370	26.8	135	20.0	232	33.4
4 まったくそう思わない(0点)	86	5.5	31	3.9	54	7.1	108	7.8	35	5.2	72	10.4
欠損数	21	1.3	15	1.9	4	0.5	10	0.7	5	0.7	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.09		2.30		1.88		1.85		2.05		1.66	
中央値	2		3		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		2		2		2	
標準偏差	0.89		0.84		0.90		0.92		0.87		0.92	
○重いものを持ち上げるなど、強い力を出すことが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	420	26.7	232	29.4	184	24.1	262	19.0	142	21.1	118	17.0
2 ややそう思う(2点)	534	34.0	284	36.0	246	32.3	458	33.1	240	35.6	216	31.1
3 あまりそう思わない(1点)	431	27.4	178	22.6	244	32.0	468	33.9	214	31.8	249	35.8
4 まったくそう思わない(0点)	168	10.7	84	10.6	81	10.6	188	13.6	74	11.0	111	16.0
欠損数	19	1.2	11	1.4	7	0.9	6	0.4	4	0.6	1	0.1
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.78		1.85		1.71		1.58		1.67		1.49	
中央値	2		2		2		2		2		1	
最頻値	2		2		2		1		2		1	
標準偏差	0.97		0.97		0.95		0.95		0.93		0.95	
○スタートの合図で素早く動き出す(反応する)ことが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	408	26.0	268	34.0	137	18.0	234	16.9	150	22.3	83	11.9
2 ややそう思う(2点)	622	39.6	300	38.0	318	41.7	438	31.7	246	36.5	188	27.1
3 あまりそう思わない(1点)	434	27.6	170	21.5	256	33.6	537	38.9	214	31.8	318	45.8
4 まったくそう思わない(0点)	94	6.0	42	5.3	47	6.2	166	12.0	59	8.8	105	15.1
欠損数	14	0.9	9	1.1	4	0.5	7	0.5	5	0.7	1	0.1
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.86		2.02		1.72		1.54		1.73		1.36	
中央値	2		2		2		1		2		1	
最頻値	2		2		2		1		2		1	
標準偏差	0.87		0.88		0.83		0.91		0.91		0.88	
○速く走ることが得意ですか。												
1 とてもそう思う(3点)	362	23.0	225	28.5	133	17.5	186	13.5	118	17.5	67	9.6
2 ややそう思う(2点)	469	29.8	255	32.3	207	27.2	386	27.9	225	33.4	158	22.7
3 あまりそう思わない(1点)	448	28.5	196	24.8	248	32.5	453	32.8	215	31.9	234	33.7
4 まったくそう思わない(0点)	280	17.8	105	13.3	171	22.4	353	25.5	113	16.8	236	34.0
欠損数	13	0.8	8	1.0	3	0.4	4	0.3	3	0.4	0	0.0
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.59		1.77		1.40		1.29		1.52		1.08	
中央値	2		2		1		1		2		1	
最頻値	2		2		1		1		2		0	
標準偏差	1.03		1.01		1.02		1.00		0.97		0.97	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
(Physical Literacy評価尺度：心理的領域)												
○積極的に運動やスポーツをしたいですか。												
1 とてもそう思う(3点)	698	44.4	417	52.9	274	36.0	582	42.1	344	51.0	234	33.7
2 ややそう思う(2点)	454	28.9	204	25.9	243	31.9	409	29.6	189	28.0	216	31.1
3 あまりそう思わない(1点)	297	18.9	118	15.0	175	23.0	269	19.5	100	14.8	166	23.9
4 まったくそう思わない(0点)	82	5.2	34	4.3	46	6.0	112	8.1	35	5.2	76	10.9
欠損数	41	2.6	16	2.0	24	3.1	10	0.7	6	0.9	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.15		2.30		2.01		2.06		2.26		1.88	
中央値	2		3		2		2		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.92		0.88		0.93		0.97		0.90		1.00	
○運動やスポーツの場面で、自分の感情をうまくコントロールできますか。												
1 とてもそう思う(3点)	468	29.8	263	33.3	201	26.4	378	27.4	208	30.9	168	24.2
2 ややそう思う(2点)	709	45.1	360	45.6	344	45.1	671	48.6	335	49.7	327	47.1
3 あまりそう思わない(1点)	283	18.0	112	14.2	162	21.3	249	18.0	94	13.9	154	22.2
4 まったくそう思わない(0点)	57	3.6	31	3.9	24	3.1	71	5.1	30	4.5	40	5.8
欠損数	55	3.5	23	2.9	31	4.1	13	0.9	7	1.0	6	0.9
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.05		2.12		1.99		1.99		2.08		1.90	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.80		0.80		0.79		0.82		0.79		0.83	
○運動やスポーツの場面で、自分自身の疲れ具合に応じて運動の仕方をうまくコントロールできますか。												
1 とてもそう思う(3点)	471	30.0	271	34.3	196	25.7	346	25.0	192	28.5	153	22.0
2 ややそう思う(2点)	625	39.8	302	38.3	317	41.6	645	46.7	322	47.8	317	45.6
3 あまりそう思わない(1点)	358	22.8	161	20.4	191	25.1	304	22.0	127	18.8	173	24.9
4 まったくそう思わない(0点)	64	4.1	33	4.2	27	3.5	71	5.1	23	3.4	46	6.6
欠損数	54	3.4	22	2.8	31	4.1	16	1.2	10	1.5	6	0.9
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.99		2.06		1.93		1.93		2.03		1.84	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.85		0.86		0.82		0.82		0.79		0.85	
○運動やスポーツの場面で、自分ができることとできないことについて、よく分かっていますか。												
1 とてもそう思う(3点)	868	55.2	446	56.5	416	54.6	629	45.5	297	44.1	328	47.2
2 ややそう思う(2点)	533	33.9	263	33.3	264	34.6	596	43.1	301	44.7	289	41.6
3 あまりそう思わない(1点)	94	6.0	41	5.2	46	6.0	114	8.2	51	7.6	62	8.9
4 まったくそう思わない(0点)	26	1.7	15	1.9	10	1.3	25	1.8	13	1.9	10	1.4
欠損数	51	3.2	24	3.0	26	3.4	18	1.3	12	1.8	6	0.9
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.47		2.49		2.48		2.34		2.33		2.36	
中央値	3		3		3		2		2		2	
最頻値	3		3		3		3		2		3	
標準偏差	0.69		0.69		0.68		0.71		0.70		0.71	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツの場で、新たなことに挑戦する自信がありますか。												
1 とてもそう思う(3点)	505	32.1	293	37.1	205	26.9	382	27.6	233	34.6	146	21.0
2 ややそう思う(2点)	548	34.9	278	35.2	267	35.0	490	35.5	243	36.1	241	34.7
3 あまりそう思わない(1点)	385	24.5	158	20.0	220	28.9	382	27.6	149	22.1	230	33.1
4 まったくそう思わない(0点)	84	5.3	38	4.8	44	5.8	117	8.5	43	6.4	73	10.5
欠損数	50	3.2	22	2.8	26	3.4	11	0.8	6	0.9	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.97		2.08		1.86		1.83		2.00		1.67	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		3		2		2		2		2	
標準偏差	0.90		0.88		0.89		0.93		0.91		0.93	
○運動やスポーツを積極的に楽しもうとしていますか。												
1 とてもそう思う(3点)	872	55.5	501	63.5	361	47.4	687	49.7	400	59.3	282	40.6
2 ややそう思う(2点)	404	25.7	184	23.3	217	28.5	447	32.3	192	28.5	250	36.0
3 あまりそう思わない(1点)	195	12.4	63	8.0	127	16.7	172	12.4	56	8.3	115	16.5
4 まったくそう思わない(0点)	52	3.3	19	2.4	31	4.1	64	4.6	19	2.8	43	6.2
欠損数	49	3.1	22	2.8	26	3.4	12	0.9	7	1.0	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.38		2.52		2.23		2.28		2.46		2.12	
中央値	3		3		2		3		3		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.83		0.75		0.88		0.86		0.77		0.90	
○運動やスポーツをするときによく行く場所がありますか。												
1 とてもそう思う(3点)	727	46.2	438	55.5	279	36.6	495	35.8	299	44.4	195	28.1
2 ややそう思う(2点)	362	23.0	164	20.8	195	25.6	330	23.9	180	26.7	146	21.0
3 あまりそう思わない(1点)	295	18.8	103	13.1	186	24.4	335	24.2	122	18.1	208	29.9
4 まったくそう思わない(0点)	144	9.2	66	8.4	78	10.2	212	15.3	67	9.9	142	20.4
欠損数	44	2.8	18	2.3	24	3.1	10	0.7	6	0.9	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.09		2.26		1.91		1.81		2.06		1.57	
中央値	2		3		2		2		2		1	
最頻値	3		3		3		3		3		1	
標準偏差	1.02		0.99		1.02		1.09		1.01		1.11	
(Physical Literacy評価尺度：社会的領域)												
○試合に負けたあとでも、相手に感謝して握手ができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	664	42.2	346	43.9	312	40.9	649	47.0	305	45.3	339	48.8
2 ややそう思う(2点)	590	37.5	282	35.7	301	39.5	535	38.7	264	39.2	265	38.1
3 あまりそう思わない(1点)	201	12.8	91	11.5	106	13.9	140	10.1	69	10.2	71	10.2
4 まったくそう思わない(0点)	74	4.7	51	6.5	20	2.6	47	3.4	28	4.2	17	2.4
欠損数	43	2.7	19	2.4	23	3.0	11	0.8	8	1.2	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.21		2.20		2.22		2.30		2.27		2.34	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.85		0.89		0.79		0.79		0.81		0.76	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○相手チームの人がけがをしたら、試合やゲーム中でも助けることを優先できますか。												
1 とてもそう思う(3点)	853	54.3	402	51.0	442	58.0	727	52.6	333	49.4	389	56.0
2 ややそう思う(2点)	525	33.4	273	34.6	248	32.5	497	36.0	247	36.6	246	35.4
3 あまりそう思わない(1点)	108	6.9	62	7.9	41	5.4	109	7.9	62	9.2	44	6.3
4 まったくそう思わない(0点)	33	2.1	27	3.4	4	0.5	37	2.7	24	3.6	12	1.7
欠損数	53	3.4	25	3.2	27	3.5	12	0.9	8	1.2	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.45		2.37		2.53		2.40		2.33		2.46	
中央値	3		3		3		3		2.5		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.72		0.78		0.63		0.75		0.79		0.69	
○ルールで決まっていなくても、ずるいことはしないと思いますか。												
1 とてもそう思う(3点)	942	59.9	459	58.2	472	61.9	713	51.6	301	44.7	408	58.7
2 ややそう思う(2点)	448	28.5	217	27.5	228	29.9	443	32.1	218	32.3	218	31.4
3 あまりそう思わない(1点)	90	5.7	54	6.8	31	4.1	155	11.2	107	15.9	47	6.8
4 まったくそう思わない(0点)	42	2.7	35	4.4	7	0.9	58	4.2	41	6.1	16	2.3
欠損数	50	3.2	24	3.0	24	3.1	13	0.9	7	1.0	6	0.9
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.50		2.44		2.58		2.32		2.17		2.48	
中央値	3		3		3		3		2		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.73		0.81		0.62		0.84		0.91		0.73	
○試合中に失敗した仲間や楽しめていない仲間に、声かけやばげましができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	718	45.7	358	45.4	354	46.5	640	46.3	298	44.2	337	48.5
2 ややそう思う(2点)	600	38.2	304	38.5	287	37.7	547	39.6	284	42.1	258	37.1
3 あまりそう思わない(1点)	171	10.9	83	10.5	86	11.3	159	11.5	72	10.7	85	12.2
4 まったくそう思わない(0点)	39	2.5	24	3.0	12	1.6	24	1.7	13	1.9	10	1.4
欠損数	44	2.8	20	2.5	23	3.0	12	0.9	7	1.0	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.31		2.30		2.33		2.32		2.30		2.34	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.77		0.78		0.74		0.74		0.74		0.75	
○審判の判定を受け入れて、審判に対して感謝できますか。												
1 とてもそう思う(3点)	575	36.6	284	36.0	286	37.5	474	34.3	206	30.6	266	38.3
2 ややそう思う(2点)	700	44.5	331	42.0	360	47.2	635	45.9	311	46.1	316	45.5
3 あまりそう思わない(1点)	195	12.4	109	13.8	82	10.8	210	15.2	119	17.7	89	12.8
4 まったくそう思わない(0点)	57	3.6	44	5.6	11	1.4	51	3.7	31	4.6	19	2.7
欠損数	45	2.9	21	2.7	23	3.0	12	0.9	7	1.0	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.17		2.11		2.25		2.12		2.04		2.20	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.79		0.85		0.71		0.80		0.82		0.76	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○はじめて会う子どもでも誘って一緒に運動やスポーツをしたいと思いませんか。												
1 とてもそう思う(3点)	476	30.3	259	32.8	210	27.6	316	22.9	156	23.1	156	22.4
2 ややそう思う(2点)	490	31.2	253	32.1	233	30.6	444	32.1	212	31.5	228	32.8
3 あまりそう思わない(1点)	378	24.0	177	22.4	195	25.6	428	31.0	216	32.0	210	30.2
4 まったくそう思わない(0点)	175	11.1	75	9.5	97	12.7	182	13.2	82	12.2	97	14.0
欠損数	53	3.4	25	3.2	27	3.5	12	0.9	8	1.2	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.83		1.91		1.76		1.65		1.66		1.64	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		3		2		2		1		2	
標準偏差	1.00		0.98		1.01		0.98		0.97		0.98	
○運動やスポーツの場で、他の子どもがうまくできるようにサポートすることができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	470	29.9	253	32.1	213	28.0	370	26.8	173	25.7	193	27.8
2 ややそう思う(2点)	626	39.8	314	39.8	308	40.4	654	47.3	335	49.7	314	45.2
3 あまりそう思わない(1点)	327	20.8	145	18.4	176	23.1	264	19.1	127	18.8	135	19.4
4 まったくそう思わない(0点)	101	6.4	56	7.1	41	5.4	84	6.1	33	4.9	49	7.1
欠損数	48	3.1	21	2.7	24	3.1	10	0.7	6	0.9	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.96		1.99		1.94		1.95		1.97		1.94	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.89		0.90		0.86		0.84		0.80		0.87	
○運動やスポーツのやり方や楽しみ方を、他の国の人やいろいろな楽しみ方を知っている人から学びたいと思いませんか。												
1 とてもそう思う(3点)	513	32.6	293	37.1	216	28.3	428	31.0	235	34.9	189	27.2
2 ややそう思う(2点)	542	34.5	265	33.6	270	35.4	513	37.1	240	35.6	269	38.7
3 あまりそう思わない(1点)	359	22.8	153	19.4	198	26.0	327	23.7	147	21.8	176	25.3
4 まったくそう思わない(0点)	110	7.0	55	7.0	54	7.1	103	7.5	46	6.8	56	8.1
欠損値	48	3.1	23	2.9	24	3.1	11	0.8	6	0.9	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	1.96		2.04		1.88		1.92		1.99		1.86	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		3		2		2		2		2	
標準偏差	0.93		0.93		0.92		0.92		0.92		0.91	
○運動やスポーツを行うための用具や施設を大切に扱うことを心がけ、手入れや掃除などをすすんで行うことができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	614	39.1	294	37.3	317	41.6	541	39.1	251	37.2	287	41.3
2 ややそう思う(2点)	668	42.5	335	42.5	325	42.7	648	46.9	326	48.4	316	45.5
3 あまりそう思わない(1点)	204	13.0	113	14.3	86	11.3	148	10.7	73	10.8	72	10.4
4 まったくそう思わない(0点)	37	2.4	24	3.0	10	1.3	34	2.5	17	2.5	16	2.3
欠損数	49	3.1	23	2.9	24	3.1	11	0.8	7	1.0	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.22		2.17		2.29		2.24		2.22		2.26	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.77		0.79		0.72		0.74		0.74		0.74	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツの場で、仲間と意見が食い違ったとき、相手の意見を大切にしながら問題を解決することができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	495	31.5	228	28.9	262	34.4	464	33.6	215	31.9	244	35.1
2 ややそう思う(2点)	738	46.9	375	47.5	360	47.2	731	52.9	357	53.0	371	53.4
3 あまりそう思わない(1点)	244	15.5	130	16.5	104	13.6	140	10.1	79	11.7	58	8.3
4 まったくそう思わない(0点)	50	3.2	35	4.4	13	1.7	36	2.6	17	2.5	17	2.4
欠損数	45	2.9	21	2.7	23	3.0	11	0.8	6	0.9	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.10		2.04		2.18		2.18		2.15		2.22	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.78		0.80		0.73		0.72		0.72		0.70	

(Physical Literacy評価尺度：認知的領域)

○運動やスポーツを行うことの効果を理解していますか。

1 とてもそう思う(3点)	811	51.6	450	57.0	355	46.6	624	45.2	333	49.4	285	41.0
2 ややそう思う(2点)	537	34.2	241	30.5	289	37.9	593	42.9	270	40.1	319	45.9
3 あまりそう思わない(1点)	141	9.0	55	7.0	83	10.9	130	9.4	54	8.0	74	10.6
4 まったくそう思わない(0点)	39	2.5	23	2.9	13	1.7	26	1.9	11	1.6	15	2.2
欠損数	44	2.8	20	2.5	22	2.9	9	0.7	6	0.9	2	0.3
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.39		2.45		2.33		2.32		2.38		2.26	
中央値	3		3		2		2		2		2	
最頻値	3		3		3		3		3		2	
標準偏差	0.76		0.76		0.74		0.72		0.71		0.73	

○運動やスポーツの場で、ルールを守ることの大切さを理解していますか。

1 とてもそう思う(3点)	1031	65.6	528	66.9	496	65.1	880	63.7	423	62.8	449	64.6
2 ややそう思う(2点)	422	26.8	200	25.3	214	28.1	439	31.8	213	31.6	222	31.9
3 あまりそう思わない(1点)	55	3.5	30	3.8	23	3.0	36	2.6	23	3.4	13	1.9
4 まったくそう思わない(0点)	16	1.0	8	1.0	5	0.7	15	1.1	7	1.0	8	1.2
欠損値	48	3.1	23	2.9	24	3.1	12	0.9	8	1.2	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.62		2.63		2.63		2.59		2.58		2.61	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.61		0.61		0.58		0.60		0.61		0.59	

○運動やスポーツの場で、自分やみんなが楽しめるようにルールを工夫することができますか。

1 とてもそう思う(3点)	555	35.3	284	36.0	264	34.6	501	36.3	243	36.1	251	36.1
2 ややそう思う(2点)	714	45.4	356	45.1	350	45.9	639	46.2	323	47.9	312	44.9
3 あまりそう思わない(1点)	214	13.6	106	13.4	105	13.8	197	14.3	91	13.5	105	15.1
4 まったくそう思わない(0点)	42	2.7	20	2.5	20	2.6	34	2.5	10	1.5	24	3.5
欠損数	47	3.0	23	2.9	23	3.0	11	0.8	7	1.0	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.17		2.18		2.16		2.17		2.20		2.14	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.77		0.76		0.76		0.76		0.72		0.80	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○自分のやりたい運動やスポーツができないときに、その理由を考えて別のやり方や活動を選ぶことができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	456	29.0	235	29.8	216	28.3	400	28.9	210	31.2	187	26.9
2 ややそう思う(2点)	681	43.3	344	43.6	328	43.0	637	46.1	303	45.0	325	46.8
3 あまりそう思わない(1点)	327	20.8	153	19.4	170	22.3	280	20.3	132	19.6	148	21.3
4 まったくそう思わない(0点)	62	3.9	33	4.2	27	3.5	51	3.7	21	3.1	30	4.3
欠損数	46	2.9	24	3.0	21	2.8	14	1.0	8	1.2	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.00		2.02		1.99		2.01		2.05		1.97	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.82		0.82		0.82		0.80		0.80		0.81	
○運動やスポーツを行うときに、自分にとってより良い手段や方法、計画を考えることができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	519	33.0	290	36.8	222	29.1	462	33.4	249	36.9	208	29.9
2 ややそう思う(2点)	625	39.8	310	39.3	311	40.8	612	44.3	305	45.3	302	43.5
3 あまりそう思わない(1点)	319	20.3	138	17.5	177	23.2	241	17.4	93	13.8	146	21.0
4 まったくそう思わない(0点)	54	3.4	25	3.2	25	3.3	53	3.8	18	2.7	35	5.0
欠損数	55	3.5	26	3.3	27	3.5	14	1.0	9	1.3	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.06		2.13		1.99		2.08		2.18		1.99	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.83		0.82		0.82		0.81		0.77		0.85	
○運動やスポーツの場面で、どうすれば成功できるかを考えることができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	674	42.9	372	47.1	294	38.6	548	39.7	297	44.1	247	35.5
2 ややそう思う(2点)	583	37.1	282	35.7	296	38.8	605	43.8	286	42.4	312	44.9
3 あまりそう思わない(1点)	214	13.6	89	11.3	122	16.0	173	12.5	69	10.2	103	14.8
4 まったくそう思わない(0点)	45	2.9	20	2.5	21	2.8	41	3.0	13	1.9	28	4.0
欠損数	56	3.6	26	3.3	29	3.8	15	1.1	9	1.3	5	0.7
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.24		2.32		2.18		2.21		2.30		2.13	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		2		3		2	
標準偏差	0.80		0.78		0.81		0.78		0.73		0.81	
○運動やスポーツの場面で、自分ができそうだと感じ、自分のやり方でどのように取り組めばよいのか自然と思いつくことができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	493	31.4	273	34.6	212	27.8	426	30.8	224	33.2	199	28.6
2 ややそう思う(2点)	657	41.8	336	42.6	317	41.6	605	43.8	308	45.7	290	41.7
3 あまりそう思わない(1点)	324	20.6	130	16.5	189	24.8	280	20.3	113	16.8	165	23.7
4 まったくそう思わない(0点)	56	3.6	29	3.7	24	3.1	57	4.1	20	3.0	37	5.3
欠損数	42	2.7	21	2.7	20	2.6	14	1.0	9	1.3	4	0.6
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.04		2.11		1.97		2.02		2.11		1.94	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	2		2		2		2		2		2	
標準偏差	0.82		0.82		0.82		0.83		0.79		0.86	

質問内容	小学校5年生		小5男子		小5女子		中学校2年生		中2男子		中2女子	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
○運動やスポーツの場面で、安全に注意して活動できますか。												
1 とてもそう思う(3点)	948	60.3	458	58.0	481	63.1	740	53.5	344	51.0	393	56.5
2 ややそう思う(2点)	467	29.7	246	31.2	217	28.5	541	39.1	275	40.8	259	37.3
3 あまりそう思わない(1点)	86	5.5	47	6.0	36	4.7	65	4.7	36	5.3	28	4.0
4 まったくそう思わない(0点)	26	1.7	17	2.2	7	0.9	24	1.7	12	1.8	12	1.7
欠損数	45	2.9	21	2.7	21	2.8	12	0.9	7	1.0	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.53		2.49		2.58		2.46		2.43		2.49	
中央値	3		3		3		3		3		3	
最頻値	3		3		3		3		3		3	
標準偏差	0.68		0.71		0.63		0.67		0.68		0.66	
○運動やスポーツを行っている際に、自分のできばえを自分自身で評価することができますか。												
1 とてもそう思う(3点)	553	35.2	300	38.0	246	32.3	492	35.6	252	37.4	236	34.0
2 ややそう思う(2点)	551	35.1	279	35.4	267	35.0	593	42.9	284	42.1	303	43.6
3 あまりそう思わない(1点)	314	20.0	129	16.3	179	23.5	223	16.1	104	15.4	117	16.8
4 まったくそう思わない(0点)	114	7.3	61	7.7	51	6.7	62	4.5	26	3.9	36	5.2
欠損数	40	2.5	20	2.5	19	2.5	12	0.9	8	1.2	3	0.4
合計	1572	100.0	789	100.0	762	100.0	1382	100.0	674	100.0	695	100.0
平均値	2.01		2.06		1.95		2.11		2.14		2.07	
中央値	2		2		2		2		2		2	
最頻値	3		3		2		2		2		2	
標準偏差	0.93		0.93		0.92		0.83		0.82		0.85	

動やスポーツの場面で、自分の感情をうまくコントロールできますか」と「運動やスポーツの場面で、自分自身の疲れ具合に応じて運動の仕方をうまくコントロールできますか」は無回答が4%を超えた。運動やスポーツ場面の経験が少ない者では、うまくコントロールできるか否かの判断が難しかった可能性がある。社会的領域では9項目が該当し、そのうち3項目は男女共通に無回答が3%を超えた。その3項目は倫理観や人間関係に関する項目であり、抽象的な質問内容となっていることが影響したのかもしれない。認知的領域では5項目が該当し、そのうち2項目が男女とも3%を超えた。具体的には、「運動やスポーツを行うときに、自分にとってより良い手段や方法、計画を考えることができますか」と「運動やスポーツの場面で、どうすれば成功できるかを考えることができますか」の2項目であり、抽象度が高いことが回答の難しさに影響し、無回答が多かった可能性がある。無回答が多かった項目、特に小学5年生を対象とした調査の場合には表現の工夫や例

示・注釈等を加えて補足説明が必要かもしれない。

次に、代表値は、回答分布の偏りを判断する目安となる。各項目は0点から3点までの値をとるため、中央値や最頻値が0または3であったり、平均値が0.5未満または2.5以上であったりした場合には、床効果や天井効果が疑われ、回答分布が偏っている可能性がある。小学校5年生男子・女子、中学2年生男子・女子のいずれかでもこれらに該当する項目は、身体的領域が4項目、心理的領域が5項目、社会的領域が6項目、認知的領域が5項目であった。ただし、最頻値、中央値、平均値がすべて該当している項目に限定すると、身体的領域は該当なし、心理的領域は1項目、社会的領域は2項目、認知的領域は2項目に限定される。心理的領域の1項目は、「運動やスポーツを積極的に楽しもうとしていますか」であり、小学5年生の男子だけが該当していた。とてもそう思う(3点)の割合も63.5%と高く、この年齢の子供の特徴を反映した結果であると考えられる。社会的領域の2項目は、「相手チームの人

がけがをしたら、試合やゲーム中でも助けることを優先できますか」と「ルールで決まっていなくても、ずるいことはしないと思いますか」であり、小学5年生と中学2年生の女子が該当していた。これら2項目は、倫理観に関する項目であり、女子の特徴が反映した結果であると考えられる。認知的領域の2項目は、「運動やスポーツの場面で、ルールを守ることの大切さを理解していますか」と「運動やスポーツの場面で、安全に注意して活動できますか」であり、前者は小学5年生・中学2年生男女すべてが該当し、後者は小学5年生の女子だけが該当していたが、とてもそう思う(3点)の割合で見ると、すべての対象者が50%を超えた。日本の子供達の多くは既にルールを遵守することや安全に活動することができていることの現れといえる。以上のように、回答分布の偏りが確認された項目については、日本の子供達の現状を踏まえれば、納得できる偏り(高さ)であった。このように頭打ち(天井効果)になっている項目は、Physical Literacy評価尺度を用いてPhysical Literacyの改善(教育効果など)を観察しようとする場合には不適切かもしれない。しかしながら、Physical Literacyの概念を踏まえると、いずれの項目もその概念を説明する重要な項目といえる。したがって、半数を超える子供の現状レベルが最高点(3点)であったとしても、改善が必要な子供が一定数いることや、日本独自のスポーツ文化やスポーツ倫理などを諸外国と比較をすることなどを勘案すると、必ずしも不適切な項目ということとはできない。ただし、質問の主旨が変わらない範囲で、質問の仕方を修正することには検討の余地がある。

表3は各領域の得点率とTotal得点率の特徴を表している。平均値、中央値、最頻値を領域ごとに比較すると、認知的領域の得点率が最も高く、身体的領域の得点率が最も低かった。また、得点率の平均

値は50点台から70点台、標準偏差が20点前後であり、認知的領域の場合、平均値+1標準偏差の値が90点を超え、高い値に集団が偏っている様子がうかがえる。ただし、Total得点率で見ると、その傾向は弱まる。次に欠損率に着目すると、身体的領域の得点率は小学5年生の男子で10%の欠損率であり、他の領域の得点率と比べて際立っていた。また、その影響によりTotal得点率においては、20%を超える欠損率となった。本調査では、小学5年生と中学2年生のみを対象としたため、今後は年齢幅を広げて回答の分布や欠損の特徴を確かめる必要がある。

4. さいごに

Physical Literacy評価尺度の試案は、諸外国のPhysical Literacyの概念を踏まえ、なおかつ、日本のスポーツの在り方やスポーツを通して子供に身につけさせたいことを念頭に質問項目を吟味して作成された。今回の集計結果は、Physical Literacy評価尺度の完成に向けた重要な基礎資料となる。幅広い年齢層が理解しやすい質問の仕方を継続して検討する必要がある。なお、本調査では、調査票の最後に「このアンケートの内容を理解することは、あなたにとって難しかったですか」という設問があった。小学校5年生では57.3%、中学2年生では61.9%が「とても簡単だった」または「やや簡単だった」と回答し、「どちらでもない」を含めると小学5年生は81.3%、中学2年生では84.9%となった。したがって、アンケート全体の印象としては、小学5年生や中学2年生にとって内容理解に苦慮することはほとんどなかったといえるが、一つ一つの質問項目を見ると、その内容理解に難易度の違いがあるため、更なる内容の吟味が必要である。

表3 4領域の得点率, Total得点率の特徴

領域	学年・性別	対象者数	有効数	欠損数	欠損率 (%)	平均値	中央値	最頻値	標準偏差	最小値	最大値
身体的領域 得点率(%)	小学校5年生	1572	1426	146	9.3	59.15	61.54	66.67	20.67	0.00	100.00
	小5男子	789	710	79	10.0	61.43	61.54	58.97	21.15	0.00	100.00
	小5女子	762	702	60	7.9	56.84	56.41	66.67	19.76	2.56	100.00
	中学校2年生	1382	1325	57	4.1	51.75	51.28	46.15	20.87	0.00	100.00
	中2男子	674	647	27	4.0	54.78	53.85	53.85	20.89	0.00	100.00
	中2女子	695	666	29	4.2	48.87	48.72	46.15	20.53	0.00	100.00
心理的領域 得点率(%)	小学校5年生	1572	1472	100	6.4	72.26	76.19	85.71	20.53	0.00	100.00
	小5男子	789	743	46	5.8	75.68	80.95	100.00	19.95	0.00	100.00
	小5女子	762	711	51	6.7	68.91	71.43	80.95	20.31	9.52	100.00
	中学校2年生	1382	1348	34	2.5	67.88	71.43	71.43	21.80	0.00	100.00
	中2男子	674	656	18	2.7	72.55	76.19	85.71	20.11	0.00	100.00
	中2女子	695	680	15	2.2	63.53	61.90	61.90	22.37	0.00	100.00
社会的領域 得点率(%)	小学校5年生	1572	1469	103	6.6	72.67	73.33	80.00	18.38	0.00	100.00
	小5男子	789	729	60	7.6	72.23	73.33	80.00	19.01	0.00	100.00
	小5女子	762	724	38	5.0	73.38	76.67	80.00	17.31	10.00	100.00
	中学校2年生	1382	1354	28	2.0	71.48	73.33	66.67	18.03	0.00	100.00
	中2男子	674	661	13	1.9	70.50	70.00	66.67	18.05	0.00	100.00
	中2女子	695	680	15	2.2	72.57	73.33	90.00	17.72	0.00	100.00
認知的領域 得点率(%)	小学校5年生	1572	1472	100	6.4	74.45	77.78	100.00	18.61	0.00	100.00
	小5男子	789	741	48	6.1	75.69	77.78	100.00	18.28	0.00	100.00
	小5女子	762	714	48	6.3	73.37	77.78	77.78	18.43	7.41	100.00
	中学校2年生	1382	1348	34	2.5	74.24	74.07	66.67	18.28	0.00	100.00
	中2男子	674	656	18	2.7	75.60	77.78	66.67	17.27	0.00	100.00
	中2女子	695	681	14	2.0	72.92	74.07	66.67	19.16	0.00	100.00
Total 得点率(%)	小学校5年生	1572	1254	318	20.2	70.16	72.18	97.44	16.88	0.00	100.00
	小5男子	789	621	168	21.3	71.74	74.09	97.44	16.92	0.00	100.00
	小5女子	762	622	140	18.4	68.65	70.23	49.08	16.56	12.60	100.00
	中学校2年生	1382	1252	130	9.4	66.58	67.36	100.00	16.61	0.00	100.00
	中2男子	674	610	64	9.5	68.43	69.27	100.00	15.95	0.64	100.00
	中2女子	695	632	63	9.1	64.83	65.39	0.00	17.07	0.00	100.00

2. Physical Literacy評価尺度試案と学習指導要領の対応関係

遠山 健太¹⁾ 松永 美咲¹⁾ 岡出 美則²⁾ 鈴木 宏哉³⁾

1. はじめに

子どもの体力・運動能力、運動習慣を把握するためにスポーツ庁は体力・運動能力、運動習慣等調査を毎年小学校5年生、中学校2年生を対象として調査をしている。その報告書によると子どもの体力や運動能力は1985年をピークに低下傾向にあるが、依然として現況は改善されていない。なぜ教育現場では毎年新体力テストを実施したり、運動や生活習慣の調査を行っていたりするのにも関わらず、体力の向上や運動習慣の二極化の是正ができていないのか。その原因の1つに教育現場での新体力テストや調査結果の効果的な活用の仕方に課題がある（遠山ら、2023）。現行の小学校学習指導要領解説体育編には以下のことが示されている。

「(中略)体育、健康に関する指導を効果的に進めるには、全国体力・運動能力、運動習慣等調査などを用いて児童の体力や健康状態等を的確に把握し、学校や地域の実態を踏まえて、それにふさわしい学校の全体計画を作成し、地域の関係機関・団体の協力を得つつ、計画的、継続的に指導することが重要である。」

このように本来は新体力テストの結果を体育や健康指導に活かす必要がある。それを活用しきれていないのは、教員が新体力テストの実施そのものに負担を感じていることが原因として挙げられる（遠山ら、2023）。また、新体力テストの項目で把握できるのは児童生徒の体力の現状であり、児童生徒の体育科・保健体育科の指導目標と評価には必ずしも直結していない。遠山ら（2023）が全国の小学生教員を対象に実施した調査をもとにした「教員が新体力テスト結果の活用が学習指導要領に結びつく方法論を求めている」という指摘からも明らかである。

そこで着目したのが、Physical Literacyの概念である。本研究プロジェクト第1報において、現在国際的に示されているPhysical Literacyの定義が、International Physical Literacy Associationが示した「人生における身体活動の価値を認め、身体活動に従事することへの対策を講じるための動機、自信、身体的能力、知識および理解」とオーストラリアの研究グループが示した「我々が活動的な生活を送るのに役立つスキル、知識、行動を構築することである。それは、運動動作や身体活動を通して生じ、身体的、心理的、社会的、認知的能力を統合する総体的学習である。」という2つの定義に集約されることを確認した。そのため、本研究プロジェクトではPhysical Literacyを身体的領域（体力・運動能力等の身体的能力）、認知的領域（知識・理解）、心理的領域（楽しさや自信等）並びに社会的領域（価値観、社会的スキル等）の4領域から捉えることとした。岡出（2022）はこの4つの構成領域に関連した記述が一貫して、バランスよく体育科の目標や内容に組み込まれていることを指摘した。現行の学習指導要領の体育科・保健体育科の教科目標は「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」である。したがって、現行のスポーツ庁新体力テストではその目標に含まれる一部分のみを評価しているに過ぎず、豊かなスポーツライフを実現するための「心理的」「認知的」「社会的」領域の評価項目は含まれていない。これらのことが、「教員が新体力テスト結果の活用が学習指導要領に結びつく方法論を求めている（遠山ら、2023）」ことの背景要因であると考えられる。

本研究プロジェクトでは第2報において、Physical Literacy評価尺度の試案を示した。Physical Literacy評価尺度の開発にあたっては、定量的な検証と定性的な検証が求められる。定量的な検証結果は、別に報告されており、本稿では、定性的な検

1) 順天堂大学大学院

2) 日本体育大学

3) 順天堂大学

証を行った。具体的には、現行の学習指導要領に示されている指導内容との評価尺度の関連性の検討であった。Physical Literacy評価尺度の試案が現行の学習指導要領に示されている指導内容に関連する評価観点をどの程度網羅できているのかを調査することで、Physical Literacy評価尺度の特性や体育科教育における有用性を明らかにすることができると考えられる。本稿では、現行の学習指導要領（小学校体育、中学校保健体育）の記載内容を精読し、Physical Literacy評価尺度試案の39項目と関連する記載内容を抽出し、その対応表を作成することを試みた。

2. 作成作業1：検討会

第1回目の対応表作成の検討会では、質的研究手法を用いたスポーツ社会学研究を専門とする大学教員、発達学と測定評価学を専門とする大学教員、そして筆頭著者の3名で検討を行った。第1段階の作業として、小学校学習指導要領（平成29年告示）の第9節、「体育」（142-155頁）と中学校学習指導要領（平成29年告示）の第7節、「体育」（115-131頁）に記載されている、各学年の内容を精読し、Physical Literacy評価尺度（試案）の4領域39項目に関連すると思われる表現をすべて抽出した。抽出した文言は39項目のどの項目に関連するか整理し、抽出した文言を該当する学年と単元ごとに分類した。

第2回目の検討会では、体育科教育学を専門とする大学教員を新たに加え、第1回目で作成した対応表をもとに、第1段階作業で行ったことを振り返りながら議論した。新たに追加された視点としては、学習指導要領が「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育むことができるように学習の過程を工夫し、充実を図ることとしているため、対応表にこの3つの資質・能力を分類方法として盛り込むこととした。3つの資質・能力別の指導内容は小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編「参考：小学校及び中学校の領域別系統表（174-187頁）」と中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編「参考：運動領域、体育分野の系統表（256-259頁）」「参考：保健領域、保健分野

の系統表（260-263頁）」に要約されている。この系統表は小学校低学年、中学年、高学年、中学校1-2年生、中学校3年生の5つに分類・整理されているため、系統表に記載されているすべての文言（指導内容）を該当学年、資質・能力、単元ごとに該当する項目に振り分けた。なお、文言が複数のPhysical Literacy項目に重複して該当していると判断した場合には、両方の項目に重複して分類した。

表1はPhysical Literacyの質問項目試案と系統表の対応関係を表した例である。例としているのは、1つの質問項目に対して、系統表にある複数の文言が関係しているため、39項目のそれぞれに1つ対応する文言だけを例示したためである。例えば、小学校の学習指導要領の系統表「知識及び技能」「陸上運動系：ハードル走」の指導内容として「体を軽く前傾させて全力で走る。スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走る」とある。この文言はPhysical Literacy評価尺度の、「領域：身体的」「要素：移動技能」「内容：体を移動させる動き」に該当する（表1）。

第3回目の検討会では、第2回検討会とは異なる体育科教育学を専門とする大学教員に意見を求めた。具体的には、2回の検討会を経て整理された対応表を確認しながら、特に、39項目の質問項目の意図とそれに対応させた学習指導要領の系統表の文言の意図が一致しているかの確認を行った。検討の結果、整理する際の考え方として、知識及び技能の文言のうち、知識に関する文言は認知的領域に、技能は身体的領域に振り分けること、思考力・判断力・表現力等は認知的領域に振り分けること、学びに向かう力・人間性等は心理的領域、社会的領域に振り分けることを基本として考えることができることを共有した。ただし、指導内容によっては、技能であっても心理的領域などに関連する文言もあることを確認した。また、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編・体育編に示されている区分が参考になることも確認した。具体的には、解説の36頁には、思考力、判断力、表現力等の分類として「体の動かし方や運動の行い方に関する思考力、判断力、表現力等」「体力や健康・安全に関する思考力、判断力、表現力等」「運動実践につながる態度に関する思考力、判断力、表現力等」「生涯ス

表1 Physical Literacyの質問項目試案と系統表の対応関係 (例)

領域	要素	内容	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学校 1-2年	中学校 3年	評価観点	単元	指導内容
身体的	移動技能	体を移動させる動き				○		知識及び技能	陸上運動系	○40～50m程度のハードル走 体を軽く前傾させて全力で走ること。スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走ること。 【用具を操作する運動遊び】 ○用具に乗るなどの動き ○作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する ※ゴール型 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。 ・味方が操作しやすいパスを送ること。 ・守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。 長距離走 ・自己に適したペースを維持して走る 鉄棒運動 ふとん干し/ツバメ/足抜き回り/ぶたの丸焼き/さる/こうもり/ぶら下がり/跳び上がり・跳び下り/前に回って下りる 【巧みな動きを高めるための運動】 ○用具などを用いた運動 ・短なわや長なわを用いていろいろな跳び方をしたり、なわ跳びをしながらボールを操作したりする ○リズムミカルな助走からの走り幅跳び ・7～9歩程度のリズムミカルな助走をする ※平均台運動 ・体操系やバランス系の基本的な技を滑らかにを行う ※体の動きを高める運動 ・ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを継続する能力を高めるための運動を行う 少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする ※柔道 ・相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなど の簡易な攻防をする ※ベースボール型 ・基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって 攻防をする 例示) 捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ること。 ※短距離走・リレー ・中間走へのつなぎを滑らかにして速く走る ・バトンの受渡しで次走者のスピードを十分高める
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	○					知識及び技能	体づくり運動系	
	用具の操作	用具を操作する動き					○	知識及び技能	球技	
	全身持久力	スタミナ					○	知識及び技能	陸上競技	
	筋持久力	一定の力を出し続けること					○	知識及び技能	器械運動	
	協調性	調整力			○			知識及び技能	体づくり運動系	
	身体的なリズム感	リズムミカルな体の動き			○			知識及び技能	陸上運動系	
	安定性/バランス	バランスをとる動き			○			知識及び技能	器械運動	
	柔軟性	体の柔らかさ				○		知識及び技能	体づくり運動	
	敏捷性	素早い身のこなし				○		知識及び技能	ボール運動系	
	筋力	力強さ			○			知識及び技能	武道	
	反応時間	素早い反応				○		知識及び技能	球技	
	スピード	走る速さ					○	知識及び技能	陸上競技	

領域	要素	内容	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学校 1・2年	中学校 3年	評価観点	単元	指導内容
心理的	モチベーション	運動・スポーツへの意欲			○			学びに向かう力、人間性等	体づくり運動系	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。 ア 体づくりの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組むこと。
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール			○			知識及び技能	保健	ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。 （ア）心の発達（中略）心が発達することによって、自己の感情をコントロールしたり、相手の気持ちを理解したりすることができるようになることにも触れるようになる。
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール								
	自己認識	自分の能力の理解		○				思考力、判断力、表現力等	体づくり運動系	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
	自信	自分を信じること				○		学びに向かう力、人間性等	陸上競技	一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする
	楽しさ	楽しむとする態度		○				知識及び技能	水泳運動系	○水につかっのての水かけっこ、まねっこ遊び・水を手ですくって友達と水をかけ合う・水につかっのていろいろな動物の真似をしながら歩く
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所								
	社会的	勝敗に関わらない相手への尊重		○				学びに向かう力、人間性等	陸上運動系	運動に進んで取り組み、きまりを守り誰でも仲よく運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
	倫理観1	相手を大切にすることと行動			○			学びに向かう力、人間性等	体づくり運動系	運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
	倫理観2	真の公正さ				○		学びに向かう力、人間性等	球技	・フェアなプレイを守ろうとする
社会的	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり				○		学びに向かう力、人間性等	体づくり運動	・一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝					○	学びに向かう力、人間性等	武道	・相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする
	人間関係	人との関わり			○			知識及び技能	保健	ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。 （ア）心の発達（中略）家族、友達、地域の人々など人との関わりを中心として取り扱うようにし、心が発達することによって、自己の感情をコントロールしたり、相手の気持ちを理解したりすることができるようになることにも触れるようにする。
	協力	他者へのサポート				○		学びに向かう力、人間性等	器械運動	器械運動に積極的に取り組みとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする、仲間などや、健康・安全に気を配ること。
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲				○		知識及び技能	体育理論	ア 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。 （ウ）世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること			○			学びに向かう力、人間性等	器械運動系	場や器械・器具の安全に気を配る
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力			○			学びに向かう力、人間性等	体づくり運動系	・仲間の考えや取組を認める

領域	要素	内容	小学校 低学年	小学校 中学年	小学校 高学年	中学校 1・2年	中学校 3年	評価観点	単元	指導内容
認知的	知識	運動・スポーツ実践 の効果の理解		○				知識及び技能	保健/保健分野	健康な生活について理解すること。 (ア)健康の状態は、主体の要因や周囲の環境の要因が関わっていること
	ルールの遵守	ルールを守ること			○			学びに向かう 力、人間性等	ボール運動系	運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れ たり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
	ルールのアレン ジ	ルールの工夫			○			思考力、判断 力、表現力等	ボール運動系	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自 己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
	推論	理由を考え解決する こと				○		思考力、判断 力、表現力等	器械運動	技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工 夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
	戦略と計画	良い手立てを考える こと		○				思考力、判断 力、表現力等	ボール運動系	<例示>選択した技の行い方や技の組合せ方について、合理的な動きと自己や仲 間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。
	戦術	成功するための考え 方				○		思考力、判断 力、表現力等	体づくり運動	簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝え ること。
	知覚的認識	状況把握・予測した 行動					○	知識及び技能	器械運動	自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、 自己や仲間の考えたことを他者に伝える
	安全性とリスク	安全に活動すること				○		学びに向かう 力、人間性等	水泳	○技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する ・水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配る
	自己観察能力	自分のできばえを評 価					○	知識及び技能	器械運動	○技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解する

スポーツの設計に関する思考力、判断力、表現力等」の4分類がある。また、40頁には、学びに向かう力、人間性等の分類として「共通事項」「公正」「協力・責任」「参画・共生」「健康・安全」の5分類がある。これらの分類を系統表に示されている文言の振り分け作業の手がかりとした。

3. 作成作業2：該当数の集計

表2は、Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数の対応関係を表している。4領域39項目が学習指導要領に示されている指導内容とどのくらい関係しているかを、量的な視点から探った。

該当数のカウントにあたっては、例えば、小学校低学年のボール運動系の単元では「少人数で連携して相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする」という文言があるが、「少人数で連携して」は認知的領域の「戦術」（成功するための考え方）に該当するとともに「相手（鬼）をかわしたり、走り抜けたりする」は身体的領域の「敏捷性」（素早い身のこなし）に該当するため重複項目として、それぞれの領域で1箇所とカウントした。その結果、小学校から中学校までに扱う指導内容とPhysical Literacy評価尺度の項目が、身体的領域では325箇所、心理的領域では75箇所、社会的領域では217箇所、認知的領域では226箇所に関連することが分かった。該当箇所の多寡は必ずしも重要性和一致するわけではないため、該当箇所の多寡を比較することはしないが、Physical Literacy評価尺度の39項目中37項目が、学習指導要領の指導内容と関連していることが明らかとなった。

次に該当箇所について、どの学年、どの単元に該当しているのかを把握するために、低学年、中学年、高学年、中学1-2年、中学3年に分類し、単元ごとに該当数をまとめた（表3～表7）。

小学校低学年では、身体的領域に対応した指導内容が80箇所あり、以下心理的領域15箇所、社会的領域41箇所、認知的領域27箇所であった（表3）。小学校中学年では、身体的領域に対応した指導内容が88箇所あり、以下心理的領域15箇所、社会的領域51箇所、認知的領域36箇所であった（表4）。小学校高学年では、身体的領域に対応した指

導内容が83箇所あり、以下心理的領域14箇所、社会的領域53箇所、認知的領域54箇所であった（表5）。中学校1-2年では、身体的領域に対応した指導内容が41箇所あり、以下心理的領域16箇所、社会的領域40箇所、認知的領域61箇所であった（表6）。中学校3年では、身体的領域に対応した指導内容が33箇所あり、以下心理的領域15箇所、社会的領域32箇所、認知的領域48箇所であった（表7）。小学校学習指導要領では身体的領域に対応する指導内容が最も多く、次いで社会的領域が多かった。一方、中学校では認知的領域に対応する指導内容が最も多く、次いで身体的領域が多かった。

4. さいごに

国際的に用いられているPhysical Literacyの定義は、学習指導要領の体育科、保健体育科の教科目標と極めて類似している。本研究プロジェクトにおいて試案されたPhysical Literacy評価尺度は国際的な定義や国際的に用いられている評価尺度を参考に作成された。しかし、その評価尺度の質問項目がどの程度学習指導要領で取り扱う指導内容と関連しているかは確認できていなかった。本稿では、Physical Literacy評価尺度の試案が現行の学習指導要領に示されている指導内容に関連する評価観点をどの程度網羅できているのかを検討した。その結果、39の質問項目の内、37の項目が小学校と中学校の学習指導要領（体育、保健体育）で取り扱う指導内容に関連していることが確認できた。ただし、学習指導要領に記述されている指導内容の該当数は、各質問項目、取り扱う学年、取り扱う単元によって異なることが分かった。

本報告書に示した表は、複数の検討を重ねて作成したものであるが、学習指導要領に記載されている一部の文言は、どのような意図を持って書かれているのかが不明瞭な点もあり、分類に苦慮した。該当箇所の総数は延べ843箇所確認できたが、それらがPhysical Literacyの4領域のどれに該当するのかについては更なる議論が必要かもしれない。特に学習指導要領に精通している現役の教科調査官や現行の学習指導要領の編纂に関わった教科調査官との意見交換も必要だろう。また、Physical Literacy評価尺度の開発にあたっては、学習指導要領との関

表2 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数

領域	要素	内容	低学年	中学年	高学年	中学 1-2年	中学 3年	合計
身体的 (合計325箇所)	移動技能	体を移動させる動き	31	40	28	3	3	105
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	1	1	0	1	0	3
	用具の操作	用具を操作する動き	10	9	10	4	2	35
	全身持久力	スタミナ	2	1	3	2	1	9
	筋持久力	一定の力を出し続けること	5	3	2	2	2	14
	協調性	調整力	3	8	13	4	2	30
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	12	13	10	3	2	40
	安定性/バランス	バランスをとる動き	3	4	3	5	5	20
	柔軟性	体の柔らかさ	1	0	3	1	0	5
	敏捷性	素早い身のこなし	3	0	2	5	5	15
	筋力	力強さ	6	6	5	8	7	32
	反応時間	素早い反応	0	1	1	1	1	4
	スピード	走る速さ	3	2	3	2	3	13
心理的 (合計75箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	6	7	6	7	7	33
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	1	1	2	0	0	4
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0
	自己認識	自分の能力の理解	2	4	3	1	0	10
	自信	自分を信じること	0	1	3	1	0	5
	楽しさ	楽しもうとする態度	6	2	0	7	8	23
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0
社会的 (合計217箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	2	2	3	2	2	11
	倫理観2	相手を大切にすることと行動	0	1	1	1	1	4
	倫理観3	真の公正さ	1	1	1	2	1	6
	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	6	7	6	8	7	34
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝	1	1	1	1	1	5
	人間関係	人との関わり	14	14	12	14	12	66
	協力	他者へのサポート	4	9	10	9	3	35
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	2	1	4	0	2	9
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	7	6	6	0	0	19
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	4	9	9	3	3	28
認知的 (合計226箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	0	5	4	9	7	25
	ルールの遵守	ルールを守ること	6	6	6	2	2	22
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	2	3	3	1	0	9
	推論	理由を考え解決すること	6	7	7	9	9	38
	戦略と計画	良い手立てを考えること	1	6	7	2	1	17
	戦術	成功するための考え方	2	1	3	4	7	17
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	3	1	5	1	6	16
	安全性とリスク	安全に活動すること	7	6	19	23	16	71
	自己観察能力	自分のできばえを評価	0	1	0	10	0	11

連以外の視点も含む必要がある。そもそもこのPhysical Literacy評価尺度は体育，保健体育の学習評価に特化して作成しているものではなく，競技スポーツで卓越したアスリートを目指したり，生涯にわたり運動・スポーツを実践したり，関わったりする大人が身につけるべき資質・能力を網羅することを意識している。したがって，定性的な検証作業の中では，学習指導要領以外にも，例えば，日本スポーツ協会が認定するスポーツ指導者の資格取得に関わるテキストの記載内容などとの関連性も検討する必要があるだろう。

文 献

- 岡出美則（2022）「日本の保健体育科学習指導要領にみるPhysical Literacy」．内藤久士ほか編著『令和3年度日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告Ⅴ 身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度の開発－第1報－』．公益財団法人 日本スポーツ協会スポーツ医・科学委員会．pp.33-49.
- 遠山健太，鈴木宏哉，渡正（2023）小学校教員の新体力テストの活用実態及び意識調査，発育発達研究，95，pp.52-70.

表3 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数：低学年

領域	要素	内容	単元						計
			体づくり 運動系	器械 運動系	陸上 運動系	水泳 運動系	ボール 運動系	表現 運動系	
身体的 (合計80箇所)	移動技能	体を移動させる動き	8	5	7	7	4	0	31
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	1	0	0	0	0	0	1
	用具の操作	用具を操作する動き	4	0	1	1	4	0	10
	全身持久力	スタミナ	1	0	0	0	0	1	2
	筋持久力	一定の力を出し続けること	1	4	0	0	0	0	5
	協調性	調整力	1	1	1	0	0	0	3
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	1	0	0	0	0	11	12
	安定性/バランス	バランスをとる動き	1	2	0	0	0	0	3
	柔軟性	体の柔らかさ	0	1	0	0	0	0	1
	敏捷性	素早い身のこなし	0	0	0	0	3	0	3
	筋力	力強さ	2	1	3	0	0	0	6
	反応時間	素早い反応	0	0	0	0	0	0	0
	スピード	走る速さ	0	0	0	0	3	0	3
心理的 (合計15箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	1	1	1	1	1	1	6
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	1	0	0	0	0	0	1
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0	0
	自己認識	自分の能力の理解	1	0	0	1	0	0	2
	自信	自分を信じること	0	0	0	0	0	0	0
	楽しさ	楽しもうとする態度	1	1	0	3	0	1	6
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0	0
社会的 (合計41箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	0	0	1	0	1	0	2
	倫理観2	相手を大切にすることと行動	0	0	0	0	0	0	0
	倫理観3	真の公正さ	0	0	0	0	1	0	1
	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	2	1	0	1	1	1	6
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝	0	0	0	0	1	0	1
	人間関係	人との関わり	2	2	2	2	1	5	14
	協力	他者へのサポート	1	0	0	0	1	2	4
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	1	1	0	0	0	0	2
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	2	1	1	1	1	1	7
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	1	0	0	1	1	1	4
認知的 (合計27箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	0	0	0	0	0	0	0
	ルールの遵守	ルールを守ること	1	1	1	1	2	0	6
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	1	0	0	0	1	0	2
	推論	理由を考え解決すること	1	1	1	1	1	1	6
	戦略と計画	良い手立てを考えること	0	0	0	0	1	0	1
	戦術	成功するための考え方	0	0	0	0	2	0	2
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	0	0	0	0	3	0	3
	安全性とリスク	安全に活動すること	1	1	1	1	1	2	7
	自己観察能力	自分のできばえを評価	0	0	0	0	0	0	0

表4 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数：中学年

領域	要素	内容	単元							計
			体づくり 運動系	器械 運動系	陸上 運動系	水泳 運動系	ボール 運動系	表現 運動系	保健 領域	
身体的 (合計88箇所)	移動技能	体を移動させる動き	11	9	9	7	4	0	0	40
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	1	0	0	0	0	0	0	1
	用具の操作	用具を操作する動き	5	0	1	0	3	0	0	9
	全身持久力	スタミナ	1	0	0	0	0	0	0	1
	筋持久力	一定の力を出し続けること	1	2	0	0	0	0	0	3
	協調性	調整力	1	4	1	0	2	0	0	8
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	1	0	2	0	0	10	0	13
	安定性/バランス	バランスをとる動き	2	2	0	0	0	0	0	4
	柔軟性	体の柔らかさ	0	0	0	0	0	0	0	0
	敏捷性	素早い身のこなし	0	0	0	0	0	0	0	0
	筋力	力強さ	2	2	2	0	0	0	0	6
	反応時間	素早い反応	0	0	1	0	0	0	0	1
	スピード	走る速さ	0	0	1	0	1	0	0	2
心理的 (合計15箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	1	1	1	2	1	1	0	7
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	1	0	0	0	0	0	0	1
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0
	自己認識	自分の能力の理解	0	1	1	1	0	1	0	4
	自信	自分を信じること	0	0	1	0	0	0	0	1
	楽しさ	楽しもうとする態度	1	0	0	0	0	1	0	2
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0	0	0
社会的 (合計51箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	0	0	1	0	1	0	0	2
	倫理観2	相手を大切にすることと行動	1	0	0	0	0	0	0	1
	倫理観3	真の公正さ	0	0	0	0	1	0	0	1
	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	1	1	1	1	2	1	0	7
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝	0	0	0	0	1	0	0	1
	人間関係	人との関わり	2	2	2	2	2	4	0	14
	協力	他者へのサポート	0	2	2	2	2	1	0	9
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	1	0	0	0	0	0	0	1
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	1	1	1	1	1	1	0	6
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	1	1	2	2	2	1	0	9
認知的 (合計36箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	0	0	0	0	0	0	5	5
	ルールの遵守	ルールを守ること	1	1	1	1	2	0	0	6
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	1	0	1	0	1	0	0	3
	推論	理由を考え解決すること	1	1	1	1	1	1	1	7
	戦略と計画	良い手立てを考えること	1	1	1	1	1	1	0	6
	戦術	成功するための考え方	0	0	0	0	1	0	0	1
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	0	0	0	0	1	0	0	1
	安全性とリスク	安全に活動すること	1	1	1	1	1	1	0	6
	自己観察能力	自分のできばえを評価	0	1	0	0	0	0	0	1

表5 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数：高学年

領域	要素	内容	単元							計
			体づくり 運動系	器械 運動系	陸上 運動系	水泳 運動系	ボール 運動系	表現 運動系	保健 領域	
身体的 (合計83箇所)	移動技能	体を移動させる動き	1	9	9	4	5	0	0	28
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	0	0	0	0	0	0	0	0
	用具の操作	用具を操作する動き	3	0	1	0	6	0	0	10
	全身持久力	スタミナ	2	0	0	0	0	1	0	3
	筋持久力	一定の力を出し続けること	1	1	0	0	0	0	0	2
	協調性	調整力	6	3	0	2	2	0	0	13
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	1	0	3	1	0	5	0	10
	安定性/バランス	バランスをとる動き	0	1	1	1	0	0	0	3
	柔軟性	体の柔らかさ	3	0	0	0	0	0	0	3
	敏捷性	素早い身のこなし	1	0	0	0	1	0	0	2
	筋力	力強さ	1	2	2	0	0	0	0	5
	反応時間	素早い反応	0	0	1	0	0	0	0	1
	スピード	走る速さ	0	0	2	0	1	0	0	3
心理的 (合計14箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	1	1	1	1	1	1	0	6
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	1	0	0	0	0	0	1	2
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0
	自己認識	自分の能力の理解	1	0	1	1	0	0	0	3
	自信	自分を信じること	1	0	1	1	0	0	0	3
	楽しさ	楽しもうとする態度	0	0	0	0	0	0	0	0
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0	0	0
社会的 (合計53箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	0	0	1	0	2	0	0	3
	倫理観2	相手を大切にすることと行動	1	0	0	0	0	0	0	1
	倫理観3	真の公正さ	0	0	0	0	1	0	0	1
	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	1	1	1	1	1	1	0	6
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝	0	0	0	0	1	0	0	1
	人間関係	人との関わり	1	2	2	2	2	3	0	12
	協力	他者へのサポート	2	0	2	2	2	2	0	10
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	2	0	0	0	0	2	0	4
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	1	1	1	1	1	1	0	6
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	1	2	2	2	1	1	0	9
認知的 (合計54箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	1	0	0	0	0	0	3	4
	ルールの遵守	ルールを守ること	1	1	1	1	2	0	0	6
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	1	0	1	0	1	0	0	3
	推論	理由を考え解決すること	1	1	1	1	1	1	1	7
	戦略と計画	良い手立てを考えること	1	1	1	1	1	1	1	7
	戦術	成功するための考え方	0	0	1	0	2	0	0	3
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	0	0	0	0	5	0	0	5
	安全性とリスク	安全に活動すること	1	1	1	5	1	1	9	19
	自己観察能力	自分のできばえを評価	0	0	0	0	0	0	0	0

表6 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数：中学1-2年

領域	要素	内容	単元										計
			体づくり 運動	器械 運動	陸上 運動	水泳 運動	球技	ダンス	武道	体育 理論	保健 領域		
身体的 (合計41箇所)	移動技能	体を移動させる動き	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	用具の操作	用具を操作する動き	0	0	1	0	2	0	1	0	0	4	
	全身持久力	スタミナ	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	
	筋持久力	一定の力を出し続けること	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
	協調性	調整力	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4	
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3	
	安定性/バランス	バランスをとる動き	0	1	0	1	0	0	3	0	0	5	
	柔軟性	体の柔らかさ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	敏捷性	素早い身のこなし	0	1	0	0	1	0	3	0	0	5	
	筋力	力強さ	1	1	3	0	0	0	3	0	0	8	
	反応時間	素早い反応	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
スピード	走る速さ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
心理的 (合計16箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自己認識	自分の能力の理解	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	自信	自分を信じること	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	楽しさ	楽しもうとする態度	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
社会的 (合計40箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
	倫理観2	相手を大切にすることと行動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	倫理観3	真の公正さ	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	
	寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	1	1	1	1	1	1	1	1	0	8	
	相互尊敬	審判に対する態度と感謝	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
	人間関係	人との関わり	2	1	1	1	2	1	1	5	0	14	
	協力	他者へのサポート	1	0	1	1	3	1	1	1	0	9	
	社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3	
認知的 (合計61箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	1	1	1	1	1	1	1	2	0	9	
	ルールの遵守	ルールを守ること	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
	推論	理由を考え解決すること	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	
	戦略と計画	良い手立てを考えること	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	戦術	成功するための考え方	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4	
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	安全性とリスク	安全に活動すること	1	1	1	1	1	1	1	1	15	23	
	自己観察能力	自分のできばえを評価	1	1	1	1	1	1	1	3	0	10	

表7 Physical Literacy評価尺度と系統表に記述された指導内容の該当数：中学3年

領域	要素	内容	単元										計
			体づくり 運動	器械 運動	陸上 運動	水泳 運動	球技	ダンス	武道	体育 理論	保健 領域		
身体的 (合計33箇所)	移動技能	体を移動させる動き	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	
	道具を使った移動	道具を使って移動すること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	用具の操作	用具を操作する動き	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
	全身持久力	スタミナ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
	筋持久力	一定の力を出し続けること	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	
	協調性	調整力	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	
	身体的なリズム感	リズムカルな体の動き	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	
	安定性/バランス	バランスをとる動き	0	1	0	1	0	0	3	0	0	5	
	柔軟性	体の柔らかさ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	敏捷性	素早い身のこなし	0	1	0	0	1	0	3	0	0	5	
	筋力	力強さ	0	1	3	0	0	0	3	0	0	7	
	反応時間	素早い反応	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
スピード	走る速さ	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3		
心理的 (合計15箇所)	モチベーション	運動・スポーツへの意欲	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	
	感情の調整・制御	気持ちのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	身体活動の調整・制御	活動レベルのコントロール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自己認識	自分の能力の理解	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自信	自分を信じること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	楽しさ	楽しもうとする態度	1	1	1	1	1	1	1	1	0	8	
	場所とのつながり	運動やスポーツをするお気に入りの場所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会的 (合計32箇所)	倫理観1	勝敗に関わらない相手への尊重	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
倫理観2	相手を大切にすることと行動	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		
倫理観3	真の公正さ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1		
寛容の精神	仲間の受け入れ、思いやり	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7		
相互尊敬	審判に対する態度と感謝	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
人間関係	人との関わり	2	1	2	2	1	2	2	0	0	12		
協力	他者へのサポート	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3		
社会と文化	さまざまな楽しみ方に対する学習意欲	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2		
スポーツ環境への配慮	道具や施設を大切にすること	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
課題解決に向けた協力関係	課題を解決するための協力	1	1	0	0	1	0	0	0	0	3		
認知的 (合計48箇所)	知識	運動・スポーツ実践の効果の理解	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	
	ルールの遵守	ルールを守ること	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
	ルールのアレンジ	ルールの工夫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	推論	理由を考え解決すること	1	1	1	1	1	1	1	1	1	9	
	戦略と計画	良い手立てを考えること	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	戦術	成功するための考え方	1	1	1	1	1	1	1	0	0	7	
	知覚的認識	状況把握・予測した行動	0	1	1	1	1	1	1	0	0	6	
	安全性とリスク	安全に活動すること	1	1	1	1	1	1	1	1	8	16	
	自己観察能力	自分のできばえを評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

3. まとめ

内藤 久士¹⁾

はじめに述べたように、本プロジェクト研究では令和3年度から3年間、身体活動やスポーツ活動の促進、また健康や体力の向上への取り組みにつながる日本版身体リテラシー（Physical Literacy）の評価尺度（質問紙）の開発を目指した。ここでは、3年間取り組んだ内容（図参照）と成果をあらためて整理し、最後に今後取り組むべき課題をあげてまとめとしたい。

まず初年度は、国内外の身体リテラシー（Physical Literacy）に関わる議論について整理し、身体リテラシー（Physical Literacy）の捉え方およびこれまで開発されている評価尺度についてのレビューを行った。その結果、身体リテラシー（Physical Literacy）の概念は古くより存在していたが、英国のWhitehead氏による定義以来、時代とともに修正が施されているものの、比較的多くの研究がこれをベースに評価尺度の開発などを行っていることを確認した。一方、世界のいくつかの国々では、それぞれの国における教育やスポーツ政策にあわせて、Whitehead氏によるものとはやや異なる定義づけを行い評価尺度などの開発が行われており、また、評価の対象を子どもに限定したもの、あるいはその評価をスコア化するものなど、様々な方法や質問紙があることが明らかとなった。これら諸外国での現状を踏まえ、本プロジェクトでは、日本における評価尺度開発の観点には、学校教育・体育（学習指導要領）、体力テスト、アスリート育成システムなどにも一定の配慮をすべきであることなどが議論され、評価尺度には身体領域、心理（感情）領域、認知領域、社会領域の4領域を含むことが妥当であろうとのコンセンサスを得た。そして、これらの議論に基づいて、まずヨーロッパで用いられている身体領域、感情領域、認知領域、社会領域の4領域16問からなる質問紙（Physical Literacy for life:PL4L）を日本語に翻訳し、この和訳版PL4Lを用いて18～

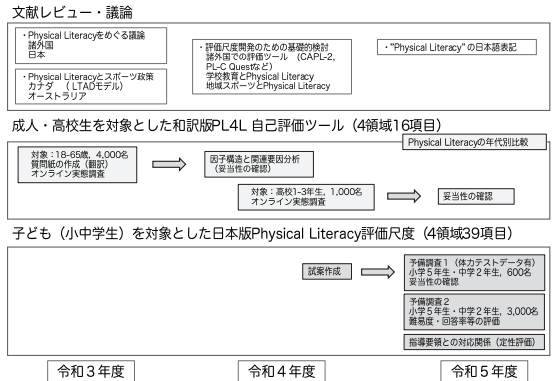


図 本プロジェクトの3年間の主な取り組み内容

65歳までの成人男女4,000名を対象にオンライン調査を実施し、日本における成人の身体リテラシー（Physical Literacy）の実態を明らかにした。

次年度は、まず成人に対して調査した和訳版PL4Lのデータを用いて、これが身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度としての内容的妥当性と因子妥当性を有することを確認した。さらに、和訳版PL4Lを用いて高校1～3年生男女1,000名に対する身体リテラシー（Physical Literacy）の実態調査を行った。また、文献レビューをさらにすすめて、諸外国の身体リテラシー（Physical Literacy）の評価尺度について整理すると同時に、子ども（小中学生）を対象とした日本版身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度を開発するにあたって重要となる学校教育および地域スポーツの視点からも身体リテラシー（Physical Literacy）との関わりについて議論した。そして、オーストラリアで開発されたPhysical Literacy in Children Questionnaire（PL-C Quest）を参考に、小中学生の子どもを対象とする身体的領域、心理的領域、認知的領域、社会的領域の4領域39項目からなる評価尺度を持った日本版身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度の試案（質問紙）を作成した。これは、学習指導要領や日本のスポーツ文化も意識して質問項目の修正・追加を行ったものであり、プロジェク

1) 順天堂大学大学院

トメンバーがその内容や文言、回答の仕方などの議論を重ね作成したものである。

そして最終年度となる本年度は、まず高校生を対象とした和訳版PL4Lの因子妥当性等の詳細な分析を行い、身体リテラシー (Physical Literacy) が身体活動の頻度や強度と密接に関連しており、身体活動の質と量が身体リテラシー (Physical Literacy) に与える影響が大きいことを確認した。また、スポーツクラブや運動部活動に所属する生徒は、非所属者と比べて身体リテラシー (Physical Literacy) が高いことなども明らかにした。これらのことより、和訳版PL4Lは高校生に対しても有用な尺度 (質問紙) であることを確認した。さらに、高校生および成人を対象とした和訳版PL4Lの調査データを合わせて身体リテラシー (Physical Literacy) の年代別の特徴について検討を行った。その結果、最も高い身体リテラシー (Physical Literacy) を示したのは高校生および18～29歳の若年層であり、年齢が上がるにつれて身体リテラシー (Physical Literacy) は低下する傾向が見られた。しかし、30～49歳の女性の身体リテラシー (Physical Literacy) は、他の年代や性別と比較して低くこの年代の女性が抱えるライフスタイルや健康問題の影響を受けている可能性がうかがわれた。

一方、小中学生の子どもを対象とする日本版身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の試案の定量的な検討がなされていなかったため、1回目の予備調査として小学5年生と中学2年生の男女計約600名を対象に小規模調査を行い、因子分析や体力テストとの関連性を検討して評価尺度の特性および妥当性を検証した。その結果、試案として作成した39項目のうち、身体的領域11項目、心理的領域6項目、社会的領域8項目、認知的領域9項目の計34項目が身体リテラシー (Physical Literacy) の各領域を評価する構成概念妥当性が高い尺度であることを確認した。さらに、2回目の予備調査として9都県の小学校19校の5年生男女と7都県の中学校11校の2年生男女計約3,000名より回答を得た。このデータの詳細な分析は現在すすめられているが、一つ一つの質問項目を見ると、その内容理解に難易度の違いがあるものの、8割以上の小中学生が質問内容の理解に苦慮することはなかったよう

である。

一方、これらの定量的な検証とは別に、子どもを対象とした日本版身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の試案が現行の学習指導要領に示されている指導内容に関連する評価観点をどの程度網羅できているのかを調査するために、それらの対応関係について定性的な検証を行った。その結果、39の質問項目のうち37項目が小学校と中学校の学習指導要領 (体育、保健体育) で取り扱う指導内容に関連していることが確認され、体育科教育における有用性が期待出来される内容であることが確認された。

以上のことより、高校生以上の年代を対象とした和訳版PL4L、および子ども (小学5年生と中学2年生) を対象とした日本版身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の試案は、身体、心理 (感情)、認知、社会の4領域を網羅する評価尺度を備え、学校教育・体育 (学習指導要領)、体力テスト、アスリート育成システム、地域スポーツ、日本のスポーツ文化などの観点にも配慮した質問紙として妥当性と実用性を備えており、日本における身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度を開発するという本プロジェクトの所期の目的は概ね達成できたのではないかと考える。

しかし、多くの成果が得られた一方で残された課題も多い。特に、子どもを対象とした日本版身体リテラシー (Physical Literacy) 評価尺度の試案は、幅広い年齢層、特に小学校低学年以下の子どもたちが理解しやすいように、その主旨が変わらない範囲で質問の仕方や内容および質問数をさらにブラッシュアップしていく必要があることは疑う余地がない。また今回開発した評価尺度をどのように活用するのか、また身体リテラシー (Physical Literacy) を向上させるための介入策を設計し、その効果を検証すること、さらに、日本スポーツ協会が認定するスポーツ指導者の資格取得に関わるテキストの記載内容などとの関連性について定性的な検証をしていく必要があると考えられる。

最後になるが、“Physical Literacy”を日本語でどのように表記するのかは本プロジェクトの重要な課題であったが、議論を重ねたものの最終的な結論を導くには至らなかった。すなわち、“Physical

Literacy”は、身体的領域（体力・運動能力等の身体的能力）、心理・感情的領域（楽しさや自信等）、認知的領域（知識・理解）ならびに社会的領域（価値観、社会的スキル等）の4つ領域を包含したものであり、このことを伝えるための日本語表記を定めることは現時点では困難であった。後半の“Literacy”は、「リテラシー」という言葉がすでに日本語としての市民権を得てきていることから「素養」などの日本語に無理に翻訳する必要性はなく、むしろ、情報の運用能力までも含めたより幅広い意味を持っていると解釈すれば、そのまま「リテラシー」と表記することに大きな違和感はない。一方で、前半の“Physical”をそのまま「フィジカル」、「身体」あるいは「身体的」と表記して「フィジカルリテラシー」、「身体リテラシー」あるいは「身体的リテラシー」としてよいのか、むしろ体力や身体的領域のみに偏ったイメージを連想させないためには「運動リテラシー」、「スポーツリテラシーまたはスポーツリテラシー」、「アクティブチャイルドリテラシー（子ども）またはアクティブライフリテラシー（大人）」などとして

はどうかなど、多くの名称が提案されそれぞれの長所短所が議論された。例えば、“スポーツ”が単なる競技やスポーツの種目だけを意味するものではなく、より広い意味を持った言葉であることに対する国民の理解が今後深まれば、日本スポーツ協会が開発した質問紙は“スポーツリテラシー”を評価する尺度として受け入れられていくのではないかとするような議論がなされた。しかし、第3期スポーツ記基本計画やJSPO中期計画2023-2027年の重点項目に、暫定的ではあるが“フィジカルリテラシー”が記述されていることから、当面の間は“フィジカルリテラシー”を用いることとし、明確な名称の最終的な決定は行わず、この課題は引き続き議論していくこととした。

本研究によって開発された身体リテラシー(Physical Literacy) 評価尺度・質問紙の試案をベースに今後さらに改良と検証が行われ、日本においても身体リテラシー (Physical Literacy) の理解と普及が進み、様々な対象や場面でこれらが活用されていくことが期待される。

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和 5 年度プロジェクト会議 # 1 議事録

日時：5/2(火) 16:00~18:00

会場：各所属先（Zoomによるオンライン会議）

議題：

1. 令和 4 年度研究報告書の発行について〈資料 1〉

資料 1 に基づき、班員各位より担当の執筆内容を報告した。

〈第 1 章：日本版 Physical Literacy の定義と評価〉

1) 各国における Physical Literacy の評価尺度

- ・国内における Physical Literacy の動向
- ・カナダとオーストラリアにおける質問紙の概要

2) 我が国における学校教育と Physical Literacy

- ・学校教育における Physical Literacy に関連する文献
- ・体育という教科をめぐるディスコースの産出過程（図 1）
- ・多様なカリキュラムの実態と関係論（図 2）
- ・Physical Literacy が学校教育の目標達成にどのように貢献できるか

〈第 2 章：我が国における Physical Literacy に関する実態調査〉

1) オンライン調査（2021 年度実施）追加分析報告

- ・因子分析の結果
- ・属性別の Physical Literacy（職種、スポーツ歴、身体活動有無等）

2) 若年層（高校生）を対象とする実態調査

- ・資料 3 に記載の調査結果

(1) 基本情報

(2) 身体活動の実態

(3) PL 4 L に関する調査結果

(4) 各領域における調査結果

〈第 3 章：子どもを対象とする Physical Literacy 評価法の検討〉

1) 小中学生を対象とする質問紙案の作成

- ・議題 2-1 で報告する

〈第 4 章：今後の課題〉

1) 我が国のスポーツ政策と Physical Literacy ～評価と限界、今後のあるべき姿～

(1) 地域スポーツからみた課題

- ・青少年スポーツの拠点としてのスポーツ少年団の動向
- ・指導者養成におけるカリキュラム構造
- ・近年の学校部活動地域移行をめぐる政策的動向
- ・アントラージュ含む全ての関係者のための Physical Literacy（プレーヤーズセンタードの理念）

(2) 学校体育からみた課題

- ・1-2 章の内容をふまえたまとめ

2. 小中学生対象実態調査の実施について〈資料 2〉

1) 質問紙の作成

小中学生を対象とした実態調査の質問項目について、資料 2-2 を基に鈴木班員より更新内容に関して報告した。協議した内容は以下の通り。

〈Social（社会領域）〉

- ・6) Relationships/人間関係（運動やスポーツへの誘導）
 - ・日本語の説明（ ）に関して、より人間関係をイメージしやすい表現にしたい。
- 「運動やスポーツへの誘導」を「仲間づくり」とする。

〈Cognitive（認知領域）〉

- ・7) perceptual awareness/知覚的認識（運動・スポーツにおける感覚・気づき）

質問文：運動やスポーツの場面で、危険なことに気づくことができる。

原文：Some children think they can ride and notice what could be in their way.

- ・安全か危険かに関係なく、自分の行動について説明ができることでは。
- ・前後の設問の流れから推察して、自分の行動に対する実践的反省の意味合いが強いのではないか。9) の自己観察能力と重複しない表現にできればよい。
- ・身体的感覚か、状況把握なのか。
- ・周囲の状況も把握した上で、自分の行動を理解するということでは。
- ・「think」と「think and notice」で解釈が異

なるのでは。

- 9) 自己観察能力と重複しない設問とするか、7)と9)を一つの設問にするか。

→質問文:「危険なこと」ではなく「自分が上手くできているか、あるいは何が課題になっているのか」(仮)とする。会議後、岡出班員より有識者へ確認いただいた情報をふまえ、再度検討する。

→7) perceptual awareness/知覚的認識(運動・スポーツにおける感覚・気づき)

Some children think they can ride and notice what could be in their way.

「運動・スポーツの場面で自分ができると感じ、自分の方法で何ができるか直感的に気づくことができる」(岡出班員からのご提案)

主語がSome children、動詞がthinkとnotice(どちらも直感的に感じる、気づく様)

これを小中学生向けに表現して、

「運動・スポーツの場面で、自分ができそうだと感じ、自分のやり方でどのように取り組めばよいのか自然と思いつくことができる」

〈属性〉

- MVPA60分を達成した日数

- 質問文だけでもMVPAの要素が伝わる表現にしてはどうか。

→質問文と注釈の「身体活動」について、「中高強度の身体活動」とする。

- 注釈箇所について、学校の授業とすると体育以外の教科も含まれるのでは。
- 場面を制限せず、あらゆる場面での活動をイメージできればよいのでは。

※日常生活における活動も含むことから、0-1)では運動・スポーツではなく、身体活動量と表現する。

2) 予備調査実施計画の検討

- 予備調査1: 50名×男女×2学年
次回会議で質問紙の内容確定→1学期に調査実施→フィードバック
- 予備調査2: 500名×男女×2学年
予備調査1のフィードバックを得て質問紙改善→2学期に調査実施

- 岐阜市内の小中学校を調査対象とする(春日班員に選定していただく)

3) 教員向けマニュアルの作成

- 予備調査1: 調査方法に関してごく簡易的にまとめたマニュアルを配布する
- 予備調査2: 予備調査1のフィードバックを反映させたマニュアルを配布する

3. 高校生対象オンライン調査の実施について〈資料3〉

資料3に基づき、高校生対象オンラインに関する調査結果を用いた今後の分析作業に関して青野班員より報告した。

- 令和4年度研究報告書において報告された分析作業を同様に進行(因子分析、身体活動量や属性による影響)。
- MVPA60分を達成した日数について、先行研究に基づき5日以上/週と5日未満/週で比較する。
- 生まれ月について、先行研究に基づき3ヶ月毎に分類して比較することで、PLに関する相対年齢効果が見られるものか検討する。

4. 中日韓共同研究の実実施計画について

中日韓共同研究の実実施計画について、鄧班員より報告した。なお、本研究プロジェクトの一環として本調査を実施するか否かについては、引き続き検討する。

〈概要〉

- 測定対象者: 中学生・高校生(男女合計500名)
- 測定方法: 科学健身素養質問紙(陶班員による日本語訳)

※8項目32個の質問、回答目安20分~30分

- 測定期間: 令和5年9月~10月の実施希望
- 対面にて協議: 中国側が11月に訪日予定

〈スケジュール予定(希望)〉

- 5月: 科学健身素養質問紙の日本語翻訳版を班員へ共有
- 6月~8月: 予備調査1と同様に実施
- 9月: 本調査
- 10月: データ分析
- 11月: 対面にて協議

- ・12月：報告書の執筆

5. その他

1) その他

- JSC情報・国際部 情報戦略事業（資料4-1～4-4）

<https://www.jpnsport.go.jp/corp/Tabid/157/ItemID/1047/Default.aspx>

- ・「子どものPhysical Literacy獲得に関する家庭調査」を実施し、Physical Literacyについて「生涯にわたるスポーツ参画を通じ、心身ともに健康で幸福な社会生活を営む上で持つべき基礎的素養」と定義している。
- ・本調査では、世界的な尺度を用いたものではなく、家庭環境に着目した質問項目を用いている（子どもの発達・スキル獲得に関する質問、親の主観的影響に関する質問、家庭環境（親の客観的影響）、地域・社会環境（親・家庭以外の影響））。

- International Physical Literacy Conference 2023 New York

<https://sportforlife.ca/iplc/>

- ・カンファレンス開催後に情報が公開される可能性がある

→Webサイト等を確認し、情報収集を行う。

- 世界の潮流に合わせて、日本の学習指導要領も資質・能力ベースの内容となってきた。学校体育のための学習指導要領があるように、アスリートのためのカリキュラムスタンダードのようなイメージが想像できた。平成25年度に日本体育協会（現：日本スポーツ協会）とモデルコアカリキュラムを作成した際に、グッドプレーヤーの資質について協議を重ねた経験があり、本研究プロジェクトにおいても重要な要素となるのではと考える。

- 令和4年度の研究報告書へPLとグッドプレーヤーの関連性について追記する。

2) 今後の課題

- ・令和4年度研究報告書の発行

- ・日本版PLの定義に関する検討～日本語表記（身体リテラシー⇔フィジカルリテラシー）

- ・学校教育現場へのPL普及・啓発～予備調査1・2実施計画の検討

- ・令和6年度事業計画～第1回スポーツ医・科学委員会にて提案する（内藤班長と事務局で検討する：必要に応じて班員各位を交えメール等で協議する）

配付資料：

1. 研究報告書-第2報-台割案
2. 小中学生対象質問紙案
3. 高校生対象オンライン調査
4. JSC情報・国際部 情報戦略事業資料

参考1. 第9回会議 議事録

参考2. 令和5年度事務局機構図

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和5年度プロジェクト会議#2 議事録

日時：6/14(水) 18:00～20:00

会場：JSPO12F大会議室＋オンライン

議題：

1. 令和4年度研究報告書の発行について〈資料1〉

資料1に基づき、令和4年度に作成した研究報告書について、執筆者各位より報告がなされた。

- 1) 令和4年度研究報告書-第2報-のポイント

目次・構成（内藤班長）

- ・地域スポーツとPhysical Literacy に関する内容は第4章「今後の課題」として構成する予定であったが、第1章を「日本版Physical Literacyの評価尺度開発に関する基礎的検討」とし、諸外国における子どもを対象としたPhysical Literacy評価尺度、国内においては学校教育とPhysical Literacyおよび地域スポーツとPhysical Literacyに関して検討する構成とした。

- ・「はじめに」は、3年間の計画のなかで2年次はどのような視点で研究を行ったのかがわかるよう執筆し、タイトルを「概要」へ修正した。

1-1章（鈴木班員）

- Physical Literacyの定義については、Margaret Whitehead氏が中心となって示した定義と、オーストラリアのMacquarie大学Dean Dudleyの研究グループが示した定義の2つを起源としており、Margaret Whitehead氏が示した定義を引用して評価尺度を作成したCanadian Assessment of Physical Literacy (CAPL)の最新版であるCAPL-2と、Dean Dudley氏の研究グループが示した定義を採用して開発したPhysical Literacy in Children Questionnaire (PL-C Quest)のテスト実施マニュアルを紹介した。
- PL-C Questは、開発の経緯や得点化の方法についても紹介している。

1-2章 (岡出班員)

- 学校教育におけるPhysical Literacyの位置付けや実際に学校教育へ導入した場合に及ぼす影響について、学校教育にかかる法令等や行政文書との関連性をふまえ、検討した。
- p21図1の通り教科をめぐるディスコースの産出過程を紹介し、p22図2に基づき、Physical Literacyをめぐるディスコースについても、誰が、誰に対して、何を意図して生産し、発信しているのかについて着目する必要があることを解説した。
- 学校教育におけるPhysical Literacyは、我が国では体育の授業のみでなく特別活動や運動部活動等を介して意図せずとも結果的に育成され続けている。一方、学校教育の制度的枠組みに即して展開されることになるため、学校教育の目標達成への貢献について検討することが求められ、この思考の過程はPhysical Literacyという視点から学校教育の目標やその実態に対する批判的検討を求めるものとなると同時に、同様の視線はスポーツ界にも向けられることになり、学校教育やスポーツ界で生み出されているディスコースの批判的検討も可能になると考えられると総括した。

〈特記事項・意見交換〉

- ディスコースはどのように捉えればよいか。
- ディスコース≠原説。個人が生み出しているだけのものではなく、制度として確定されるものであるため、学会等で発表したとしても、行政の制度として認められるかどうかは定かではなく、同じ言葉を用いてもある特定の制度間で意味合いが異なると

いう状況が発生する。

1-3章 (松尾班員)

- スポーツ少年団の動向、指導者制度におけるカリキュラム構造、近年の部活動の地域移行をめぐる政策的動向、プレーヤーズセンタードの理念に着目し、Physical Literacyをめぐる課題について検討した。
- スポーツ少年団に関しては、理念は掲げられているが、求められる資質・能力が提示されていないことを課題として言及し、それらの資質・能力を「Physical Literacy」という観点を含めて構想し、具体化することによってすべての実践者がより十全にスポーツの喜びを享受できる可能性について解説した。
- 指導者養成に関しては、モデル・コア・カリキュラムにおいてグッドコーチ像やグッドプレーヤー像が示され(p44~45表4-1, 4-2)、実践者に求められる資質・能力が項目化されている点は評価されるが、項目として身体的、認知的側面に関する項目化がなされていないこと。また、モデル・コア・カリキュラムに基づいて構成されたカリキュラム構造においては、指導者が備えるべき資質・能力は示されているが、実施者が備えるべき資質・能力(その運用能力を含む)については必ずしも明確ではないことを課題として解説した。
- 学校運動部活動の地域移行をめぐる動向については、国の政策として進められているものの地域移行ありきの議論として進められており、理念的な議論が十分に展開されてきていない傾向がみられ、もとより部活動は学校教育における正課外活動に位置付けられてきたことや、生徒の自主的・自発的参加に基づく活動であることから、部活動によって獲得されるべき生徒の資質・能力は明確化されてこなかったことを課題として解説した。
- 地域スポーツにおいて、実施者(青少年)が獲得すべき資質・能力を明確化する必要があること。さらに、実施者が獲得すべき資質・能力については、スポーツ実施者のみならず指導者、保護者、トレーナーをはじめ、アントラージュ自身の資質・能力の高まりが期待されるなかにあり、今後スポーツに関わるすべての人が獲得すべきスポーツに関するリテラシー(Physical Literacy)をいかに構築する

かが問われていると総括した。

2-1 章（鈴木班員）

- 第1報において報告したPhysical Literacy for Life (PL 4 L) を用いて実施した国内のオンライン調査について、因子分析の結果を報告した。
- 教育関係者やスポーツ経験者はPhysical Literacyが高かったこと (p58表2,3), 身体活動やスポーツ系習い事の有無がPhysical Literacyに関連すること (p59表4,5), 子どもの生活習慣に大人のPhysical Literacyが関連していること (p60表7,8) 等を解説した。
- 4 領域の相関関係としては、身体領域だけが他の領域と比べて類似性が低い傾向にあり、認知領域と社会領域は類似性が高い傾向であったことを報告した。

2-2 章（青野班員）

- 高校生を対象にした調査では身体活動に関する項目 (p69表 2-3) を追加し、表 3-1～表 3-3 に結果を示した。また、表 4-1～図 9 については第1報と同様の集計を実施し、その結果を報告した。
- 男女別、学年別に分析を行った結果、男女ともに4 領域において学年によるレベル評価の分布に差は見られなかったことを報告するとともに、教育課程においては学年を重ねるごとにPhysical Literacyが高まるよう意図した取り組みが必要であることを述べた。

3 章（鈴木班員）

- 子どもを対象とする日本版Physical Literacy評価法の試案については、CAPLやPL-C Questの開発と同様に、有識者を集い、本研究プロジェクトにおいて協議を重ね作成したものであることを説明した。
- 試案の作成については、p79表1やp83表2の通り、既存の諸外国の評価尺度の領域と要素について整理し比較検討したうえで、日本の子どもたちが理解できる内容かを議論し、要素の意図を踏まえながら日本版の質問項目を検討したこと。また、学習指導要領や日本のスポーツ文化を意識して質問項目の修正・追加を行ったことを報告した。

〈特記事項〉

- 「～的領域」の表記に統一する。

2) 令和5年度研究報告書-第3報-の作成に向けて

- 高校生を対象としたオンライン調査について、生まれ月や身体活動量、スポーツクラブへの所属有無とPL 4 Lの評価をクロス集計するなどの追加分析を検討する。
- Physical Literacy評価法の質問紙について、小中学生以外の年齢層に対する評価法を検討する必要がある。高校生に対しては子ども版と大人版のどちらを適用すべきか、子ども版と大人版の共通性は意識しなくて良いのか等、質問項目、文言、対象年齢、得点化の方法など、定量・定性の両面から検討する。

〈特記事項・意見交換〉

- 日本版Physical Literacy評価法の得点化について検討する必要がある。CAPLでは、子どもの総合的なPhysical Literacyにどの要素がより重要であるかを有識者が議論し、得点配分を決定していた。

2. 小中学生対象実態調査の実施について〈資料2〉

資料2-1, 小中学生を対象とする実態調査の実施計画案について青野班員より報告がなされ、その内容について協議した。また、資料2-2の質問項目の内容について、承認された。

1) 予備調査実施計画の検討

(1) 調査対象について〈資料2-1〉

- 小学校高学年生（小学5年生）、中学生（中学2年生）を対象として調査を実施する。
- 調査1（@50名×男女×2学年＝200名）を実施し、その結果をもとに質問項目のブラッシュアップや教員向けマニュアルの作成を行い、調査2（@500名×男女×2学年＝2,000名）を実施する。

(2) 調査方法について

- 下記3点の調査方法を採用する。

①質問紙を用いたPL評価

※オンライン（Google Workspace）での回答も検討する

②体力テスト、生活・運動習慣の検証

③教員対象アンケート+インタビュー調査

(3) 調査対象の選定(協力要請)について

- ・調査1:岐阜市内小中学校
- ・調査2:未定

(4) 実施時期について

- ・調査1:2023年7月(1学期中)
- ・調査2:2023年10月~12月(2学期中)

(5) 教員マニュアルの内容について

- ・調査法, 質問項目に関する説明を記載する。
- ・Physical Literacyに関する解説を記載する。調査実施時に教員から児童に対してPLについて説明することで, PLに関する啓発活動にもつながると考える。
- ・調査1に向けて簡易マニュアルを作成し, 調査2に向けて記載内容を検討する。

〈特記事項・意見交換〉

- ・ACP実践に係る効果検証とあわせて, 岐阜大学教育学部附属小学校の生徒を対象にPLの心理領域の7項目について調査を実施している(議題2-2参照)。調査の結果, 小学校低学年の生徒への調査については教員の入念な説明が必要であり, 回答に30分程度時間を要する結果となった。全領域の項目を調査することを想定すると, 小学校中高学年の生徒に対しても難易度は高いのではないかと感じた。
- 本調査へ向けて, 小学校高学年(小学校4~6年生)への調査の反応を注視し, 現場からのフィードバックを参照する。
- ・オンラインでの回答では, 欠損値が見られるのではない。また, オンラインでの回答可否は学校によって異なるため, 学校側とのコミュニケーションをとる必要がある。
- Google Workspaceでは未回答の項目があると回答を提出できない仕様に設定することができるため, 欠損値の発生を防ぐことができる。
- ・質問紙とオンラインで, 回答の傾向に差が生じることはあるのか。
- 集合調査か, 自宅等での個別調査かでは, 教員の説明が得られないという点から差が生じる可能性はある。集合調査を実施できるのであれば, 質問紙かオンラインかで差が生じる可能性は低いと考える。オンラインでの回答の懸念点は, 学校側の体制が整備されているかという点である。

- ・オンラインでの回答を検討する場合は, セキリュティ関連の制約がないか事前に確認しておいたほうが良い。

- ・学校の希望に応じて質問紙での回答とオンラインでの回答を柔軟に選択できるような体制を検討する。回答形式に関わらず教員の説明を得られるよう, 集合調査とする。

→オンライン調査は通信障害の影響を受ける可能性があるため, 同校でのタブレットの使用時間をずらす必要があるかもしれない。

→調査1では質問紙に限定した回答とする。また, どの項目の回答の難易度が高かったのか等, 教員向けアンケート調査の実施を検討する。

- ・調査1の様子(子どもたちがどこで躓いているのか, 教員がどのように指導しているのか等)を撮影し, 映像分析することは可能か。

→学校と調整する。

2) ACP実践に係る効果検証

アクティブ チャイルド プログラム(JSPO-ACP)普及・啓発研究プロジェクトにおいて, ライフスポーツ財団助成事業として体育授業におけるACP実践に係る効果検証を実施することとなった。対象校3校のうち, 岐阜大学教育学部附属小中学校では1~7年生×3学年を対象とし, 体力テストや身体活動量等の調査と併せて, フィジカルリテラシー抜粋調査を実施している。

3) 教員向けマニュアル・教員対象アンケートについて

調査1に向けて簡易マニュアルを作成し, 調査2に向けて記載内容を検討する。

- ・順天堂大学の大学院生が学校現場における新体力テストの活用度に関する調査を実施する予定である。その調査のなかで, PLの認知度や活用度(学校現場で活用できそうか), 新体力テストによる評価→PLによる評価となった場合の率直な意見等について, 体育科教育の専門家や学校現場の指導主事を対象としたインタビュー調査ができないか検討している。

- ・マニュアルの作成や日本版Physical Literacyの日本語表記の検討に際し, 本研究プロジェクト研

究班員のみならず、現場の教員への協力を仰ぐ必要があるのではないかと考える。

→必要に応じて現場の教員への委嘱を検討する。

- ・回答時間経過の目安、項目の解説（読み上げ原稿）、項目を回答させる際に困ったこと（記入欄）で構成される用紙を準備し、実際に回答にかかった時間や回答させる際に困ったことを記入してもらうことで、本調査に使用するマニュアルの内容を検討してはどうかと考える。

3. 日本版Physical Literacyの定義に関する検討

日本版Physical Literacyの定義については、1、2年次では敢えて議論に幅を持たせていたが、3年次では下記3点について方向性を固めていく必要がある。

1) 構成領域・要素

4領域の英語表記について検討する（例えば心理領域はPsychological, Affective, Emotional等、国によって表記が異なる）。

2) 日本語表記

身体リテラシー、フィジカルリテラシー、「日本版」の追記等、引き続き検討する。

3) 国際比較研究への発展

日本語表記の議論と併せて検討する。

4. その他

1) 中日韓共同研究の実施計画について〈資料3〉

中日韓共同研究の実施計画について、鄧班員より報告がなされた。

- ・張氏との打ち合わせが実現できておらず、前回会議からの更新情報はない。
- ・資料3について、班員からの修正やコメントの内容を反映させ、日本の子どもが回答しやすいよう項目のブラッシュアップや抜粋を行う。

〈特記事項・意見交換〉

- ・保護者が回答する項目や収入を問う項目含まれており、現在開発している日本版の質問紙とは異なる項目があるため、本年度実施予定の調査1、2とは別のフィールドでの調査を検討できればと考える。

2) 令和6年度研究プロジェクトの提案〈資料4〉

先日開催された令和5年度第1回スポーツ医・科学委員会において、資料4に基づき提案した令和6年度新規研究プロジェクトの内容について、内藤班長より報告がなされた。

採択可否については、委員長と事務局で検討する。

3) 今後の課題

- ・小中学生を対象とした実態調査1、2の実施へ向けた準備（調査時期の確定、教員向け簡易マニュアルの作成、授業分析（撮影）の可否）
- ・高校生を対象としたオンライン調査の追加分析

4) その他

- ・Physical Literacy評価尺度を作成した後の課題として、学校教育や地域スポーツにおいて、資質・能力を身につけるために何をすべきかを検討していく必要があると感じた。

配付資料：

1. 令和4年度研究報告書-第2報-
2. 小中学生対象実態調査実施計画案
3. 中日韓共同研究 質問紙案
4. 令和6年度新規研究プロジェクトの提案

参考1. 令和5年度第1回会議 議事録

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和5年度プロジェクト会議#3 議事録

日時：8/25(金) 16:00～18:00

会場：オンライン

議題：

1. 予備調査1の実施計画について

資料1～資料3に基づき、予備調査1の実施計画について協議した。

1) 調査方法の確認〈資料1〉

資料1に記載の通り調査実施を計画している。本巢市の教育長より、予備調査1の実施に快諾いただいており、9月に調査を実施すべく、準備を執り進めているところである。

- ・予備調査1実施時の子どもの反応（この質問が回

答しづらい等)を拾えると良いと考える。

→調査実施時には立ち会わず、校長先生に事前説明を行い学校側で実施してもらう予定である。子どもの反応は担当教員へ確認する。

- ・予備調査1は9月中旬に調査結果を回収する。
- ・予備調査1の結果に基づき、10月の約1ヶ月間をかけて調査用紙やマニュアルを修正する。
- ・予備調査2については、12月上旬頃までに回収し、年内に基本的な集計作業を完了させる。そして、1～2月に分析作業を行うこととしたい。
- ・予備調査1については体力テストのデータを提供してもらえるとされるため、学校の許可がとれれば記名制で調査を行う。

→研究倫理申請が必要ではないか。

→研究目的ではない(調査を実施するに当たって教育現場の協力を得る)ため倫理申請の必要はないと考える。

→個人が特定できないよう配慮すれば問題ないと考える。予備調査1についての倫理申請は行わないこととする。一方、予備調査2については、JSPOの倫理審査を受けることとする。迅速審査として対応いただけることが想定される。

2) 調査用紙の検討(資料2)

資料2に基づき、予備調査1に使用する質問項目について検討した。

前回会議後からの追記・修正箇所について、青野班員より報告した。

- 見出し「日常活動」→「生活・運動習慣」
- 設問0-1「MVPA60分を達成した日数/直近7日間(身体活動)」→「身体活動について(MVPA60分を達成した日数/直近7日間)」へ修正した。

※下線部は実際の質問紙には記載しない。

- 設問0-2)「運動・スポーツの実施頻度(身体活動)」→「運動・スポーツの実施頻度について」
- 設問0-3)「スクリーンタイム(座位行動)」→「スクリーンタイム(座位行動)について」
- ・設問4-9記載「できばえ」について、子どもは正確に理解できるものか。

→学習指導要領にはその通りの記載があるが、現場の教員が授業のなかでそう表現しているかは不明

である。

→現場の教員から意見を募る。

→「出来具合」ではどうかと考える。質問紙に追記する、あるいは質問された際にそう答えるようマニュアルに記載する。

春日班員に予備調査1の質問紙案を作成いただいた(会議中画面共有)。

資料2に基づき4領域の質問項目で構成し、A3両面1枚に収まるようA4×4枚で作成した。

- ・生活・運動習慣に関する設問3つを追加する必要がある。

→質問紙の冒頭に追加する。

- ・以下の項目を追加してはどうか。

「この調査に回答するのが難しかったか?(選択式)、どこが難しかったか(自由記述)」

→質問紙の最後に追加する。

- ・「あなたは、以下の活動について、どのくらい得意ですか?」の漢字にルビを振る。

3) 教員向けマニュアル、アンケートの検討(資料3)

資料3に基づき、予備調査1における教員向けマニュアル案について青野班員より報告した。「調査方法」の記載について、協議のうえ追記した。

- ・「用語の解説」におけるPLの解説について、JSCの資料(追加資料1)を参照し、「わかる、できる、使いこなせる(運用能力)」と記載しても良いのではないかと考える。

- ・4領域により構成されることを補足する。

- ・子どもたちから質問があった際の教員の対応を追記する。

- ・予備調査1について、教員向けアンケートは行わず、調査実施後の教員を対象とするインタビューを行うことでこれにかえる(春日班員と青野班員がインタビューを実施する)。

2. 今年度下半期の事業計画について

1) 予備調査2の実施

- ・班員の人脈を用いて協力いただける県や学校を募ることとする。

- ・どの授業の時間帯に、この調査を実施するのか。調査の介入により授業の遅れが生じることで、学

校側の協力が難しくなる。

- 予備調査1は、学校側に一任している。
- タブレットを活用して、自宅で回答することも想定できれば、学校へ依頼するハードルも下がるのではないかと考える。
- 健康教育の一環として、出張授業等のなかで調査できると理想的ではないか。
- ・誕生日は体力テストデータから流用することとする。

2) 高校生対象オンライン調査の追加分析

- ・成人を対象とする追加分析と比較する。
- ・生まれ月、身体活動量やスポーツクラブへの所属有無とPL4Lをクロス集計する。

3) 日本版Physical Literacyの定義に関する検討

- ・領域は事実上確定したのではないかと考える。予備調査に基づき項目を選定する。
- ・日本語、英語の表記を検討する必要がある。
- ・遠山氏（順天堂大学大学院）が、有識者（体育科教育の専門家や学校現場の指導主事等）を調査対象としたPLに関する質的調査を実施する予定である。日本版PLの定義についても調査対象者の意見を収集したい。

3. その他

1) 中日韓共同研究について

- ・中国側の担当者が11月2週目あたりに訪日予定であり、本研究プロジェクト班員との面会を希望している。日程が確定次第、改めて相談する。
- ・予備調査1において調査協力を依頼したかったが、中国の調査では子どもだけでなく保護者も調査対象に含まれることから、調査実施のハードルは高いと感じている。
- 親子を対象とする調査につき、登録モニターを用いたオンライン調査による対応が現実的ではないかと考える。
- 本研究プロジェクトで実施したオンライン調査と同じモニターを使用し、小学生の子どもを持つ保護者を対象に調査する方法も検討できる。
- 調査方法や予算等も含め、中国側と相談する。

2) 関連情報の紹介

- ・遠山氏は、有識者を対象とした質的調査と並行して、諸外国の文献レビューを実施している。同氏は大学院生でありながら小学校PTA会長を務めており、小学校教員800名を対象に調査を実施し論文を発表しており、学校関係者にネットワークを持っている。予備調査2の対象の収集に協力いただける可能性がある。
- ・前回会議にオブザーバーとして出席した松永氏（順天堂大学大学院）が、体育学会において口頭発表を行う。また、松永氏は報告書（第2報）における成人を対象とした調査の追加分析を担当しており、報告書（第3報）における高校生を対象とした調査の追加分析も担当してもらう予定である。
- ・体育科教育9月号にて「体育・スポーツを通した価値の実現」の特集として、岡出班員、青野班員、森丘班員が執筆した原稿が掲載された（資料4参照）。
- JSPO中期計画や既存事業（スポーツ少年団、公認スポーツ指導者制度）とフィジカルリテラシーの関連性から日本版PL評価尺度の開発の必要性和方向を示した（p34「日本版フィジカルリテラシーに注目するのはなぜか」）。
- スポーツの歴史や日本陸上競技連盟・競技者育成指針とフィジカルリテラシー（協議者育成指針では「身体リテラシー」と定義されている）について解説し、フィジカルリテラシーを育成する循環の最適化を図ることが、日本陸上競技連盟をはじめ、スポーツ界の目標である可能性を示した（p38「日本における競技者の育成とフィジカルリテラシー」）。
- ・フィジカルリテラシーの展望として、子どものスポーツ現場や学校現場だけでなく、広い視点で生涯スポーツを見据えていくことの重要性を再認識した。
- ・フィジカルリテラシーは生涯において全ての人の資質・能力になっていくと思われる。今後、スポーツにおいては量的拡大ではなく、質的拡大が主流となる。スポーツをただ継続して行うのではなく、自分事として捉え、自分の体力・能力や嗜好にあわせてコントロールしていくことがフィジカルリテラシーであるとするならば、その人が幸福（well-being）であるかどうかを実感できる尺度が必要となると考えているが、第3期スポーツ基本計画では未だ質

的な要素が弱いと感じている。生涯において全ての人の資質・能力となるフィジカルリテラシーと、幸福（well-being）を実感できるゴール地点が連携してはじめて、今後のスポーツ文化の質の高さに繋がるのではないかと考える。本プロジェクトで協議していく際にもそれらを連携させる視点を大切にしたい。

- ・全日本柔道連盟がPhysical Literacy（本指針では「身体リテラシー」と表記）の涵養をベースとした長期育成指針を制作した（追加資料2参照）。
→長期育成指針を策定している中央競技団体はあるのか。
- 日本陸上競技連盟の指針作成は早い方だが、日本サッカー協会、日本バスケットボール協会においても既に同様のものを作成していたと記憶している。最近では、日本水泳連盟が指針の作成を検討している。

3) 今後の課題

- ・予備調査1：質問紙作成、マニュアル作成、インタビュー項目検討、調査実施
- ・高校生追加分析法の検討、分析実施
- ・予備調査2：JSPO倫理審査、質問紙・マニュアルの改訂、調査対象校の募集、調査の実施（11～12月）

配付資料：

1. 小中学生対象実態調査実施計画案
2. 日本版PL質問紙案
3. 予備調査実施マニュアル案
4. 体育科教育_202309特集

参考1. 令和5年度第2回会議 議事録

追加1. JSC報告

追加2. 全日本柔道連盟長期育成指針

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和5年度プロジェクト会議#4 議事録

日時：12/19(火) 18:00～20:15

会場：オンライン

議題：

1. 予備調査1の実施報告について

1) 調査実施概要〈資料1〉

資料1に基づき、予備調査1の実施概要について青野班員、春日班員より報告した。

(1) 対象：

- ① 岐阜県本巣市内公立小学校8校に在籍する5年生282名
- ② 岐阜県本巣市内公立中学校4校に在籍する2年生282名

(2) 調査内容：資料1参照

(3) 調査実施期間：

- ① アンケート調査：2023/10/10(火)～10/24(火)
- ② 教員を対象とする聞き取り調査：2023/10/31(火)

〈特記事項・その他意見交換〉

- ・当初調査実施は9月を予定していたが、学校との調整の結果10月に実施することとなった。
- ・前回会議で協議した内容をふまえ、内藤班長、春日班員と文言等を再検討し、資料1の質問紙を用いて調査を実施した。
- ・調査対象の子どもはモデル校の生徒である等、比較的活動的な子どもか。
- ・岐阜県の中では体力テストの結果は上位であるが、調査対象とした小学校への介入は特に実施しておらず、平均的な子どもと考えて良い。体力テストの結果が上位である要因として、長期的に本巣市の幼児教育に介入しており、今回調査対象となった小学5年生も幼児期にその介入を受けていることが想定されるが、幼児期の介入の影響が顕著に現れるのは小学1～2年生までであるため特記事項ではない。

2) 教員を対象とする聞き取り調査〈資料2〉

資料2に基づき、教員を対象に実施した聞き取り調査の結果について青野班員より報告した。

聞き取り調査で得られた意見に基づき、予備調査2へ向けて質問紙の内容を検討した。

〈教員からのコメント→回答・対応〉

※小学校の教員からのコメントには【小】、中学校の教員からのコメントには【中】と示す。

●あなたのこと

・# 2. 習い事も含まれるのか？明記して欲しい【小】

→水泳やダンスなどスポーツの習い事であれば含む

・# 3. 「過去（一年以上前）」：今やっていることは含まれるのか？# 2と# 3の違いが分かりづらい【小】

→# 2は「今やっていること」、# 3は「今はやっていないが過去1年以上前にやっていたこと」。質問文をわかりやすく工夫する必要がある。

・# 4. MVP A60分が分かりづらい【小・中】

→回答しやすいよう、下記の修正を検討する。

① 「中・高強度の身体活動」の説明が長く分かりにくいいため、質問紙では端的に説明し、教員向けマニュアルで詳しく説明する。また、説明文を区切り、場面の説明と例示の順序を入れ替える。

※中・高強度の身体活動の説明：

ここで言う中高強度の身体活動とは、心臓がドキドキしたり息切れするようなすべての活動のことです。（質問紙はここまで）

例えば、ランニング、早歩き、縄跳び、スケートボード、自転車、ダンス、水泳、サッカー、バスケットボールなどがあります。スポーツや学校の授業、友達と遊ぶこと、学校への登下校も入ります。（教員向けマニュアルには冒頭～最後まで含む）

② 回答欄に7日間（月～日）を提示し、中高強度の身体活動を60分以上実施した曜日に「○」をつけ、「（○の合計数）日」と回答させる。また、回答しやすいよう、「最近7日間」→「先週1週間」という表現へ変更する。

・# 5. 運動・スポーツに、登下校は入るのか？【小】

→含まない

・# 5. 時々スポーツをしている場合はどう答えれば良い？【小】

→平均的に週何日しているか回答する

・# 6. 音楽を聴く時間は含まれるのか？【小】

→スクリーンタイムの調査項目につき、含まない

・# 7. 日によって時間がバラバラである【小】

→平均的な時間を回答する

●身体領域

・# 1. # 3. トータルではなく、どれか一つでも突出している【小】

→どれか一つで良い。

・# 3. 「打つ」について、野球は含まれるのか？【小】

→含む。

→「フープを回す」は除く。ボール運動が苦手でもフープは得意な子どもは少なくない。

・# 8. バランスボールは含まれるのか？【小】

→含む

・# 10. ドッジボールは含まれるのか？【小】

→含まない。「ドッジボールの中で身をかわす」であれば含んでも良いが、ドッジボールは投動作も関係してくるため、あくまで鬼ごっこの場面を想定することとする。

●心理領域

・# 2. # 3. 「うまくコントロールできますか」：具体的な場面が想定できない【小】

→教員向けマニュアルに詳細説明を追記する。ゲームに負けても感情的にならないなど、体育の授業の中で想定されるシチュエーションを提示できれば良い。

・# 7. 「よく行く場所がありますか」：習い事の場所も含まれるのか？【小】

→含む（運動やスポーツの習い事であれば含む）。

・# 7. 「よく行く場所」が二つある場合は、どちらを想定すればよいのか？【小】

→どちらを想定しても良い。

●社会領域

・# 3. 「ずるいことはしませんか」：とてもそう思う、まったくそう思わない（ずるいことをする？しない？どっち？）【小】

・# 3. 「～しませんか？」：ここだけ「しませんか？」と逆説的な質問になっている【小】

→「ルールで決まっていなくても、ずるいことはしないと思いますか。」とする。

・# 5. 「尊重」という表現が分かりづらい【小】

→代替案として「審判の判定に従って」「審判の判定を受け入れて」「審判の判定を守って」などが想定される。松尾班員に一任する。

●その他

・選択肢について、「とても思う」～「まったくそう思わない」に統一させることはフィットしないのでは？【小】

→社会領域# 3 同様に、その他の質問項目について

も、必要であれば「～と思いますか。」とし、質問と回答の選択肢の整合性をとる。

- 45分間ではできなかった【小】
→円滑に回答できるよう、質問文の表現の改善、教員向けマニュアルの充実を行う。
- 回答を完了させるまでの所要時間は15分以内であった【中】
- 設問一つ一つは説明せず、生徒各自に回答させ、分かりにくい設問についてのみ生徒から教員へ質問させた。結果、ほとんど質問は出なかった。【中】

3) 評価尺度の分析結果〈資料3〉

資料3に基づき、予備調査1の分析結果について鈴木班員、松永氏（順天堂大学大学院）より報告した。

- 天井効果がある項目がみられ、特に認知領域の#2は、小学5年生+中学2年生の結果が中央値、最頻値ともに「4. とてもそう思う」を示した。
- ヒストグラムでみると、身体領域以外の3領域については高得点に偏る結果となった。
- 最も欠損の多い質問項目は身体領域の#4で、調査対象者の1%（6名/564名）であった。質問内容が理解できず回答できない可能性は低いと考えられる。
- 領域間は概ね0.6～0.8の相関となり、PL4Lと大きく変わらない結果となった。
- 因子分析の結果、7因子となった。独立した項目は削除する項目の候補になり得るが、独自性の強い重要項目とも捉えることができる。領域ごとの因子分析の結果は以下の通り。
 - ① 身体領域：2因子※、#9、#11が独立。
※2因子は「#13スピード、#1移動技能、#4スタミナ、#10敏捷性、#12反応時間、#3用具の操作」と、「#8バランス、#7リズム感、#2道具を使った移動、#6協調性、#5筋持久力」が抽出された。
 - ② 心理領域：2因子、#4が独立。
 - ③ 社会領域：2因子、#4、#9が独立。
 - ④ 認知領域：1因子。
- 質問項目の領域・内容と学習指導要領（小・中）の学年・単元・内容を対応させた表を遠山氏（順天堂大学大学院）が作成した（追加資料1参照）。

質問項目はすべて学習指導要領に対応する内容であったが、対応している学習指導要領の内容が重複している項目も見られた。今後、学習指導要領に精通している専門家へヒアリングを実施し、内容を精査していく予定である。予備調査2の実施までに対応表の完成が間に合わないが、質問紙の最終版を検討する際の参考資料とする。

〈特記事項・その他意見交換〉

- 因子分析を重ねて検討されているが、最初に抽出された因子をもとに調査設計するのであれば、その後の細分化した因子分析の結果、2因子に含まれず双方の因子に関連が深い項目については、最初に抽出された因子に効いている項目として残しても良いのではないかと考える。
- 現場の協力を得るためには小学校の1コマ（45分）で調査を終了できた方がよい。将来的な国際比較のためにも、中学生に対する調査は項目を減らすべきではないと考えるが、小学生に対する調査は、場合によっては項目を削った簡易版の質問紙を用意すべきかもしれない。
- 項目の取捨選択については現状のデータだけでは判断ができず、本巣市以外の調査結果も参考にする必要があると考える。また、遠山氏が調査した通り、項目すべてが学習指導要領に対応していたこともふまえ、予備調査2に向けてPLに関する39項目は削るべきではないと考える。調査時間短縮のためには、PLに関する39項目以外の質問項目を削ることとし、議題1-2で協議したMVPA60分の日数を問う項目（あなたのこと#4.）を思い切って削っても良いのではないかと考える。
→MVPA60分の日数を問う項目（あなたのこと#4.）を削除するかどうかは、予備調査2を実施するまでに再検討する。
- 中学校の学習指導要領の資質・能力に基づく「学びに向かう力、人間性等」に関する内容は、社会領域と認知領域に分かれる可能性が高い。小学校の学習指導要領ではそのような分かれ方はしないため、学習指導要領との対応を検討する際には注意が必要である。
- 学習指導要領の解説部分は、質問項目の内容により近いものとなっているため、解説部分との対応も確認しながら検討していけると良い。

- ・体力テストの結果（小学校1項を除く）を入手した。各学校が保護者に対してインフォームドコンセントを実施済みであり、すべての保護者から同意をもらうことができた。後日分析結果を共有する。

2. 予備調査2の事業計画について

1) 研究倫理審査〈資料4〉

資料4-1, 4-2に基づき、予備調査2にかかる研究倫理審査の進捗状況について青野班員より報告した。

資料4-1の通り研究計画書を提出している。資料4-2の通り審査員より指摘をうけ、班員と確認のうえ「申請者回答」の通り対応した。会議前に新たに指摘があった点については、赤字の通り対応することとしたい（質問紙から学校名の回答欄を外す。学年・性別の情報収集についての科学的根拠を研究計画書へ記載する）。

2) 質問紙の検討（議題1-2, 3で検討した通り）

3) 調査対象の募集

予備調査2の調査対象の募集について協議した。調査概要は以下の通りである。

- ・調査時期：倫理審査承認後～2024年2月29日（研究計画書では当初は1月31日としていたが、現状をふまえ調査時期を延長することとする）
- ・調査対象数：@500名×男女×2学年（小学5年生および中学2年生）を目指す。調査対象として、1校当たり約35名/クラス×3クラスが想定され、小学校と中学校5校ずつに協力要請することを目指す。

〈決定事項〉

- ・班員各位で分担して打診先を検討し、事務局へ報告する。班員各位により可能性を探っていただくこととし、打診先の情報を事務局が整理する。
- ・依頼文書、調査実施要項を準備する。打診時に依頼文書を提示できるよう、依頼文書の宛名は開けておく。
- ・調査対象校の種類（私立、公立、附属）は限定せず、偏りがなければ良いこととする。
- ・予備調査1のデータ利用について：まずは新たに目標数の調査対象を確保できるよう尽力し、あまり

にも調査対象の確保に苦戦するようであれば、オプトアウト方式で予備調査1のデータを予備調査2へ利用することとして研究倫理審査（迅速審査）を提出する。

〈その他特記事項・意見交換〉

- ・小中一貫校が協力校となれば、目標数の調査対象を確保しやすいと考える。
- ・地方の学校は生徒数が少ない傾向にあるため、地方の学校へ協力を依頼する場合は、想定より多い学校数への打診が必要となると考える。
- ・調査対象を学校に限らず、少年団の団員等も含んで良いのではないかと考える。

3. 研究報告書の発行計画について

1) 高校生対象オンライン調査の追加分析〈資料5〉

資料5の通り、高校生対象オンライン調査の追加分析を鈴木班員が実施した。

本年度の報告書に掲載することとし、次回会議にて分析結果を報告する。

2) 目次案〈資料6〉

資料6に基づき、本年度の報告書の目次案について青野班員より報告した。

内容に過不足があれば、事務局へ連絡する。

- ・はじめに
- ・1章：子どもを対象とする日本版 Physical Literacy評価法の検討
 - 1-1章：予備調査の実施
- ・2章：我が国におけるPhysical Literacyに関する実態調査
 - 2-1章：高校生を対象とするPL4Lを用いた実態調査
 - 2-2章：小中学生を対象とする実態調査
- ・3章：日本版Physical Literacyの定義に関する検討
- ・4章：今後の展望

4. その他

1) 中日韓共同研究について

12月20日から国家体育総局の研究者が来日し、順天堂大学、日本スポーツ協会を訪問する予定である。

日本スポーツ協会訪問時には、日本スポーツ協会が取り組むジュニア期のスポーツに関わる研究全般について概要を説明する。順天堂大学訪問時には、本研究プロジェクトのことを中心に意見交換したい。日中共同研究としての歴史は長いため、本プロジェクトに関わらず意見・情報交換をできればと考える。意見・情報交換した内容は次回会議において報告することとしたい。

2) 今後の課題

① 予備調査 2

- ・質問紙の修正
- ・協力校の募集
- ・教員向けマニュアルの作成
- ・依頼文、調査実施要項の作成

② 研究報告書の作成

③ 日本版Physical Literacyの定義に関する検討

④ 2024年度～研究計画の検討

配付資料：

1. 予備調査1～小中学生対象質問紙
2. 予備調査1～教員対象聞き取り調査
3. 予備調査1～分析結果
4. 研究倫理審査～研究計画書、チェックシート
5. 高校生対象オンライン調査～分析経過報告
6. 令和5年度研究報告書～目次案

参考1. 令和5年度第3回会議 議事録

追加1. 学習指導要領とフィジカルリテラシー対応表

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和5年度プロジェクト会議#5 議事録

日時：2/27(火) 17:30～19:30

会場：オンライン

議題：

1. 予備調査1の分析結果について

1) 分析結果の報告【資料1，追加資料1】

これまでの調査の分析方法や報告書への掲載実績・予定をふまえ、予備調査1の分析結果について資料1，追加資料1，2に基づき鈴木班員より報告

した。

〈分析方法・報告書掲載内容〉【追加資料1 参照】

○成人（18～64歳）PL 4 L

- ・調査基礎集計→第1報
- ・因子分析→第2報：探索的因子分析
- ・PLとの関連分析→第2報：スポーツ歴，職業，PA・SB，子どもとの関係性，子どもの習い事

○高校生（15～18歳）PL 4 L

- ・調査基礎集計→第2報
- ・因子分析→第3報（予定）：1）探索的因子分析
- ・PLとの関連分析→第3報（予定）：2）-1 相關分析，2）-2 群間比較

☆高校生+成人PL 4 L

- ・年代比較分析→第3報（予定）：3）二元配置分散分析（年代×性別）（年代×PA）

○子ども（小5・中2）子ども版尺度（=予備調査1（岐阜））

- ・尺度案の提示→第2報
- ・調査基礎集計→第3報（予定）：4）1-記述統計，2-度数分布，3-得点分布，4-領域間相関
- ・因子分析→第3報（予定）：5）探索的因子分析
- ・PLとの関連分析→第3報（予定）：6）相關分析

○子ども（小5・中2）子ども版尺度

- ・質的調査（学習指導要領との関連）→第3報（予定）

○子ども（小5・中2）子ども版尺度（=予備調査2（進行中））

- ・調査基礎集計→第3報（予定） ※データ入力中，分析未着手

〈分析結果（高校生追加分析・予備調査1）〉【資料1（会議用）参照】

1) 高校生 探索的因子分析

4 因子固定で分析した結果，成人同様4 領域にわかれた。

2) - 1 高校生 相関分析

4 領域の得点と身体活動日数, MVPA60分以上日数, PA平日平均(分), PA休日平均(分)は全て相関が認められた。

2) - 2 高校生 群間比較

運動部活動・スポーツクラブへの所属の有無, PAの有無, MVPA60の有無はPL総合得点との関連が見られた(有意差があった)が, 学年の違いは見られなかった。

3) 二元配置分散分析

年代(高校生/18-29歳/30-49歳/50-65歳)×性別(男性, 女性)の分析の結果, 男女ともに年代が上がるにつれて全領域の得点は下がるが, 女性のみ50-65歳の得点が向上した。

また, 年代×PA有無(実施日数週3日以上・未満)の分析の結果, 全領域, 全年代において3日以上得点が高かった。

4) 子ども 調査基礎集計

中央値は「3」だが最頻値が「4」の項目がいくつかある(資料1「4 基礎集計」赤網かけ箇所)。

5) 子ども 探索的因子分析

4 因子固定で分析したところ, ある程度領域ごとに固まったものの, 固まりに含まれない項目もあり, 4 領域に断定しづらい結果となった。

各領域で因子分析を実施した結果, 認知領域は1 因子に固まった。その他の3 領域は概ね2 因子に固まったが, 固まりに含まれない項目もある。

6) 子ども 相関分析(体力テスト(値・合計得点), 子ども版PLアンケート)

体力テスト(直・合計得点), アンケート項目ともに, 身体領域との相関が高い項目が多かったが, アンケート項目のうちスクリーンタイムに関する項目との相関はどの領域でもほとんど見られなかった。

〈特記事項・意見交換〉

- ・最頻値が4を示す質問項目, 因子分析の結果固まりに含まれない項目は削除して良いか。
- 統計結果に関わらず, PLの概念として必須な項目は採用して良いのでは。また, 簡易版として作成する場合は, 固まりの中で採用する項目を選定し

ても良いかもしれない。

- ・相関分析について, 身長・体重を考慮できるとより良い。
- 予備調査1では身長・体重のデータも取得できている。
- ・二限配置分散分析について, 年代×運動活動量の結果が示せるとより良い。
- ・予想していたよりも体力合計点との相関が高くなかった。また, 中2はメタ認知能力が小5より高いと思われるが, 分析結果では小5の相関の方が高かった。独自のアンケート項目がわかりづらかったかもしれないという点を除き, 分析結果を鑑みると体力テストの代わりにはなり得ないかもしれない。
- ほどほどに相関が高いということは, 体力テストではみることができない項目もPL評価尺度でみることができるという点で, 体力テストと共存できる可能性もあるのでは。

2) ロウデータの確認【資料2】

資料2に基づき, 予備調査1で対象とした児童・生徒から得たデータについて春日班員より報告した。

予備調査1の質問紙回答結果に加え, 体格データ, 体力テスト点数, 学研アンケート結果(小・中で質問項目が異なる), 岐阜県小学校体育研究会/岐阜県中学校体育研究会アンケート結果, 所属クラブを紐付けしたロウデータを得ることができた。一部欠損が見られるが, 全データ保護者の同意を得ており研究に活用することができる。

3) 学習指導要領とPLの関連について【追加資料2】

追加資料1に基づき, 学習指導要領(小・中)の領域別系統表の文言とPLの対応表について, 遠山氏(順天堂大学大学院)より報告した。

39個のPL質問項目すべてにおいて, 学習指導要領上で対応する内容が確認された。また, 複数の項目に関連する内容も存在した。

対応表の制作には約2ヶ月弱の時間を要した。データのほかに, 印刷用に90cm×140cm×5枚程度のポスターを制作した。

〈特記事項〉

- ・PL4 領域は学習指導要領を作成する際の方針と

一致しているわけではないため、複数の項目に関連する内容が存在すると考えられる。

- 学習指導要領との関連性をふまえると、39項目はすべて残しておくべきか。

→39項目の通常版と、因子分析の結果から項目を選定した簡易版の2つ用意し、両方を用いて調査・分析した結果をふまえて簡易版を世に出してはどうか。

→選定した項目で学習指導要領の内容をカバーできれば削っても良いか。

→PLの39項目の内容を反映することが次の学習指導要領の課題ではないか。

→スポーツ基本計画にはPLが明記されている。一方、学習指導要領についてはその明確な記載がないため（結果的にPLの概念に触れられてはいるが）、学習指導要領へPLに関する文言を記載させることが次の課題と考える。

2. 予備調査2の実施計画について

1) 調査の進捗報告【資料3】

資料3に基づき、現在実施している予備調査2の進捗について青野班員より報告した。

岡出班員、青野班員、遠山氏を中心に協力校を集い、小学校26校、中学校11校を対象としたデータを取得できる見込みである。すでに調査用紙を回収できている14校（小学校7校720名、中学校7校656名）の各校の回収率は9割前後であり、今後目標数（500名×男女×2学年）に到達する可能性は高いと考えられる。

〈特記事項〉

- 協力してくれた小学校のうち1校からデータを戻してほしいとの要望があった。

→少なくともローデータと感謝状を各学校へ3月中に送付する。分析が完了次第、報告書のようなものが提供できれば良い。

→PLの概念や本調査結果の概要を分かりやすくまとめたリーフレットを提供できると理想的ではないか。

3. 研究報告書の作成について

資料4に基づき、研究報告書第3報の構成について青野班員より提案した。

原則、3月末を原稿の提出期限とし、下記目次案

の通り構成している。

〈目次案〉【資料4参照】

はじめに

1. 子どもを対象とする日本版 Physical Literacy評価法の検討
 - 1) 予備調査の実施
2. 我が国におけるPhysical Literacyに関する実態調査
 - 1) 高校生を対象とするPL4Lを用いた実態調査
 - (1) 探索的因子分析
 - (2) 相関分析、群間比較
 - 2) 年代比較分析
 - (1) 二元配置分散分析：年代×性別
 - 3) 小中学生を対象とする実態調査（予備調査1）
 - (1) 基礎集計
 - (2) 探索的因子分析
 - (3) 相関分析
 - 4) 学習指導要領との関連（質的調査）
3. 日本版Physical Literacyの定義に関する検討
4. 今後の展望

参考資料～プロジェクト会議 議事録～

〈特記事項〉

- 下記変更が想定されるため、内藤班長、鈴木班員へ相談し、最終的な構成を確定させる。
 - 2. 3)を1.に含める
 - 1.をなくし実態調査を中心の内容とする
 - 3. 4.を一つの章にする
- 予備調査2に関して、第3報に間に合わない分析結果などは次年度の報告書に含める。

4. JSPOサイエンスカフェについて

スポーツ医・科学に気軽に触れることができる場を提供するとともに、日常生活や指導現場で活用できる知見を提供することを目的とし、JSPO公認スポーツ指導者の更新研修として開催しているJSPOサイエンスカフェへ鈴木班員に登壇いただくこととなった。

〈概要〉【資料 5 参照】

- 日時：令和 6 年 3 月12日(火) 18:30～20:10
- 形式：オンライン（オープニング：10分 講義：60分+参加者とのディスカッション：30分）
- 内容：子どものフィジカルリテラシー
- 講師：鈴木宏哉先生（順天堂大学）

〈特記事項〉

- ・報告書を噛み砕いた内容（国内外の動向，学習指導要領や体力テストとの関連性など）や，スポーツ庁委託事業で取り扱った内容（大人PLが子どもの行動に与える影響など）について紹介したい。

5. その他

- 1) 日本版PLの定義に関する検討：次回会議にて検討する。

- 2) 2024年度研究計画の検討【資料 6-1，6-2】

資料 6-1，6-2 に基づき，本プロジェクトの令和 3（2021）～5（2023）年度の実績・計画，令和 6（2024）～8（2026）年度の計画について青野班員より報告した。資料 6-1，6-2 はいずれもスポーツ医・科学委員会で委員を務める内藤班長より報告された資料であり，本プロジェクトは来年度以降 3 年間継続して取り組む研究として予算の内定を得ている。また，JSPO中期計画2023-2027においてスポーツ医・科学事業で取り組むべき 3 つの事業に位置付けられていることから，2027 年まではJSPOとして本プロジェクトを継続的に取り組む意思を持っている。

〈特記事項〉

- ・令和 3（2021）年度～令和 5（2023）年度の実績や変化をふまえ，喫緊の，あるいは中期的に取り組むべき課題について班員各位から意見を収集し，次年度以降の計画を固めたい。

- 3) 今後の課題

- ・予備調査 2 の報告（次回会議or次年度 1 回目の会議で報告）
- ・研究報告書の作成
- ・日本版Physical Literacyの定義に関する検討

- ・2024年度～研究計画の検討

- 4) その他

- ・次回会議において，第 3 報の原稿やJSPOサイエンスカフェにおける参加者とのディスカッションで得た意見等をふまえ，次年度以降の計画を検討したい。
- ・予備調査における学校現場の負担感も調べられると良い。今後，現場への啓発や学習指導要領の改訂へ向けた取り組みができると良い。
- ・学校現場だけでなく競技団体における調査を実施できると良い。

配付資料：

1. 予備調査 1 ～PL×体力分析結果
2. 予備調査 1 ～ロウデータ
3. 予備調査 2 ～進捗報告
4. 令和 5 年度研究報告書～目次案
5. JSPOサイエンスカフェ～開催要項
6. 令和 6 年度事業計画

参考. 令和 5 年度第 4 回会議 議事録

追加 1. JSPOデータ（20240227会議資料）

追加 2. 学習指導要領とPL改訂版2024.2.21

Physical Literacy (PL) 評価尺度の開発

令和 5 年度プロジェクト会議 # 6 議事録

日時：3/23(土) 15:00～17:00

会場：JSPO12Fスタジアム/オンライン

議題：

1. JSPOサイエンスカフェの開催について【資料 1】

令和 5 年度第 7 回JSPOサイエンスカフェ（第 4 期）において，「子どものフィジカルリテラシー」をテーマとして開催した。資料 1 に基づき，講師を務めた鈴木班員より報告がなされた。

〈概要〉

- ・日 時：令和 6 年 3 月12日18:30～20:10
- ・テーマ：子どものフィジカルリテラシー
- ・講 師：鈴木宏哉先生（順天堂大学）
- ・参加者：162名（主にJSPO公認スポーツ指導者）

- ・講義資料:資料1, 研究報告書(第1報, 第2報)
〈担当講師からの感想〉
- ・参加者とのディスカッションでは、フィジカルリテラシーという言葉への馴染はなく、今回の講義を通じて知りたいと思っている前向きな参加者が多い印象を受けた。
- ・幅広いバックグラウンドを持つ指導者達へ普及していくためには、「フィジカルリテラシー」という表記は難しいのではないかという印象を得た。

2. 予備調査2の実施について

予備調査2の実施について、青野班員、鈴木班員、松永氏(順天堂大学大学院)より報告がなされた。

1) サンプルング【資料2-1】

岡出班員、遠山氏(順天堂大学大学院)が窓口となり、小学校23校1,594名(会議後の確定数)、中学校11校1,384名に協力いただき、当初目標(小学校1,000名、中学校1,000名)を超えるサンプルを集めることができた。

2) 基礎集計結果の報告【追加資料(スライド7)】

会議日時点で入力完了している約2,100件のデータについて基礎集計を行った。

残り約700件のデータを反映させた基礎集計の結果を本年度の研究報告書へ掲載する。

〈基礎集計〉

- ・各領域の合計点:度数, 平均値, 標準偏差, 最小値, 最大値
- ・各質問項目:有効数, 欠損数, 平均値, 標準偏差, 中央値, 最頻値, 最小値, 最大値, 各回答の割合

〈特記事項・その他意見〉

- ・小学校5年生は欠損数が最も多かった。欠損となった回答例は下記の通り。
例1) 1週間における中高強度の身体活動の実施日数を問う質問項目において「○」の数と合計数(「○」の合計数を書かせる)が一致しない。
例2) 日数を回答させる質問項目において「2～4日」等と回答している。
例3) サッカーだけはそう思う等、競技や場面を限定して回答している。
- ・全国体力・運動能力, 運動習慣等調査との比較

ができると良い。

- ・質問紙は「とてもそう思う=1～まったくそう思わない=4」と表記しているが、基礎集計では「とてもそう思う=4点～まったくそう思わない=1点」として集計している。

3) 総合評価の方法

総合評価の方法について協議した。

- ・案1 PL合計=52点+28点+40点+36点=156点
- ・案2 PL得点率=○/52*100+○/28*100+○/40*100+○/36*100 = 400点
- ・案2-1 領域ごとの得点率 例) 身体領域得点率 ○/52*100 (%)
- ・案3-1 領域内の重み付け得点法(因子負荷量, 第1主成分)
- ・案3-2 領域間の重み付け有無

〈特記事項・その他意見〉

- ・案1は身体領域の得点の影響が大きい。領域ごとの得点率で評価する方法(案2-1)が個人へのフィードバックという点では望ましいのではないか。
- ・フィードバックする際は、4領域の得点率をレーダーチャートで示せると良い。
- ・厳密に分析するには領域内で項目ごとの重み付け(案3-1)が必要ではないかと考えるが、現場の活用を考えるとハードルが高いかもしれない。
- ・総合評価の要否についても検討する。

4) 追加分析の実施【追加資料(スライド1～6)】

予備調査1のデータ(学年性別混合)について、探索的因子分析の結果をふまえ、各領域において下記の通り項目を削除して確認的因子分析を実施したところ、1因子に適合した。

- ・身体的領域…13項目から2項目(身体的領域9[柔軟性], 11[筋力])を削除
- ・心理的領域…7項目から1項目(心理的領域4[自己認識])を削除
- ・社会的領域…10項目から2項目(社会的領域4[寛容の精神], 9[スポーツ環境への配慮])を削除
- ・心理的領域…項目の削除なし

〈特記事項〉

- ・身体領域 9, 11は男女差が影響しているのではないかと考える。

5) お礼状の発信【資料 2-2, 2-3】

予備調査 1, 2 の協力校に対するお礼状の送付について青野班員より提案がなされ、協議の結果、学校宛、子ども宛の 2 種類を送付することとなった。

なお、当初は感謝状の送付を検討していたが、JSPO 規程により感謝状として発信できないことが判明したため、スポーツ医・科学委員長名発信のお礼状とする。

- ・学校宛：台紙へ印刷し、各学校 1 枚送付する。校長室や職員室に飾られる想定。
- ・子ども宛：普通紙へ印刷し、各学級数送付する。教室に飾られる想定。小学 5 年生宛に適当な表現に修正する（ルビ振り、文言の変更など）。
- ・同梱物：リファレンスブック 1 冊、JSPO-ACP ガイドブック 3 冊を贈呈する。
- ・送付時期：年度内

3. 研究報告書の作成について【資料 3】

1) 目次案

資料 3 の通り目次案を提案し、承認された。

- ・第 1 章 我が国における Physical Literacy に関する実態調査：鈴木班員、松永氏
- ・第 2 章 学習指導要領と Physical Literacy：遠山氏、鈴木班員、岡出班員
- ・第 3 章 まとめ：内藤班長 ※ 3 年間の検討結果と次年度へ向けた課題

2) 作成スケジュール

- ・原稿提出締め切り：4 月 15 日（月）
- ・校了：4 月中
- ・研究報告書納品：5 月上旬（GW 明け）

3) 学習指導要領と PL 対応表について（遠山氏）

- ・岡出班員からのフィードバックを受け、現在修正中である。岡出班員の助言のもとデルファイ法を用いることとし、4 月以降、関氏（スポーツ庁）、過去の教科調査官（保健・小学校体育）、本研究プロジェクト班員に確認いただき完成させる予定。
- ・本年度の研究報告書では、下記 2 種類の表を掲

載して報告することとしたい。

- ① PL の領域、要素、内容と学習指導要領の領域（体づくり運動系、機械運動系など）を並べ、該当する学習指導の領域に「○」をつけた表（小学校低学年、小学校高学年、中学校 1 ～ 2 年生、中学校 3 年生ごと）。※p 7 ①参照
- ② PL の領域、要素、内容と学年を並べ、該当する学年に「○」をつけた表 ※p 7 ②参照
修正作業が終わり次第、班員各位へ共有する。

〈特記事項・その他意見〉

- ・学習指導要領の 3 つの柱からなる資質・能力（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」）が、PL の複数の領域にまたがっている場合がある。学習指導要領の解説書を再度確認して対応表を完成させていく必要がある。
- ・PL の考え方を今後の学習指導要領に反映させていくことが重要であるとする。この対応表を作成することにより、学習指導要領の改定へ向けて現行の学習指導要領に不足している要素や要素の偏りを指摘できると良い。
- ・本プロジェクトで検討した PL の要素を学習指導要領の内容に合わせていくのか、学習指導要領の内容を PL の要素に合わせていくのか、両方向の検討が必要であるとする。場所とのつながり（身体活動の日常化）など学習指導要領で不足している PL の要素を対応表で可視化したうえで、次の課題として JSPO リファレンスブックで掲げられている内容（グッドプレーヤー像等）と PL 要素の関係性についても確認できると良い。
- ・学習指導要領の作成過程では PL の 4 領域の観点から整理する作業も行われているが、他教科との兼ね合いや授業時間の制限がある体育の授業の中で現実的に成果が期待できる内容に絞り込まれている。また、教科ごとではなく、学校教育全体で育むべき資質・能力の枠組みに従って作成されるため、その枠組みに 4 領域を振り分ける作業が必ず発生すると考えられる。さらに 21 世紀スキル等に方向付けられていき、今までの内容とのすり合わせの過程で 4 領域が見過ごされてしまうリスクがある。その点では、この対応表が学習指導要領に不足している要素や抜けている要素を確認する基準

となり得る。一方で、現実的に限られた授業時間で収められる内容であるかは考えなければならない。

4. 日本版フィジカルリテラシーの定義について【資料4】

1) 日本版フィジカルリテラシー

資料4に基づき、令和3～5年度に検討した日本版フィジカルリテラシーの定義や概念について確認がなされた。

- 4領域（身体領域、心理（感情）領域、社会領域、認知領域）により構成される。
- 体育・スポーツに関する幅広い領域をカバーできる概念とする。
- 健康で幸福な生活を送るうえで必須となる素養としてPLを評価する。スポーツをする人もしない人も身につけるべき素養としてのPLであり、例えば身体領域だけが高ければいいという訳ではない。
- 4領域39要素で構成される小・中学生を対象とするPL評価尺度を開発した。簡易版として、39要素の一部を用いた「体育のための（学習指導要領に基づく）基礎的素養」や「競技スポーツのための応用的素養」を作成し、ターゲットを絞った啓発を行うことも想定される。

2) 日本語表記

日本語表記について挙げられた下記の意見をふまえ、本年度の研究報告書第3章において今後の方向性を示す。

〈班員からの意見〉

- 「リテラシー」は市民権を得てきていると感じており、「素養」よりも情報運用能力までも含めた広義な意味を持っているのではないかと考える。一方で「フィジカル」は4領域を包含できる表現であると考えにくいので、「フィジカルリテラシー」と表記するのであれば、フィジカルが4領域を包含するものだとしっかりと定義する必要がある。
- アメリカではliteracyと表記すると狭義に捉えられる。70年代のドイツでは、sportは科学領域、研究領域、文化領域として存在していたため、社会的な認知を得るにはphysicalではなくsportという表記が使われていた。イギリスでは、Whitehead

氏が心身一如の考えを発信し、physicalを使うことで人間が多様な可能性を持つことができるということを言うために「physical literacy」という表記を意図的に用いて定着させていった。どの表記になったとしても、4領域で構成されているという定義付けが重要であると考える。

- 日本スポーツ協会が開発したものであることから「スポーツリテラシー」という表記はどうか。スポーツ基本法においても、スポーツは日常での身体活動も含むものと広義に定義されており、現場で受け入れられやすいのではないかと。「フィジカル」や「身体」は他領域に比べ身体領域の印象が大きく感じられるのでは。
- 陸上競技連盟の競技者育成指針では、心身一如や心体一元論の考えのもと「身体リテラシー」と表記することとなった。「スポーツリテラシー」という表記は、スポーツとの関係が浅い人がどのように受け止めるのかと言う点に懸念があるため、「フィジカル」や「身体」の表記の方が広義に受け取りやすいのでは。
- 「我思う、故に我在り」→「我動く、故に我在り」という観点から、「身体リテラシー」や「フィジカルリテラシー」という表現が、啓発しやすいのではないかと。
- SportがSportsよりも広義な意味を持つことを説明し、「スポーツリテラシー」で市民権を得ていくのも良い。一方で、「身体リテラシー」の方が身体の動きにまつわると言うことが伝わりやすいのかもしれない。
- 教育現場では「スポーツ」より「運動」という表記が受け入れやすいと考えるため、「運動リテラシー」という表現も良いのでは。
- 子どものためのフィジカルリテラシーと言う意味では、アクティブ チャイルド プログラムと関連付けて「アクティブ チャイルド リテラシー」という表記も考えられるが、年齢を限定せず生涯にわたって身につけるものとするならば「アクティブ ライフ リテラシー」が想定される。
- JSPO中期計画2023-2027年の重点項目に位置付けられている5年間はフィジカルリテラシーとし、2028年までに「スポーツリテラシー」が市民権を得ることを目標に進めてはどうか。

- ・研究報告書第3報における「まとめ」では、以上のような協議内容や今後の見通しについて記載することとする。

5. 令和6年度～研究計画について【資料5】

令和6年度以降研究計画について、資料5-2の通り報告がなされた。資料5-1、5-2は翌週に開催される令和5年度第3回スポーツ医・科学委員会において報告する予定である。

〈令和6年度以降の課題〉

- 1) 小学1～4年生を対象とする評価尺度の利用可否

→小学1年生～中学3年生を対象とする評価尺度の完成

- 2) 小中学生を対象とする大規模調査の実施とその現状把握

→学年毎の達成度を調査する

→いつまでに身につけるべき素養か

→誰もが身につけてもらいたい素養として評価する（得点が高ければ良いという訳ではない）

- 3) 幼児および青年期以降を対象とする評価尺度の開発と信頼性・妥当性の検証

→年代・性別の違いによるフィジカルリテラシーの特性を明らかにする

→フィジカルリテラシーに影響を及ぼす要因について検討する

→全年代を対象とする日本版フィジカルリテラシー評価尺度の完成、実態把握

- 4) フィジカルリテラシーに関する普及・啓発の検討

→スポーツ指導者が身につけるべき“フィジカルリテラシーに関する基礎知識”

→ジュニアスポーツの場面においてはACP実践に係る効果検証の一手段

→各種体カテストの項目としての活用

- 5) 国際比較研究への展開

〈上記以外に班員から挙げられた課題〉

- ・親のフィジカルリテラシーと子どものフィジカルリテラシーの関係しているのか。
- ・少年団の子どものフィジカルリテラシーは高いのか。

6. その他

- 1) 今後の課題（次回会議までの課題）

- ・研究報告書の作成

配付資料：

1. JSPOサイエンスカフェ配付資料
2. 予備調査関連資料
3. 令和5年度研究報告書～目次案
4. 日本版フィジカルリテラシー定義の検討に関わるメモ

5. 令和3～5年度・令和6年度～事業計画

参考. 令和5年度第5回会議 議事録

追加. 基礎集計・追加分析報告（スライド1～7）

●学習指導要領とPL対応表①

※「○」はダミー、学年ごとに作成

領域	要素	内容	増つくり運動系	基礎運動系	陸上運動系	水泳運動系	ボール運動系	表現運動系	武道
小学校低学年	運動遊び	体を動かす楽しさ							
	運動を学んだ経験	運動を学んで経験すること							
	運動の楽しさ	運動を学んで経験すること							
	全身持久力	スタミナ							
	運動心	一定の力を出し続けること							
	運動力	運動力							
	身体性	リズムある体の動き							
	安定性	バランスをとる動き							
	敏捷性	素早い身のこなし							
	力	力強さ							
小学校高学年	運動遊び	体を動かす楽しさ							
	運動を学んだ経験	運動を学んで経験すること							
	運動の楽しさ	運動を学んで経験すること							
	全身持久力	スタミナ							
	運動心	一定の力を出し続けること							
	運動力	運動力							
	身体性	リズムある体の動き							
	安定性	バランスをとる動き							
	敏捷性	素早い身のこなし							
	力	力強さ							
中学校	運動遊び	体を動かす楽しさ							
	運動を学んだ経験	運動を学んで経験すること							
	運動の楽しさ	運動を学んで経験すること							
	全身持久力	スタミナ							
	運動心	一定の力を出し続けること							
	運動力	運動力							
	身体性	リズムある体の動き							
	安定性	バランスをとる動き							
	敏捷性	素早い身のこなし							
	力	力強さ							

●学習指導要領とPL対応表②

※「○」はダミー

領域	要素	内容	低学年	中学年	高学年	中学1-2年	中学3年
小学校	運動遊び	体を動かす楽しさ					
	運動を学んだ経験	運動を学んで経験すること					
	運動の楽しさ	運動を学んで経験すること					
	全身持久力	スタミナ					
	運動心	一定の力を出し続けること					
	運動力	運動力					
	身体性	リズムある体の動き					
	安定性	バランスをとる動き					
	敏捷性	素早い身のこなし					
	力	力強さ					
中学校	運動遊び	体を動かす楽しさ					
	運動を学んだ経験	運動を学んで経験すること					
	運動の楽しさ	運動を学んで経験すること					
	全身持久力	スタミナ					
	運動心	一定の力を出し続けること					
	運動力	運動力					
	身体性	リズムある体の動き					
	安定性	バランスをとる動き					
	敏捷性	素早い身のこなし					
	力	力強さ					

令和 5 年度 日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告Ⅱ
身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度の開発 - 第 3 報 -

◎発行日：令和 6 年 4 月 30 日

◎編集者：内藤 久士（身体リテラシー（Physical Literacy）評価尺度の開発研究班長）

◎発行者：公益財団法人日本スポーツ協会 <https://www.japan-sports.or.jp>

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号

JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

◎印刷：日本印刷株式会社 <https://www.npc-tyo.co.jp/>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 4-41-24
